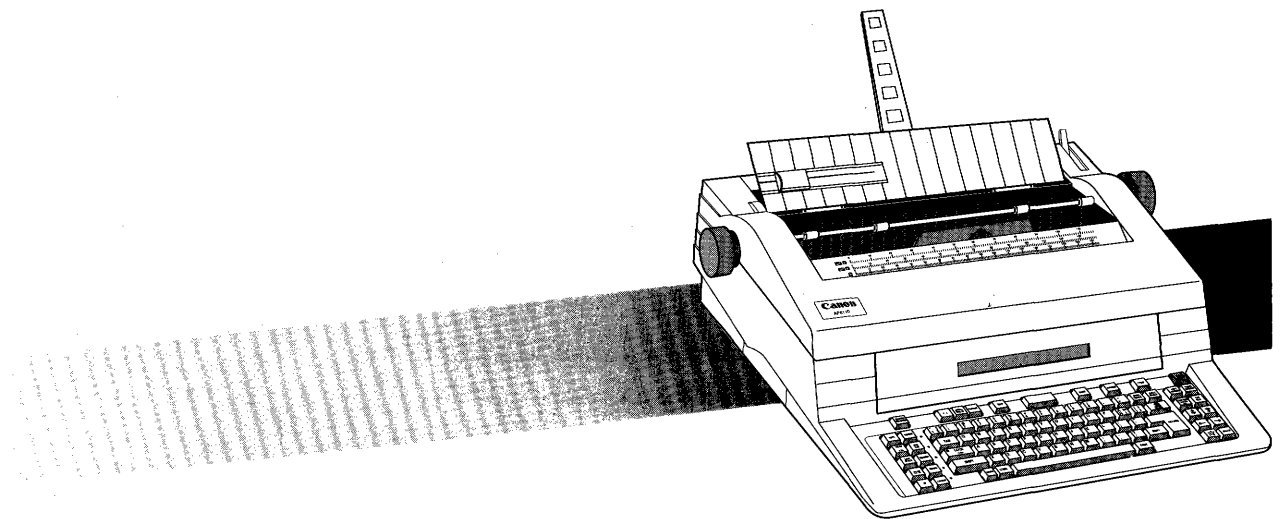


Canon
ELECTRONIC TYPEWRITERS

AP 6110

使用説明書



JAPANESE

安全上の重要事項

- 1) このページの重要事項を必ず全部お読みください。
- 2) 同梱されている取扱説明書は大切に保管してください。
- 3) 製品上に表示されている注意事項には必ず従ってください。
- 4) 近辺に水のある場所でタイプライタを使用することは避けてください。
- 5) 不安定な台車やスタンド、テーブルなどの上に置くと落下して損傷することがありますので、ご注意ください。
- 6) 電源コードの上には何も置かないでください。タイプライタを、人の歩く場所に置かないでください。
- 7) ラベル表示に従った電源のコンセントに接続してください。適切な電圧、電流がわからないときは、最寄りのキヤノン販売店か電力会社にご相談ください。
- 8) コンセントの近くでタイプライタを使用してください。
- 9) 延長コードをご使用の場合は、接続されている機器すべての定格電流の合計が、延長コードの許容電流値を上回らないように気を付けてください。
- 10) ケガ防止の為に、子供たちに電気接点やギア部に触れぬように指導してください。
- 11) 本製品の電源コードプラグには接地用のピンが付いていますので、接地タイプのコンセントに差し込んでください。これは安全面を考えた上での特長ですので、適切なコンセントがない場合は、電気工事会社に依頼してコンセントを替えてください。
- 12) キャビネットの穴などから物を押し込まないでください。危険な高電圧部に接触したり部品がショートして火事や感電をまねく恐れがあります。
- 13) タイプライタのキャビネットや背面、底面には通気用の穴があります。製品を安心してお使いいただくために、また過熱を避けるために、この穴をふさがないでください。特に、ベッドやソファ、敷物などでふさがないでください。また、暖房器具の近辺には絶対に置かないでください。
- 14) カバーなどを開けたり取り外したりすると、高電圧部分に触れたりその他の危険の生じる恐れがありますので、タイプライタをご自分で修理しないでください。修理サービスはすべてサービス担当者にお任せください。
- 15) 次のような状態の時は、コンセントから電源コードを抜き、資格のあるサービス担当者にサービスを依頼してください。
 - a) 電源コードやプラグに損傷やほつれが見られたとき
 - b) 液体をタイプライタの上にこぼしてしまったとき
 - c) 雨や水にさらされたとき
 - d) 使用説明書に従っても通常に作動しないとき。説明書に記載された箇所のみを調整してください。それ以外の部分を不適切に調整すると、損傷の原因となり、後で資格のある技術者が修理するときに、かえって時間がかかってしまいます。
 - e) タイプライタを落としてしまったり、キャビネットを損傷してしまったり
 - f) タイプライタの性能に著しい変化が見られ、サービスを必要とするとき
- 16) トラブル発生時（発煙、発火、異音）には速やかに電源コードをプラグから抜いてください。また、速やかにプラグを抜けるように、コンセントの回りには物を置かないようにしてください。
- 17) タイプライタの手入れを行う前に、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。手入れの際は、液体やエアゾールタイプのクリーナーを使わず、湿らせた布で拭き取ってください。

この装置は、第一種情報装置（商工業地域において使用されるべき情報装置）で商工業地域での電波障害防止を目的とした情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）基準に適合しております。

従って、住宅地域またはその隣接した地域で使用すると、ラジオ、テレビジョン受信機等に受信障害を与えることがあります。

取扱い説明書に従って正しい取扱いをして下さい。

AP 6110

使用説明書

使用説明書追記

キャノン電子タイプライタ AP6110

AP6110をご使用になる前に両面をお読み下さい。
なお、当追記は使用説明書にはさんで保管して下さい。

専用キーに関する追加機能

以下の専用キーを押した場合、ピッと短い音が鳴ります。
[IMPR], [PITCH], [LINE SPACE], [X X/XX], [XX]

(5 ページ)

オペレーションモードの追加

文字印字モードでタイプした場合でも、通常タイプされた文字はディスプレイ上に表示されますが、この表示を行なわせないためのモードです。

[CODE] + [CODE] + [SHIFT] + [D]

- ・ピッピッピッと音が三回鳴ると表示がオンになっていることを示します。
- ・ピッと音が一回鳴ると表示がオフになっていることを示します。
- ・ここでの設定は、電源を切った後でも保持されます。

(13ページ)

目次

安全上の重要事項 機能一覧	3
------------------	---

PART 1-タイピングの前に

各部の名称と機能	4
キーボード	5
キーボードのレイアウト	5
専用キー	5
UNDOキー	5
ディスプレイ	6
ディスプレイコントラストの調整	6
ディスプレイの特長	6
取扱上の注意	7
表記について	7
消耗品・部品の交換	8-11
リボンカセット	8
コレクションテープ	9
デジージェット	10
電池	11

PART 2-タイピングの基本操作

モードの選択	12-15
改行モード	12
オペレーションモード	13
行ピッチモード	13
文字ピッチモード	14
印字圧モード	14
キーボードモード	14
印字スタイル	15
キャプスロック	15
自動給紙・排紙	16
自動給紙	16
自動排紙	16
用紙の行送り・行戻し	17
1/4行送り・1/4行戻し	17
微量行送り	17
キャリア位置	17-19
キャリアの微量送り	18
フォワードスペース	18
バックスペース	18
バックトレース	19
キャリアのリロケート	19
文頭へのキャリア移動	19

マージン/タブ	20-22
タイピング開始行（トップマージン）	20
左マージン・右マージン	20
自動ページエンド	21
タブ	22
その他のマージン機能	23
ホットゾーン	23
ワードラップ	23
パーマネントスペース	23
印字された文字の訂正	24-26
自動訂正	24
マニュアル訂正	25
ディスプレイ上の訂正	26

PART 3-タイピングの基本機能

センタリング	27-28
マージン間のセンタリング	27
タブ間のセンタリング	27
指定点を中心としたセンタリング	28
右寄せ	28
インデント	29
左インデント	29
ブロックインデント	29
作表	30-38
デシマルタブ	30
コラムレイアウト	32
縦線	34
枠取り	35
特殊文字	39
サブスクリプトとスーパースクリプト	39
重ね印字	39
拡張スペース	39

PART 4-自動タイピング機能

自動封筒フォーマット	40-41
封筒フォーマットの設定	40
封筒フォーマット設定の使い方	41
自動アドレスプリント	42
自動再プリント	43

目次

PART 5-フォーマット機能

ページフォーマット	44-45
ページフォーマットの保存と編集	44
登録済ページフォーマットの実行	45
ストップポジションフォーマット	46-48
ストップポジションフォーマットの登録・呼び出し	46
登録済ストップポジションフォーマットの実行	47
ストップポジションフォーマットの削除	48

PART 6-メモリ機能

フレーズメモリ	49-50
フレーズの入力・登録	49
登録済フレーズの印字	50
登録済フレーズの削除	50
テキストメモリ	51-62
文書内でのカーソル移動	51
ディスプレイ上の記号	51
テキストメモリ残量の表示	51
文書の入力・登録	52
文書の呼び出し・編集	52
ブロックオペレーション	57
登録済文書の印字	60
登録済文書の削除	61
登録済文書のタイトル変更	61
登録済文書のコピー	62
タイトルライブラリの印字	62
ストップコード	63
ストップコードの入力	63
ストップコードを使った文書の印字	63
サーチ（検索）・リブレース（置き換え）	64-66
サーチ（検索）	64
サーチ（検索）・リブレース（置き換え）	65
グローバルリブレース（全検索と置き換え）	66

PART 7-メールマージ機能

メールマージ	67-71
メールリストの作成	67
レコードの削除	69
メールリストの削除	69
オリジナルレターの作成と登録	70
メールマージの実行	71

PART 8-スペルチェッカ/コレクタ

辞書	72-73
メイン辞書	72
ユーザ辞書	72
スペルチェッカ	74
キー配列	74
スペルチェック	74
スペルスキャン	74
スペルコレクション	75

PART 9-キーボードのマルチリンガル変換

ディスプレイメッセージとキー配列の変更	76
キー配列	77-80

PART 10-付録

オプション	81-84
スペルチェッカ/コレクタパック	81
インターフェースユニット	82
拡張RAM	82
カットシートフィーダ	83
トラブルシューティング	85
アラームが鳴って操作できない場合	86
ディスプレイメッセージ	87
日常の手入れ	87
プラテンの着脱	88

索引

索引	89-90
----	-------

クイックリファレンス

クイックリファレンス	91-95
------------	-------

製品仕様
商品構成

Ms. Connie Stone
S.F. Investigations
123 Orange Street
San Diego, CA 92131

Dear Ms. Stone:

Thank you for selecting DeBell Long Distance Service from among the many long distance services available.

We are confident that DeBell Long Distance Services can provide you with features and discounts unmatched by any other communications service. Below is a listing of just a few of the discounts you will be receiving once your service begins. You may note that our everyday discounts offer much more "best calling time" flexibility and opportunity than any other long distance service. In addition, we will keep you informed of our frequent special savings offers.

BEST CALLING TIME SAVINGS

San Diego to:	Mon - Fri 8:00 AM - 5:00 PM (per minute)	Mon - Fri "after hours" (per minute)	Sat/Sun/Holidays before 10:00 AM (per minute)	Sat/Sun/Holidays After 10:00 AM (per minute)
Australia	\$2.09	\$1.29	\$1.09	\$1.29
Canada	\$1.25	\$.55	\$.45	\$.55
London	\$1.49	\$.69	\$.59	\$.69
Paris	\$1.49	\$.69	\$.59	\$.69
Tokyo	\$1.95	\$1.15	\$.95	\$1.15

Savings are available for areas other than those listed above. In addition, other conditions may apply which may further reduce your calling costs.

If you have any questions regarding any of our services, please do not hesitate to contact us. Our representatives are available to assist you at any time, from any where in the world, 24 hours a day.

From:
Inside California
Outside California

Call:
1-800-555-9890
1-800-555-1000 or
1-619-555-2000

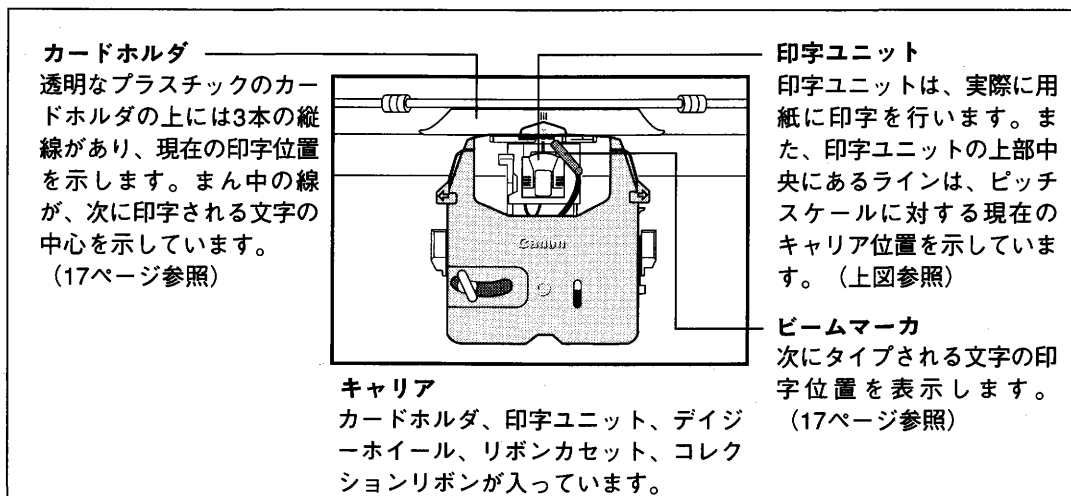
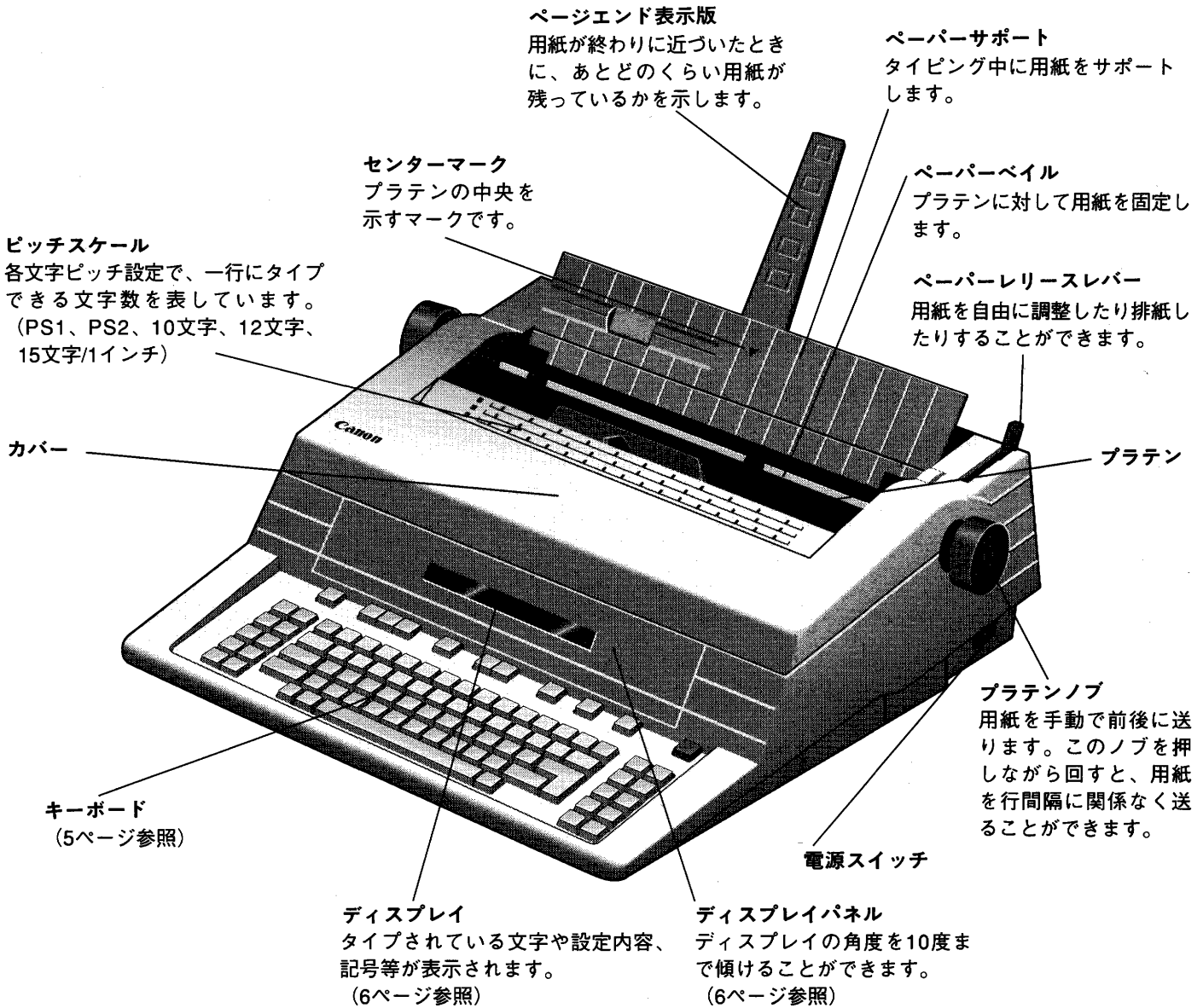
The staff at DeBell Long Distance Services guarantees that you and your company will always receive efficient and friendly service. Again, we are pleased that you have selected us to help you meet your communication needs, and we look forward to working with you.

Sincerely,

D.F. Bell
Director of Sales

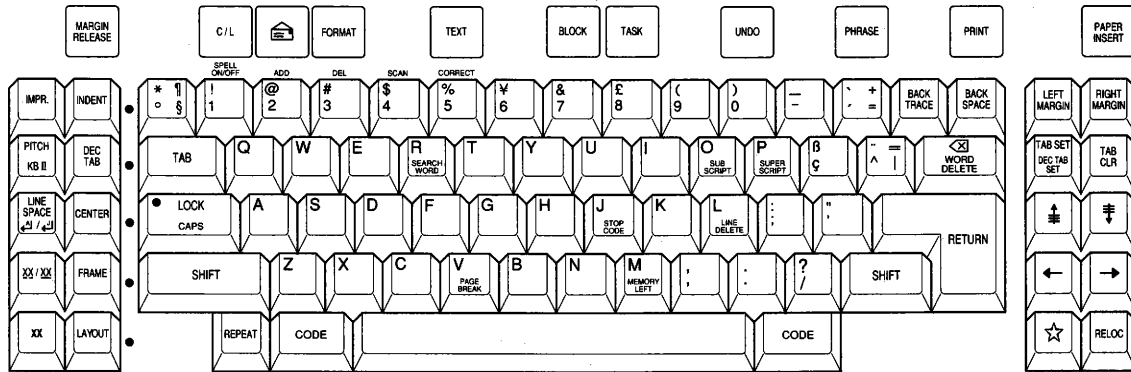
PART 1-タイピングの前に

各部の名称と機能



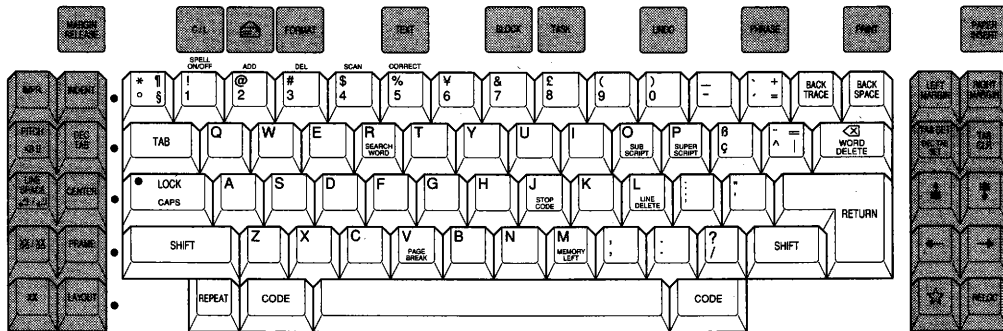
キーボード

■キーボードのレイアウト



■専用キー

専用キーを使ったり、専用キーとCODEキーを組み合わせると、特定の機能をオン/オフします。



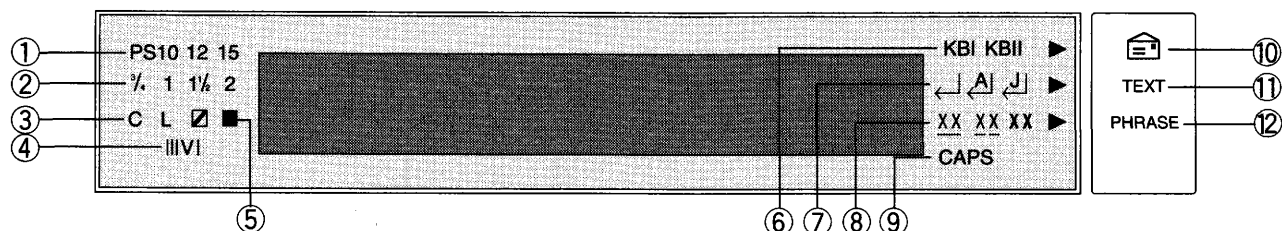
■UNDOキー

UNDOキーは、本説明書に記載された様々な操作をキャンセルするために使用する専用キーです。



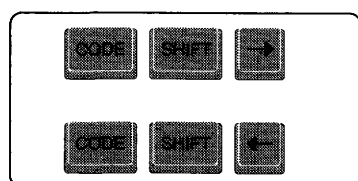
[UNDO]キーを押すと、特定の機能を中止、または終了することができます。

ディスプレイ



■ディスプレイコントラストの調整

ディスプレイのコントラストを調整します。



[CODE]キー、[SHIFT]キー、[→]キー*を同時に押すと、コントラストの度合いが強くなります。

[CODE]キー、[SHIFT]キー、[←]キー*を同時に押すと、コントラストの度合いが弱くなります。

* 見やすいコントラストになるまで、このキー操作を続けてください。

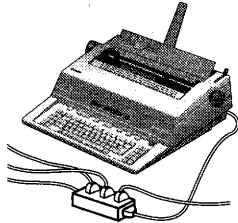
• ディスプレイパネルの上部両端を押すと、ディスプレイを10度まで傾けることができますので、見やすい角度に調整してください(4ページ参照)。

■ディスプレイの特長

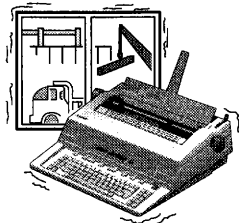
- ① 文字ピッチモード： 現在の文字ピッチを表示します。(PS 1, PS 2, 10, 12, 15) (14ページ参照)
- ② 行ピッチモード： 現在の行ピッチを表示します。(%, 1, 1½, 2) (13ページ参照)
- ③ オペレーションモード： 現在のオペレーションモードを表示します。(C, L) (13ページ)
- ④ 印字圧モード： 現在の印字圧を表示します。(I, II, III, IV, V) (14ページ参照)
- ⑤ リボンモード： 現在のリボンモードを表示します。(☑, ■) (9ページ参照)
- ⑥ キーボードモード： 現在のキーボードモードを表示します。(KBI, KBII) (14ページ参照)
- ⑦ 改行モード： 現在の改行モードを表示します。(↵, ↵, ↵) (12ページ参照)
- ⑧ 印字スタイル： どの印字スタイルが使用されているかを表示します。(XX, X X, XX) (15ページ参照)
- ⑨ キャプスロックモード： キャプスロックモード使用中に、"CAPS"が表示されます。(15ページ参照)
- ⑩ ㊦： 封筒フォーマット機能使用中にマーカーが表示されます。(40-41ページ参照)
- ⑪ TEXT： テキストメモリ機能使用中にマーカーが表示されます。(51-62ページ参照)
- ⑫ PHRASE： フレーズメモリ機能使用中にマーカーが表示されます。(49-50ページ参照)

取扱上の注意

キヤノン電子タイプライタをお使いいただく際は、次のことにご注意ください。



- 電気ノイズによる誤操作を防ぐため、他の機器と同じコンセントを使用することは避けてください。

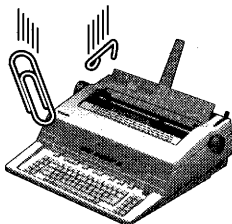


- ほこりの多い場所や振動の大きな場所でのご使用は避けてください。

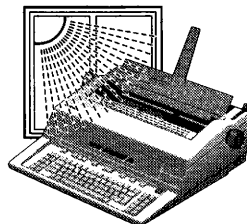


- 高温・多湿の場所での使用は避けてください。

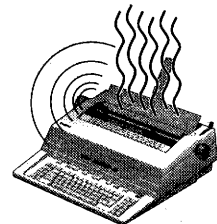
使用温度範囲 10°C-35°C
使用湿度範囲 20%-85%



- 機械の中に物を落とさないようにしてください。特に金属性の物（クリップやホッチキスの針など）は、故障の原因になることがあります。





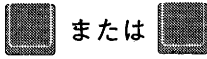
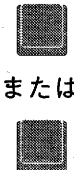
- 直射日光の当たらない場所をお選びください。



- 異常（例：発煙、異臭、異音など）が生じた場合、すみやかに電源プラグをコンセントから抜いてください。電源プラグが抜けるように、コンセントのまわりには物を置かないでください。

表記について

本書では、説明をわかりやすくするためにキー表示を使用しており、以下の表は、様々な操作を実行する上でのキー操作方法を表しています。

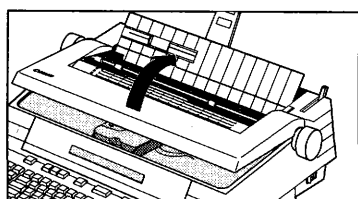
	<p>CODEキーとの組合せ CODEキーを押しながら、該当するキーを押します（両方のキーを同時に押します）。</p>
	<p>CODEキー、SHIFTキーとの組合せ CODEキーとSHIFTキーを押しながら、該当するキーを押します（3つのキーを同時に押します）。</p>
	<p>キーの選択 ひとつのステップの中で、ある操作を行うのに、どちらかのキーを押します。</p>
	<p>手順の選択 2つのステップのうちの片方のステップを選択するときに、どちらかのキーを押します。</p>

消耗品・部品の交換

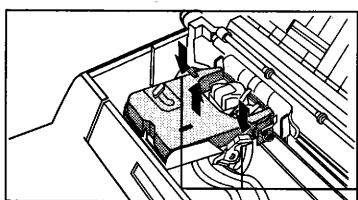
■リボンカセット

リボンカセットには、コレクタブルリボン、シングルストライクリボン、マルチストライクリボン、ファブリックリボンの4種類があります。種類が一目でわかるように、リボンカセットのリボン送りダイヤルに色が付いています。リボンを取り付けると、そのリボンに該当するリボンモードが自動的に設定されます。カセットのリボンがなくなると、ビームマークが点滅して、ディスプレイに "Ribbon end!" (リボンが使い切られています) が表示されます。

リボンカセットの交換：



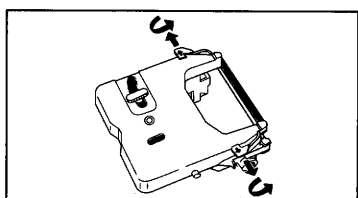
1] タイプライタカバーを開けます。



2] 両側のカセットリリースレバー（緑色）を同時に下に押しします。

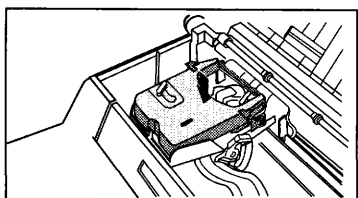
3] コレクションテープブラケットと一緒にカセットをまっすぐ上に取り外します。

カセットリリースレバー



4] コレクションテープブラケットの両端のタブをつまんで外側に引っ張り、そのまま前方に押し下げて、カセットを取り外します。

5] 新しいリボンカセットをブラケットに差し込み、ホルダがカチッと鳴って固定するまで押し込みます。



6] リボンカセットを、まず下半分（手前側）が正しい位置にはまるように取り付け、カチッと音がするまで、リボンカセットの上半分の両わきを軽く押しします。

- リボンがリボンガイドとカードホルダの間に入るように取り付けてください。
- リボン送りダイヤルを時計と逆方向に回して、リボンのたるみを取ってください。

7] タイプライタカバーを閉じます。

リボンの上下時間の調整：

リボンの上下時間は、リボンが印字のために一旦持ち上げられた後、元の位置に戻る速さを決定します。この速さは1（速い）-5（遅い）の中から選択できます。どのタイピング速度を選んでも、実際のタイピング速度には影響しません。



タイプ (1-5)

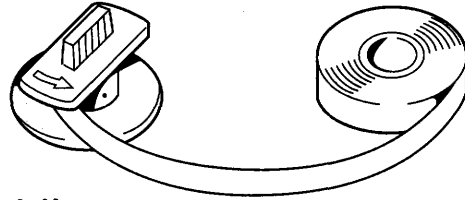
1] [CODE]、[SHIFT]、[T]キーを押します。

2] 設定したいタイミング (1-5) を選んで、そのキーを押します。

- 1（速い）を選ぶと、リボンがすぐに元の位置に戻ります。逆に5（遅い）を選ぶと、タイピングの音が小さくなります。このタイミングは、本機を初めてお使いになる場合は3（中程度）の速さに設定されています。

■コレクションテープ

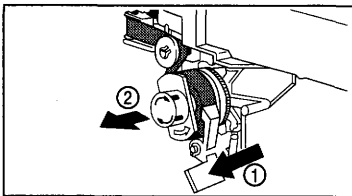
コレクションテープには、リフトオフテープ（コレクタブルリボン用）とカバーアップテープ（マルチストライクリボン用）の2種類があります。お使いになるリボンカセットに合ったコレクションテープをお選びください。（下記の表参照）



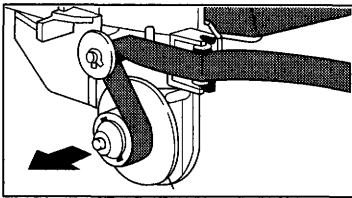
コレクションテープの交換：

1] タイプライタカバーを開けてリボンカセットを取り外します。（8ページ参照）

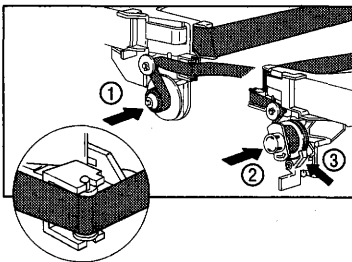
2] 緑のストッパーレバーを押して、コレクションテープを取り外します。



3] 空になった供給側スプールをピンからスライドさせて取り外します。



4] 新しいコレクションテープの供給側スプールを、右側に取り付けます。



5] 図に示すように、テープを引き出してローラーに巻き付けていきます。

6] ストッパーレバーを解除し、テープの巻取側スプールを左側に取り付け、スプールを、カチッと音がするまで押し込んでください。

7] ストッパーレバーを元の位置に戻します。

8] コレクションテープの色の付いた部分が左側のローラーのところにくるように、巻取側スプールを時計方向に回します。

- コレクションテープのたるみを取ってください。

9] リボンカセットユニットを取り付け（8ページ参照）、タイプライタカバーを閉じます。

リボンカセット（製品名）	リボン送りダイヤルの色	コレクションテープ（製品名）	ディスプレイ表示
コレクタブルリボン（AP-RB-27*, 28**）	オレンジ	リフトオフ（SC78）	☑
コレクタブルリボン（AP-RB21+）	黄	リフトオフ（SC78）	
ファブリックリボン（AP-RB26）	緑	—	
シングルストライクリボン（AP-RB22）	ピンク	—	
マルチストライクリボン（AP-RB23）	青	カバーアップ（SC79）	■

*茶/**青

PART 2-タイピングの基本操作

モードの選択

■改行モード

このモードには3種類あります。ここでの設定は、電源を切っても保持されます。



[CODE]キーを押しながら[\leftarrow / \leftarrow]キーを同時に押して、改行モードを選択します。

- マニュアル改行モードが選ばれると、" \leftarrow "がディスプレイに表示されます。
- 自動改行モードが選ばれると、" \leftarrow "がディスプレイに表示されます。
- 行末揃えモードが選ばれると、" \leftarrow "がディスプレイに表示されます。

マニュアル改行モード：

[RETURN]キーを押したときだけ、左マージンに改行します。

自動改行モード：

ホットゾーン内（23ページ参照）でスペースバーまたはハイフンキーを押すと、自動的に左マージンに改行します。

- その行がホットゾーン内のスペースで終わらないように、パーマネントスペース（23ページ参照）を使うこともできます。

行末揃えモード：

行末が右マージンに揃えられて印字されます。このとき、単語間のスペースは自動的に均等に割り振られます。このため、どのオペレーションモード（13ページ参照）にも関係なく、タイプした文字は、行ごとに印字されます。ホットゾーン（23ページ参照）に入ってから単語をタイプすると、その単語は次の行に移動し、その地点からタイプが継続します。ホットゾーンに入る前に始まり右マージンに及ぶ単語はワードラップされずに、キャリアが右マージンでストップして、[RETURN]キーを押すまでは改行されません。

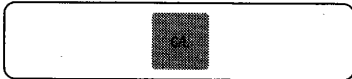
■オペレーションモード

オペレーションモードには2種類あります。文字印字モードを選ぶと、文字をタイプするごとに印字が行われます。行印字モードを選ぶと、次の場合にのみ印字が行われます：

[RETURN]キー、[↑]キー、[↓]キー、[CODE]と[↑]キー、[CODE]と[↓]キー、[TAB]キー、[DEC TAB]キー、[CENTER]キー、[INDENT]キーのいずれかを押したとき。

あるいは、タイプ行の最後の単語が自動的に次の行に移動したとき（23ページ参照）。

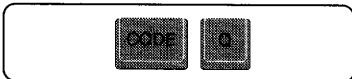
キャリアは、行印字モードでは、タイプされている文字の位置がわかるよう、実際の印字位置にキャリアを移動するように設定することができます。この設定は、電源を切った後でも保持されます。



[C/L]キーを押して、オペレーションモードを選びます。

- 文字印字モードを選ぶと、"C"が表示されます。
- 行印字モードを選ぶと、"L"が表示されます。

行印字モードでタイプするときのキャリア移動：

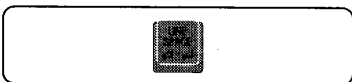


[CODE]キーと[Q]キーを押して、この機能をオン/オフします。

- ピッピッピッと音が3回鳴ると、キャリア移動がオンになっていることを示します。
- ピッと音が1回鳴ると、キャリア移動がオフになっていることを示します。

■行ピッチモード

行ピッチモードでは、4種類の用紙送り量の中から選ぶことができます（ $\frac{3}{4}$, 1, $1\frac{1}{2}$, 2）。ここでの設定は、電源を切った後でも保持されます。



[LINE SPACE]キーを押して、行ピッチを選択します。

3/4行送り（8行/インチ）：

- 画面には" $\frac{3}{4}$ "の表示が出ます。
- この設定には、文字ピッチ15が適しています。

1行送り（6行/インチ）：

- 画面には"1"の表示が出ます。

1.5行送り（4行/インチ）：

- 画面には" $1\frac{1}{2}$ "の表示が出ます。

2行送り（3行/インチ）：

- 画面には"2"の表示が出ます。

■文字ピッチモード

お使いのデジタイザに合った文字ピッチモードを選択することが重要です。下記のように、文字ピッチの10、12、15とは、1インチにそれぞれの数の文字が印字される、ということです。このモードでは、どの文字も同じ量のスペースを使います。PS（プロポーションナルスペーシング）1と2はそれぞれ文字ピッチ10と12の印字になりますが、文字とスペースは各文字のサイズに比例して印字されます。ここでの設定は、電源を切った後も保持されます。



[PITCH]キーを押して、文字ピッチモードを選択します。

10ピッチ（1インチに10文字）

例: This is 10 pitch type.

- ディスプレイには"10"が表示されます。

12ピッチ（1インチに12文字）

例: This is 12 pitch type.

- ディスプレイには"12"が表示されます。

15ピッチ（1インチに15文字）

例: This is 15 pitch type.

- ディスプレイには"15"が表示されます。

■印字圧モード

お使いの用紙やリボン、コピー作成枚数によって、印字圧を調整します。カーボンコピーにタイプする場合は、IVかVに設定します。一度にタイプできる枚数は、オリジナル1枚にコピー6枚までです。この設定は、電源を切った後も保持されます。



[IMPR]キーを押して、印字圧モードを選択してください。

- 印字圧I（最低）を使用中は、ディスプレイに"I"が表示されます。
- 印字圧IIを使用中は、ディスプレイに"II"が表示されます。
- 印字圧IIIを使用中は、ディスプレイに"III"が表示されます。
- 印字圧IVを使用中は、ディスプレイに"IV"が表示されます。
- 印字圧V（最高）を使用中は、ディスプレイに"V"が表示されます。

■キーボードモード

タイプライタのバージョンによっては、キーの表面に3個ないし4個の文字・記号が表示されているものがあります。キーボードモードの設定によって、この文字・記号を打ち分けます。キーボードIは、左側の文字・記号をタイプし、キーボードIIは、右側の文字・記号をタイプします。ここでの設定は、電源を切った後も保持されます。



[CODE]キーと[KBII]キーを押して、キーボードIとIIを切り替えてください。

- キーボードIを選択すると、ディスプレイに"KBI"が表示されます。
- キーボードIIを選択すると、ディスプレイに"KBII"が表示されます。

■印字スタイル

文字の種類には、通常（ノーマル）文字、ボールド文字、アンダーライン（連続、単語ごと）があります。この設定は、電源を切った後でも保持されます。

アンダーライン：

例: This is underlined print.



[**XX/XX**]キーを押してアンダーラインの種類（連続、単語ごと）を選択します。

- 選択したアンダーラインの種類によって、"**X X**"か"**XX**"がディスプレイ上に表示されます。また、文字は、次のように表示されます。

EACH WORD or CONTINUOUS

- この機能をオフにするには、ディスプレイ上の"**X X**"または"**XX**"が消えるまでそのキーを押し続けます。

ボールド文字：

例: **This is boldface print.**



[**XX**]キーを押して、ボールド文字をオン/オフします。

- ボールド文字が選択されていると、ディスプレイ上に"**XX**"が表示されます。また、文字は、次のように表示されます。

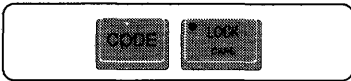
BOLDFACE PRINT

アンダーラインとボールド文字：

- アンダーラインとボールド文字を組み合わせ、連続アンダーラインとボールド文字、または、単語ごとのアンダーラインとボールド文字を同時に印字することができます。

キャプスロック

[SHIFT]キーや[LOCK]キーを使わずに、大文字と数字をタイプすることができます。



[**CODE**]キーと[**LOCK**]キーを押して、キャプスロックをオン/オフしてください。

- キャプスロックを設定すると、ピッピッピッと音が3回鳴って、ディスプレイに"**CAPS**"が表示されます。
- キャプスロックを解除すると、ピッと音が1回鳴って、ディスプレイの"**CAPS**"表示が消えます。
- キャプスロックが設定されている時に小文字をタイプする場合は、[SHIFT]キーを押してください。

自動給紙・排紙

■自動給紙

あらかじめ設定したタイピング開始行（トップマージン）まで用紙を送ります。ペーパーベイルを操作する必要はありません。

用紙挿入



1] プラテンに当たるまで用紙を挿入します。

2] [PAPER INSERT]キー（5ページ参照）を押します。用紙は、タイピング開始行まで自動的に送られます。

- 本機を始めて使用するときは、用紙の上端から1インチ（2.54cm）まで用紙が送られます。（20ページ参照）
- 用紙がまっすぐに送られない場合は、ペーパーリリースレバーを手前に引いて、用紙を揃え、レバーを元の位置に戻してください。

■自動排紙

用紙が自動的に排出されます。

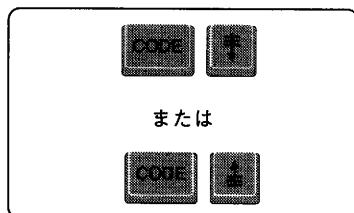


[CODE]キーと[PAPER INSERT]キーを押して、用紙を自動的に排出します。

用紙の行送り・行戻し

[\uparrow]行送り・[\downarrow]行戻しのキーは、プラテンノブを使わずに、用紙を1行だけ送ったり（行送り）、戻したり（行戻し）するときに使います。また、他のキーとも組み合わせて、用紙をほんのわずかだけ送ったり戻したりすることもできます。罫線のある書式にタイプするときや、用紙を排出してからもう一度挿入して訂正・追加などを行うときの位置調整に便利です。これらの行送り・行戻しは、すべて自動訂正用メモリの中に保持されます。

■1/4行送り・1/4行戻し

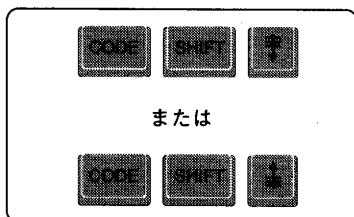


[CODE]キーと[\uparrow]キーを押すと、1/4行（約1.06mm）だけ用紙が自動的に送られます。

または

[CODE]キーと[\downarrow]キーを押すと、1/4行（約1.06mm）だけ用紙が自動的に戻ります。

■微量行送り

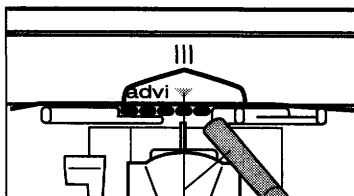


[CODE]、[SHIFT]、[\uparrow]キーを同時に押すと、1/16行（約0.26mm）だけ用紙が自動的に送られます。

または

[CODE]、[SHIFT]、[\downarrow]キーを同時に押すと、1/16行（約0.26mm）だけ用紙が自動的に戻ります。

キャリア位置

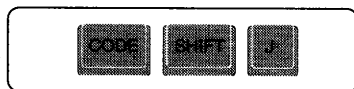


ビームマーカ

左図はキャリア/印字位置（4ページ参照）を表しています。スペースバー、[BACKSPACE]、[BACKTRACE]キー等を使ってもキャリアを左右に移動することができます。

ビームマーカの使用：

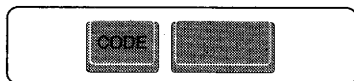
ビームマーカをオンにすると、次にタイプされる文字の位置が、赤い三角形のビームで示されます。オン/オフの設定ができます。



[CODE]、[SHIFT]、[J]キーを同時に押して、ビームマーカをオン/オフしてください。

■ キャリアの微量送り

キャリアを右に微量（約0.2mm）送ります。用紙を一度抜いた後の訂正や編集、単語の中にもう一文字追加するときなどに利用します。



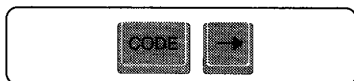
[CODE]キーを押しながらスペースバーを1回押すごとにキャリアは右に微量（約0.2mm）移動します。

■ フォワードスペース

[→]キーは、スペースバーと同様に、キャリア、カーソルを文字ごとに右マージンまで移動します。

エクスプレスフォワードスペース：

キャリア/カーソルが一度に右マージンまで移動します。新しい右マージンの位置を設定するときなどに使用します。



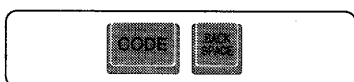
[CODE]キーを押しながら[→]キーを押します。

■ バックスペース

[BACKSPACE]キーで、キャリアを1文字分、左に戻します。1/2文字分ごとのバックスペースや、エクスプレスバックスペースも可能です。[←]キーを使うと、様々なバックスペース機能を利用することができます。

ハーフバックスペース：

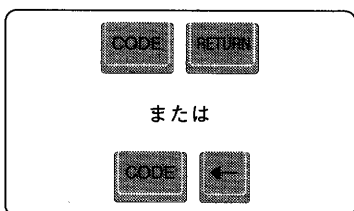
キャリアを1/2文字分、左に戻します。脱字を訂正したり、「II」のような合成文字を作るときに使用します。この機能は、文字印字モードでのみ利用できます。



[CODE]キーを押しながら**[BACKSPACE]**キーを押すたびに、キャリアが1/2文字ずつ左に戻ります。

エクスプレスバックスペース：

改行しないで、キャリア/カーソルを左マージンに戻します。マージンやタブの設定後、同じ行にタイプするときなどに使用します。



[CODE]と**[RETURN]**キーを押します。

または

[CODE]と[←]キーを押します。

■バックトレース

自動訂正用メモリ（24ページ参照）の範囲内で、キャリアを単語ごとに前後に移動します。訂正、削除、挿入などを行うときに使用します。



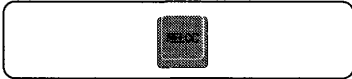
[BACKTRACE]キーを押すたびに、キャリアが1単語ずつ左に戻ります。

• [CODE]キーを押しながら[BACKTRACE]キーを押すたびに、キャリアが1単語ずつ右に移動します。

ルビ+リプレースはよおが、印字位置がズレる。不み

■キャリアのリロケート

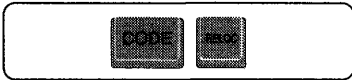
訂正などの作業の後で、キャリアを最後にタイプされた位置に戻します。



[RELOC]キーを押すと、キャリアが最後にタイプされた位置に戻ります。

■文頭へのキャリア移動

自動訂正用メモリ（24ページ参照）の範囲内にある文書の先頭にキャリアが戻ります。テキストメモリの文頭に戻りたいときや、サーチ（検索）・リプレース（置き換え）（64-66ページ参照）などを行うときに便利です。



[CODE]キーを押しながら[RELOC]キーを押すと、自動訂正用メモリの文頭に戻ります。

マージン/タブ

■タイピング開始行（トップマージン）

新しい用紙をタイプライタに挿入した時の、自動給紙量を設定します。設定は、実際に用紙を挿入して行うか、設定したい行数があらかじめわかっているときは、行数を2桁の数字で入力します。ここでの設定は、電源を切った後でも保持されます。

用紙をセット
(必要に応じて)



タイプ (01-55)

または

給紙



1] プラテンにあたるまで用紙を挿入します。(用紙をガイドとして使用しなくても設定ができます。)

2] [CODE]キーと[S]キーを押すと、用紙が自動的に送られます。

Top margin: 6

3] 設定したい行数を2桁の数字 (01-55) でタイプします。

例: トップマージンを1½インチに設定したい場合は、0と9をタイプします。6行で1インチです。

または

設定したいタイピング開始行（トップマージン）まで用紙を送ります（16,17ページ参照）。

- 用紙の送り量は、行ピッチモード（13ページ参照）での設定によって異なります。ただし、タイピング開始行を2桁の数字で設定した場合は、行数がシングルスペースで数えられます。
- この作業をキャンセルしたい場合は、[UNDO]キーを押してください。

4] [☆]キーを押して、設定を終了します。

■左マージン・右マージン

ここでの設定は、電源を切った後でも保持されます。

キャリア移動



1] 設定したい左（右）マージンの位置までキャリアを動かします（18ページ参照）。

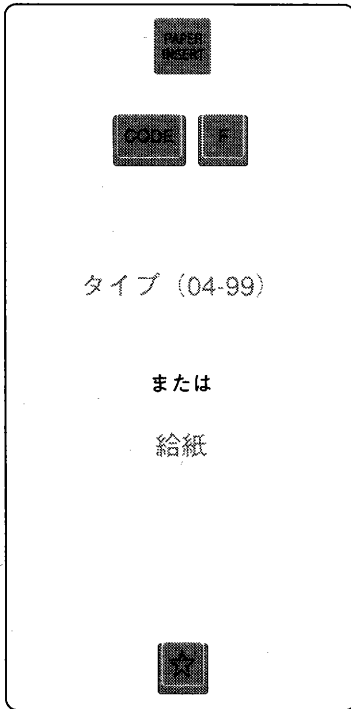
- すでに設定されているマージンにキャリアが達すると、キャリアが動かなくなってアラームが鳴ります。[MARGIN RELEASE]キーを押して、その設定を解除し、キャリアの移動を続けてください。

2] [LEFT MARGIN]キー、[RIGHT MARGIN]キーを押して、新しい左マージン、右マージンをそれぞれ設定します。

- 左マージン、右マージンの位置が、ディスプレイ上に "L"、"R"と表示されます。また、ホットゾーン（23ページ参照）の最初に "h" が表示されます。
- 左右マージン間の設定可能な最小幅は、1.5インチ（3.8cm）です。これより幅を狭く設定しようとする、アラームが鳴ってマージンは設定できません。

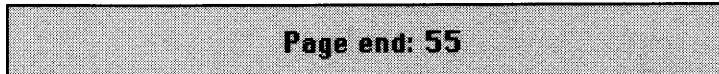
■自動ページエンド

自動ページエンドの機能は、用紙が自動的に送られ、ページエンドロックが作動しているときに（以下参照）のみ有効です。この機能は、実際に用紙を使わずに設定することもできます。複数ページの文書を作成するときに、各ページの最終行を揃えることができます。各ページで残りの行数が4行になるとアラームが鳴り、最終行をタイプし終わると、キーボードがロックされます。この機能はオン/オフできますが、電源を切っても、設定した自動ページエンド位置は保持されます。



1) [PAPER INSERT]キーを押して、用紙をタイピング開始行（トップマージン）まで自動送りします。（用紙を使用しないで設定を行うこともできます。）

2) [CODE]キーを押しながら[F]キーを押します。



3) 設定したい行数があらかじめわかっているときは、行数を2桁の数字（04-99）でタイプします。

または

設定したい自動ページエンド位置まで用紙を送ります（16-17ページ参照）。

- 用紙の送り量は、行ピッチモード（13ページ参照）での設定によって異なります。ただし、自動ページエンド位置を2桁の数字で設定した場合は、行数がシングルスペースで数えられます。
- この作業をキャンセルしたい場合は、[UNDO]キーを押してください。

4) [☆]キーを押すと、自動ページエンド位置が設定されます。

- タイプライタは自動的にタイピング開始行まで戻ります。

ページエンドロック：

1) [CODE]キーを押しながら[F]キーを押します。

2) [STAR]キーを押すと、ページエンドロックがオンになります。

または

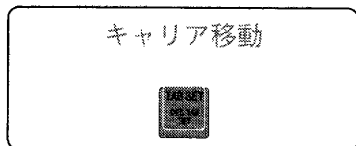
[CODE]キーと[SHIFT]キーを押しながら[F]キーを押すと、ページエンドロックがオフになります。

- ページエンドロックをオフにすると、ピッと音が1回鳴ります。
- 自動ページエンド機能を使用していると、アラームが鳴って"Page end!"がディスプレイに表示されます。ページエンドでキーボードがロックされます。そのままタイプを続けたい場合は、[MARGIN RELEASE]を押してロックを解除してください。

■タブ

ここでの設定は、電源を切った後でも保持されます。

タブの設定：

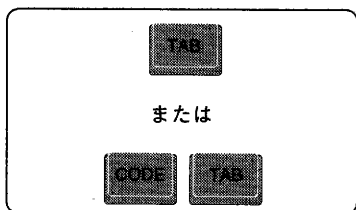


- 1) タブを設定したい位置までキャリアを移動します。
- 2) [TAB SET]キーを押すと、タブが設定されます。



- タブを設定すると、ディスプレイ上にタブの位置が"t"で表されます。
- タブ（デシマルタブを含む。30-31ページ参照）は、20個まで設定でき、それ以上設定しようとする、アラームが鳴ってタブ設定はできません。
- 通常のタブとデシマルタブを同じ場所に設定することもできます。同じ場所に設定した場合は、その位置がディスプレイ上に"t"と"d"で表示されます。

タブの実行：

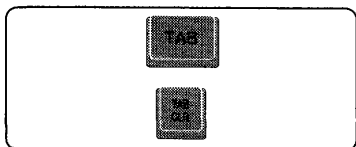


[TAB]キーを押すと、キャリアが次のタブまたは右マージンに移動します。

または

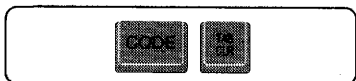
[CODE]キーを押しながら[TAB]キーを押すと、キャリアが前のタブか左マージンに移動します。

特定のタブをクリアする場合：



- 1) [TAB]キーを押して、キャリアをクリアしたいタブの位置に移動します。
- 2) [TAB CLR]を押して、タブをクリアします。（同時に、同じ位置に設定されているデシマルタブもクリアされます。）

すべてのタブをクリアする場合：



[CODE]と[TAB CLR]を同時に押して、すべてのタブをクリアします。（同時にすべてのデシマルタブもクリアされます。）

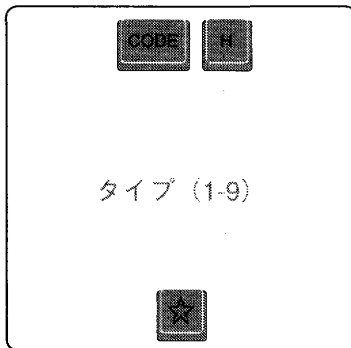
その他のマージン機能

■ホットゾーン

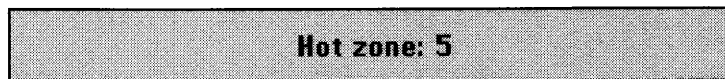
タイピング中に右マージンに近付くと、ある位置でアラームが鳴ります。その位置から右マージンまでをホットゾーンといい、最大9文字まで設定できます。ホットゾーンでは次のように動作します。

1. キャリアがホットゾーンに達すると、アラームが鳴ります。
2. 自動改行モードと文字印字モードが設定されているとき、ホットゾーン内でスペースバーまたはハイフンキーを押すと、自動的に改行され、キャリアが次の行の左マージンに移動します。ホットゾーンのオン/オフはできませんが、電源を切った後でもその設定は保持されます。ホットゾーンがオンになっている時は、ワードラップ機能（以下参照）は自動的にオフになります。

ホットゾーンの設定：



- 1] [CODE]キーを押しながら、[H]キーを押します。



- 2] 設定するホットゾーンの文字数を1桁の数字（1-9）でタイプします。

- この作業をキャンセルしたい場合は、[UNDO]キーを押してください。

- 3] [☆]キーを押すと、ホットゾーンが設定されます。

ホットゾーンのオン/オフ：



[CODE]、[SHIFT]、[H]キーを同時に押すたびに、ホットゾーンのオン/オフが切り替わります。

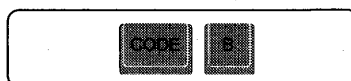
- ホットゾーンがオンになり、ワードラップ機能がオフになると、ピッピッピッと音が3回鳴ります。
- ホットゾーンがオフになり、ワードラップ機能がオンになると、ピッと音が1回鳴ります。

■ワードラップ

ワードラップ機能がオンになっている時、ホットゾーンを越えてしまう単語は、自動的に次の行に移動します。この機能は、ホットゾーンがオフになっており（上記参照）、タイプライタが文字印字モードでない時（すなわち行印字モード）、あるいは、自動改行モードや行末揃えが設定されているときにのみ有効です。行末でパーマネントスペースを使って2つの単語を同一行に並べたい場合は、両方の単語が次の行にワードラップされます。ハイフンを使った単語は、ハイフン以降の部分のみがワードラップされます。この設定は、電源を切った後でも保持されます。

■パーマネントスペース

自動改行モードの時、ホットゾーン内でスペースをタイプしても改行されず、スペースが入ります。固有名詞や日付など、途中で改行せずに同一行に複数の単語をタイプしたい時に便利です。



スペースバーの代わりに[CODE]キーと[B]キーを押します。

- 改行はされず、スペースが挿入されます。
- パーマネントスペースの表示"␣"がディスプレイに現れます。

印字された文字の訂正

すでに印字されている文字の訂正には、2通りの方法があります。

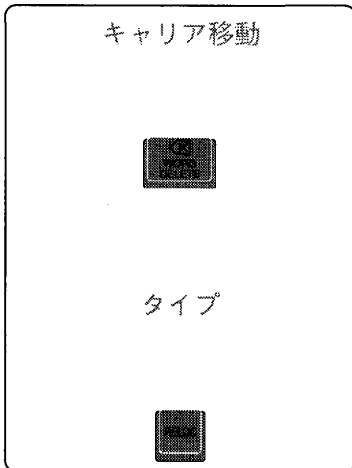
- 自動訂正
- マニュアル訂正

また印字する前は、ディスプレイ上で訂正できます。

■ 自動訂正

最大4,000文字を記憶する自動訂正用メモリ内にある、文字や単語を訂正します。

文字の削除：



- 1] キャリアを訂正したい文字の位置まで移動します (18-19ページ参照) *。

例: The following are excerbts

- 2] [⊗]キーを押します。

例: The following are excer ts

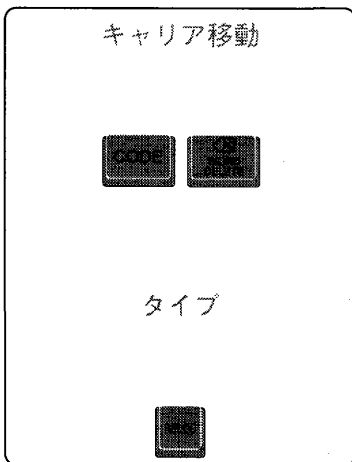
- このキーを押すたびに、1文字ずつ消去されます。

- 3] 正しい文字をタイプします。

例: The following are excerpts

- 4] [RELOC]を押すと、キャリアは訂正前の位置に戻ります。

単語の削除：



- 1] キャリアを消去したい単語の最後まで移動します (18-19ページ参照) *。

例: Please send me

- 2] [CODE]キーを押しながら[⊗]キーを押して、単語を消去します。

例: Please me

- この操作を途中で中止したい時は、[UNDO]キーを押してください。

- 3] 正しい単語をタイプします。

例: Please call me

- 4] [RELOC]を押すと、キャリアは訂正前の位置に戻ります。

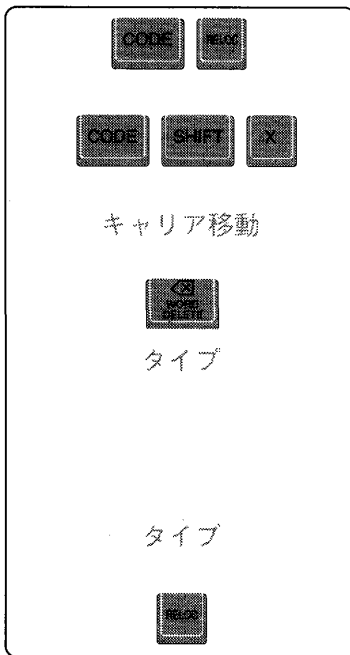
* キャリアが自動訂正用メモリの最初に到達すると、アラームが鳴ります。訂正したい文字にキャリアが達する前にこのアラームが鳴った場合は、マニュアル訂正 (25ページ) を参照してください。

■マニュアル訂正

文字の削除・訂正：

次の理由で自動訂正ができない場合は、マニュアル訂正を行います。

- 1) 訂正したい文字が自動訂正用メモリの範囲外にあるとき
- 2) 電源を切ってしまったとき
- 3) コレクションテープを取り替えてから訂正を行うとき



1] [CODE]キーを押しながら[RELOC]キーを押して、キャリアを自動訂正用メモリの最初まで動かします*。

2] [CODE]、[SHIFT]、[X]キーを同時に押してキャリアをメモリ範囲の外に出し、移動できるようにします。

3] キャリアを訂正したい文字まで動かします** (18-19ページ参照)。

4] [⊗]キーを押します。

5] 訂正する文字をタイプします。
文字が消えます。

- 訂正する文字がボールドやアンダーライン付き文字の場合は、印字スタイルを訂正したい文字と同じ種類に設定してから、訂正を行います。

6] 正しい文字をタイプします。

7] [RELOC]キーを押すと、この操作は終了して、キャリアが訂正前の位置に戻ります。

* キャリアが自動訂正用メモリの最初に到達すると、アラームが鳴ります。

** プロポーションナルスペーシングでタイプされた文字は、キャリアの微量送りを使って位置を正確に揃える必要があります。

■ディスプレイ上の訂正

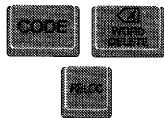
タイプライタが行印字モード（13ページ参照）や行末揃え印字モードに設定されている場合、印字する前に文書の削除や挿入ができます。

ディスプレイ上での文字・単語の削除：

キャリア移動



または



- 1) カーソル（51ページ参照）を削除したい文字や単語のすぐ右に移動します。

Dear Canon Caustomer,

- 2) [⊗]キーを押すと、文字が削除されます。

Dear Canon Customer,

または

- [CODE]キーを押しながら[⊗]キーを押すと、単語が削除されます。

- 3) [RELOC]キーを押して、カーソルを訂正前の位置に戻します。

行の削除：

印字前に、ディスプレイ上で行を削除します。

カーソル移動



- 1) カーソル（51ページ参照）を削除したい行に移動します。この場合、その行のどの位置でもかまいません。

- 2) [CODE]キーを押しながら[L]キーを押すと、行全体がディスプレイ上から削除されます。

ディスプレイ上での文書の挿入：

カーソル移動

タイプ



- 1) 挿入したい位置のすぐ右にカーソル（51ページ参照）を移動します。

Dear Canon Cuomer,

- 2) 挿入したい文字をタイプします。

Dear Canon Customer,

- 3) [RELOC]キーを押して、カーソルを訂正前の位置に戻します。

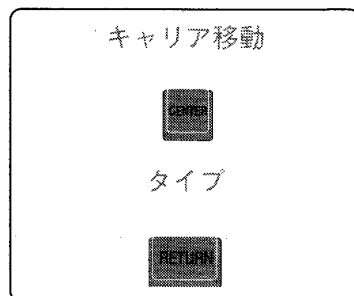
センタリング

3種類のセンタリングを行うことができます。

- 1) マージン間のセンタリング
 - 2) タブ間のセンタリング
 - 3) 指定点を中心としたセンタリング
- センタリング機能を使用中は、[CENTER]キーのランプが点灯します。
 - タイプした語句がセンタリング可能なスペースを越えると、アラームが鳴ります。
 - センタリングを中止するときは、印字前に[UNDO]キーを押します。

■ マージン間のセンタリング

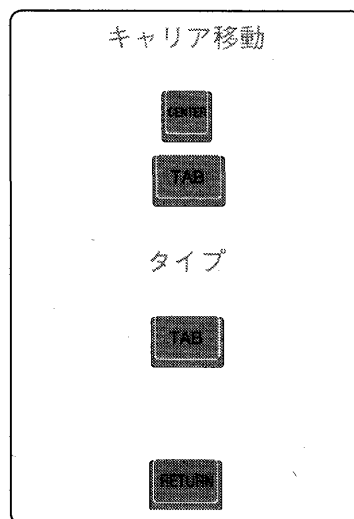
左右マージン間のセンタリングを行います。（インデント機能を使用している場合は、インデントした位置と右マージンとの間のセンタリングを行います。）センタリングをおこなう行には何もタイプされていないことを確認してください。



- 1] 左マージンにキャリアを動かします（18ページ参照）。
- 2] [CENTER]キーを押します。
- 3] センタリングする語句をタイプします。
- 4] [RETURN]を押すとセンタリングが実行され、語句が印字されます。
 - キャリアが次のタイプ行の左マージン、またはインデント位置まで戻ります。
 - 続けてセンタリングをする時は、上記のステップ1-3を繰り返します。

■ タブ間のセンタリング

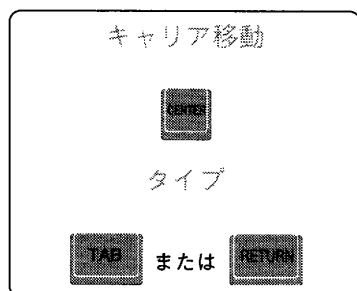
2ヶ所のタブ間で（あるいはタブと右マージンとの間で）センタリングを行います。



- 1] キャリアを、センタリングしたい語句の左のタブに移動します。
- 2] [CENTER]キーを押します。
- 3] [TAB]キーを押して、キャリアを両タブ間（またはタブとマージン間）に移動します。
- 4] センタリングする語句をタイプします。
- 5] [TAB]キーを押すと、語句がセンタリングし、印字されます。
 - キャリアは、次のタブで停止します。
 - 続けてセンタリングするときは、上記のステップ3-4を繰り返します。
- 6] センタリングをすべて終了したら、[RETURN]キーを押します。

■指定点を中心としたセンタリング

行のどの位置を中心としてもセンタリングが行えます。このセンタリングを数行にわたって行う場合は、指定点にタブを設定しておくとう便利です。

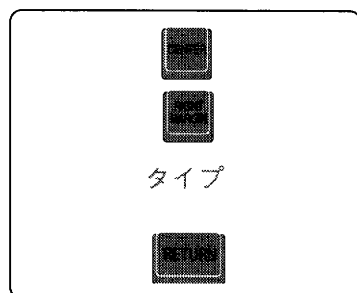


- 1] センタリングしたい中心の位置にキャリアを移動します。
- 2] [CENTER]キーを押します。
- 3] センタリングする語句をタイプします。
- 4] [TAB]キーまたは[RETURN]キーを押すと、語句が指定点を中心に印字されます。
 - ここで[TAB]キーを押すと、キャリアが次のタブ位置か右マージンに移動します。

右寄せ

日付、住所などの語句を、右マージンに揃えて印字します。

- この機能を使用中は、[CENTER]キーのランプが点灯します。
- 文書が入力できるスペースを越えた場合には、アラームが鳴って、これ以上入力できなくなります。



- 1] [CENTER]キーを押します。
- 2] [RIGHT MARGIN]キーを押します。
- 3] 右寄せする語句をタイプします。
- 4] [RETURN]キーを押すと、語句が右寄せで印字されます。
 - 続けて右寄せをおこなうときは、上記ステップ1-4を繰り返します。
 - 右寄せを中止するときは、印字前に[UNDO]キーを押します。

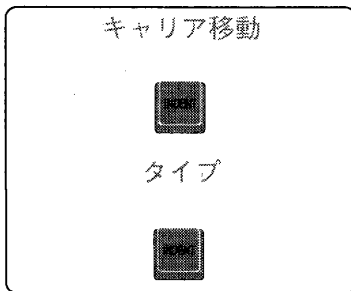
インデント

仮の左マージン（インデント位置）を設定したり、文書のブロックを現在設定されているマージン間でセンタリングします。

- この機能を使用中は、[INDENT]キーのランプが点灯します。
- この機能を中止するまでは、続けてインデントが行われます。
- インデントを中止するには、[INDENT]キーを押します。操作が終了すると、[INDENT]のランプが消えます。
- マージン設定を変更すると、自動的にインデント機能が中止されます。

■左インデント

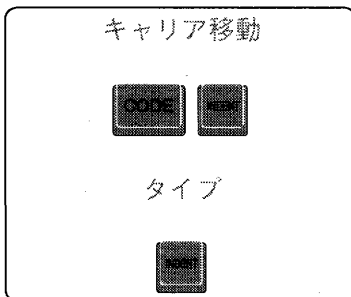
改行すると、行の打ち始めが左マージンでなくインデント位置に揃います。



- 1] インデントを設定する位置にキャリアを移動します。
- 2] [INDENT]キーを押して、インデント位置を設定します。
- 3] インデントする文書をタイプします。
- 4] [INDENT]キーをもう一度押して、インデント機能を解除します。

■ブロックインデント

左右マージンから等距離にインデントします。この機能は、テキストメモリ機能使用中には使えません。



- 1] 左のインデント位置にキャリアを移動します。
- 2] [CODE]キーを押しながら[INDENT]キーを押して、ブロックインデント位置を設定します。
- 3] 文書をタイプします。
- 4] [INDENT]キーを押して、ブロックインデントを解除します。

- マージン間の設定可能な最小幅は、1.5インチ（約3.8cm）です。最小幅より狭いブロックインデントを設定しようとすると、アラームが鳴り、設定できないことを知らせます。

作表

デシマルタブ機能やコラムレイアウト機能を使って、表やコラムを作成することができます。これらの機能は、表のレイアウトを最初に行わなくても利用できます。

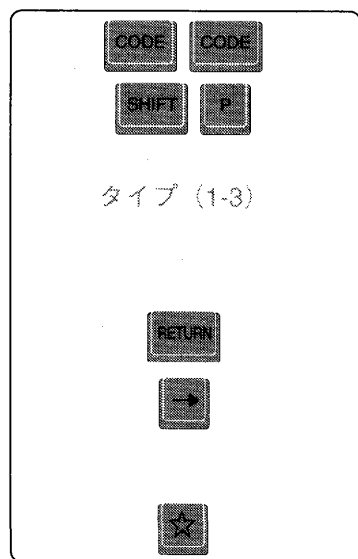
■デシマルタブ

デシマルタブ（自動桁合わせ）の設定位置に、数字の小数点やカンマを揃えて印字します。作表するときに特に便利です。デシマルタブはタブと合わせて20個まで設定することができます。それ以上設定しようとするアラームが鳴り、設定できません。

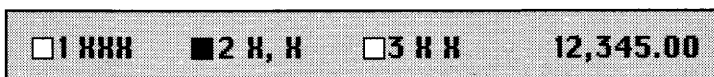
三桁位取りの設定：

小数点だけでなく、整数部は三桁位取りの設定ができます。三桁位取りは、スペース、カンマ、アポストロフィ、ピリオドのいずれかに変更することができます。三桁位取りの設定に従って、小数点もカンマかピリオドに変更されます。ここでの設定は、電源を切った後でも保持されます。

- 現在選ばれている選択肢の横に"■"が表示され、いろいろな設定を選ぶたびにディスプレイの右端に例が表示されます。
- この機能を中止したい場合は、[UNDO]キーを押してください。



- 1) 両方の[CODE]、[SHIFT]、[P]キーを同時に押します。



- 2) 1桁の数字（1-3）をタイプします。

または

[RETURN]キーを押して設定を変更します。

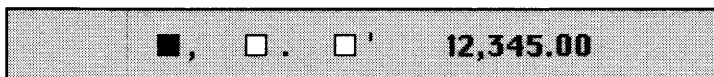
- 3) [→]キーを押して、設定を完了し、次のメニューに移動します。

または

[☆]キーを押して設定を完了し、この機能を終了します。

三桁位取りの記号の変更：

上記のステップ3で説明したように、[→]キーを一度押すと、次のメニューが表示されます。



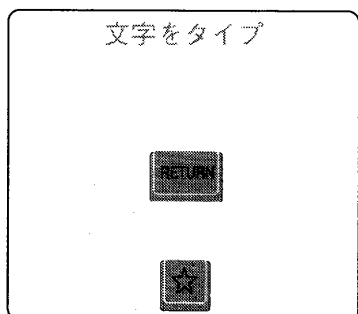
- 1) 使用したい記号をディスプレイ上の表示から選んでそのキーを押します。

または

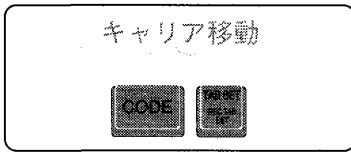
- 2) [RETURN]キーを押して、設定を変更します。

- [←]キーを押すと、前のメニューに戻ります。

- 3) [☆]キーを押して、設定を完了します。



デシマルタブの設定：

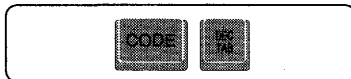


1) デシマルタブを設定したい位置にキャリアを移動します。

2) [CODE]キーを押しながら[TAB SET]を押すと、デシマルタブが設定されます。

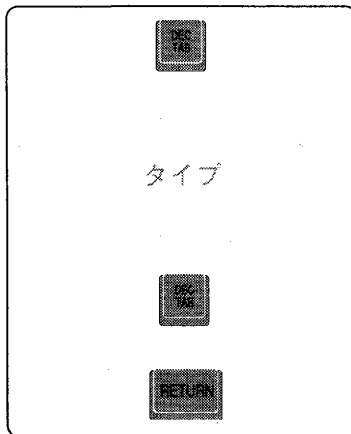
- デシマルタブを設定した位置には、ディスプレイ上に"d"が表示されます。
- 必要に応じて、上記の操作を繰り返します。
- 通常のタブとデシマルタブを同じ位置に設定することもできます。その場合は、ディスプレイ上に"t"と"d"が両方表示されます。

デシマルタブの位置確認：



[CODE]キーを押しながら[DEC TAB]キーを押すと、キャリアが次のデシマルタブ位置に移動します。*

デシマルタブの実行：



1) [DEC TAB]キーを押します。

- デシマルタブを実行しているときは、[DEC TAB]キーのランプが点灯します。
- この機能を中止したい場合は、[UNDO]キーを押してください。

2) 数字をタイプします。

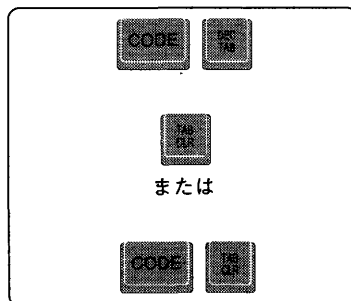
- 必要に応じて、小数点や記号も入れてください。

3) [DEC TAB]をもう一度押すと、タイプした数字の小数点がデシマルタブ位置になるように印字され、キャリアが次のデシマルタブの位置に移動します。*

4) タイピング行の最後の数字をタイプしたら、[RETURN]キーを押します。

- 必要に応じて、上記のステップ1-4を繰り返してください。
- 次の操作を行うまで、この機能は有効です。
 - a) TABを押して、次の通常のタブ位置までキャリアを移動したとき。
 - b) [RETURN]キーを押して、キャリアが次の行の左マージンまで移動したとき。

デシマルタブのクリア：



1) [CODE]キーを押しながら[DEC TAB]キーを押して、クリアするデシマルタブにキャリアを移動します。*

2) [TAB CLR]キーを押して、デシマルタブをクリアします。

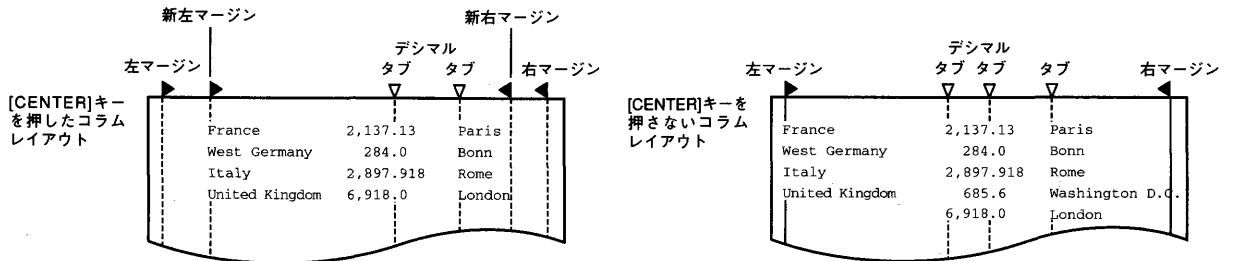
[CODE]キーを押しながら[TAB CLR]を押すと、デシマルタブがすべてクリアされます。(通常のタブもクリアされます。)

* キャリアと右マージンとの間にデシマルタブが設定されていないと、アラームが鳴ります。

■ コラムレイアウト

語句や数字、記号などをバランスのよい表に作成します。文字の桁数などを数える必要はありません。また、マージン間で表が自動的にセンタリングできます。コラム間が3文字分またはそれ以上のスペース*になるように設定されると、表がセンタリングされたままになるように、自動的に左右マージンが設定されます。

例:



- コラムレイアウト機能を使用しているときは、[LAYOUT]キーのランプが点灯します。操作が終了すると、このランプは消えます。
- コラムレイアウト機能を中止するときは、[UNDO]キーを押します。
- 数字コラムがあるときは、最初に三桁位取りを設定してください。(30ページ参照)

コラム幅の設定：

コラムレイアウトを実行する前に、それぞれのコラムの幅を設定しておく必要があります。これを行うと、マージン、タブは自動的に設定されます。この操作を行う前に、ディスプレイ上に文字がないことを確認してください。

1] [LAYOUT]キーを押します。

- キャリアが自動的に左マージンに動きます。

2] 各コラムを3文字分かそれ以上のスペースで割り振る場合は、[CENTER]キーを押します。

- コラム間のスペースを調整するには、[LAYOUT]キーと[CENTER]キーを押した後、[☆]キーを押します。次に、設定する文字スペースに対応する1桁の数字(1-9)をタイプし、その後もう一度[☆]キーを押します。

または

ステップ3へ進む

または

3文字分のスペースで割り振らない場合は、次のステップに進んでください。

文字コラムの設定:

タイプ

3] そのコラムの一番長い語句(例:United Kingdom)をタイプします。

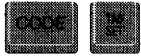
- 語句はディスプレイされますが、印字はされません。

4] [TAB SET]キーを押して、文字コラム幅を設定します。

- 必要に応じてステップ3と4を繰り返して、文字コラムの設定を続けてください。
- スペースがなくなると、アラームが1回鳴ります。

数字コラムの設定:

タイプ



タイプ



5] そのコラムの一番長い整数部をタイプします。

- 数字はディスプレイされますが、印字されません。

6] [CODE]キーと[TAB SET]キーを押すと、数字コラムの整数部の桁数が設定されます。

- コラム内に小数部がない場合は、ステップ7と8を省略してください。

7] そのコラムの一番長い小数部をタイプします。

8] [TAB SET]キーを押すと、小数部の桁数が設定されます。

- 必要に応じてステップ5-8を繰り返して、数字コラムの設定を続けてください。

コラム設定の完了:

9] すべてのコラムの設定が終わったら、[LAYOUT]キーを押します。

- コラム幅が3文字分以上のスペースで割り振られている場合（32ページのステップ2参照）、キャリアは最初のコラムのスタート位置に戻ります。
- コラム幅が3文字分以上のスペースで割り振られていない場合、キャリアは現在の左マージンに戻ります。

コラムレイアウトの実行:

文字コラム、数字コラムの幅が設定されたら、すべてのコラムにタイプすることができます。



または

ステップ2に進む

タイプ



または



1] コラム幅が3文字分のスペースで割り振られていない場合は、[TAB]キーと[INDENT]キーを押します。

または

コラム幅が3文字分以上のスペースで割り振られている場合は、ステップ2に進みます。（32ページのステップ2参照）

文字コラムの実行:

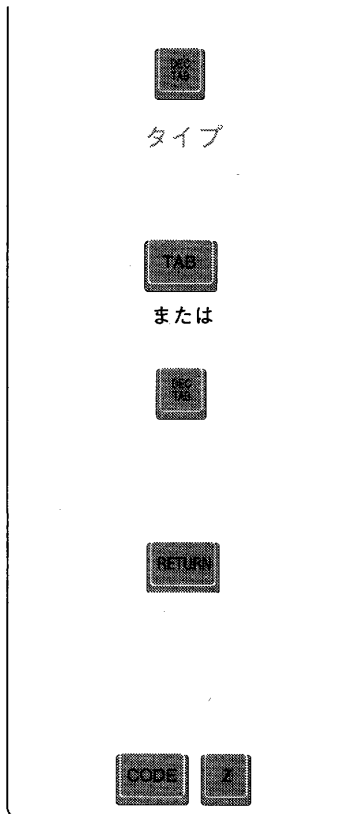
2] コラム内の最初の文字（例:United Kingdom）をタイプします。

3] 次のコラムが文字コラムの場合は、[TAB]キーを押します。

または

次のコラムが数字コラムの場合は、[DEC TAB]キーを押します。

- キャリアは次のコラム位置に移動します。



数字コラムの実行:

4] [DEC TAB]キーを押します。

5] 数字をタイプします。

- 数字はディスプレイされますが、印字はされません。

6] 次のコラムが文字コラムの場合は、[TAB]キーを押します。

または

次のコラムが数字コラムの場合は、[DEC TAB]キーを押します。

- ステップ5でタイプされた数字が印字され、キャリアが次のコラム位置に移動します。

最後のコラムが実行されたとき:

7] その行の最後の語句または数字をタイプしたら、[RETURN]キーを押します。

- キャリアが次の行に移動します。
- 必要に応じて、各行ごとにステップ1-7を繰り返します。

オリジナルフォーマットへの復帰:

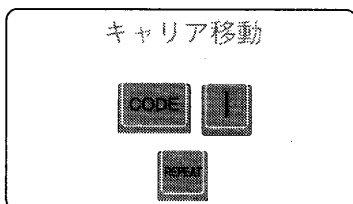
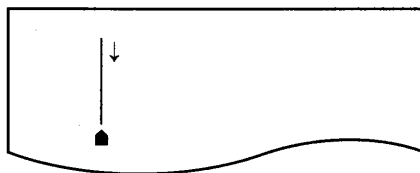
8] [CODE]キーと[Z]キーを押します。

■ 縦線

表やコラムに縦線を引くことができます。

- モデルバージョンによっては、この操作を行うにはキーボードモード（14ページ参照）をKBIIにしてください。
- この機能を使用するときは、自動訂正用メモリの内容がクリアされます。
- 縦線の削除はマニュアル訂正により行います。（25ページ参照）

例:



1] 縦線を引き始める位置にキャリアを移動します。

2] [CODE]キーと[[]]キーを押します。

3] [REPEAT]キーを押して、縦線を引きます。

■ 枠取り

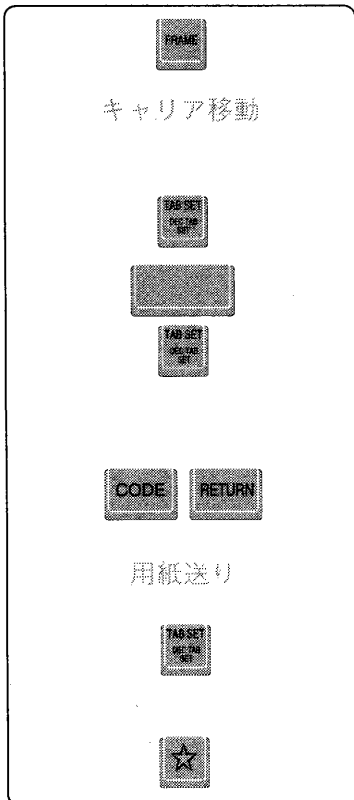
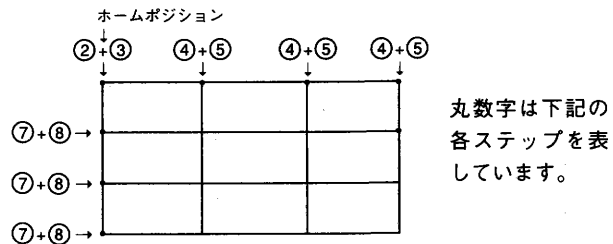
自動、マニュアルの2種類の枠取りができます。表や文書に枠や輪郭をつけるときに利用します。

- 枠取り機能を使用しているときは、タイプライタの正面にある[FRAME]キーのランプが点灯します。操作が終了すると、ランプが消えます。
- 枠取り機能を中止するときは、[UNDO]キーを押します。
- 印字後、タブとデシマルタブは枠取り作成前の設定位置に戻ります。
- 枠取りは、テキストメモリ機能の中では登録したり使用したりすることはできません。
- 行ピッチを3/4に設定して枠取り機能を実行するときは、文字ピッチ15のデジホイールを使用してください（10,14ページ参照）。

自動枠取り：

縦線と横線の位置を決めるだけで自動的に枠取りが作成できます。文書をタイプする前に枠取りをしたい場合に便利です。

例：



1) [FRAME]キーを押します。

2) キャリアをホームポジション（最初の縦線と横線が交わる点）に移動します。（18ページ参照）

3) [TAB SET]キーを押します。

4) スペースバーを押して、キャリアを次の縦線の位置に移動します。

5) [TAB SET]キーを押して、次の縦線の位置を設定します。

- 必要に応じてステップ4と5を繰り返して、縦線の設定を続けます。
- 縦線の位置は、20ヶ所まで設定できます。

6) [CODE]キーと[RETURN]キーを押して、キャリアをホームポジションに戻します。

7) 用紙を次の横線の位置まで送ります（17ページ参照）。

8) [TAB SET]キーを押して、次の横線の位置を設定します。

- 必要に応じてステップ7と8を繰り返して、横線の設定を続けます。

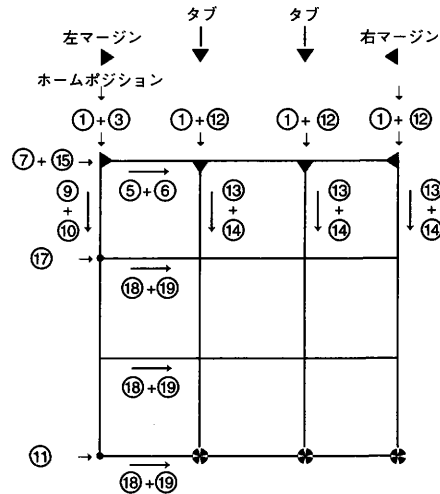
9) [☆]キーを押すと、設定した枠取りが印字されます。

- 印字後、キャリアはホームポジションに戻ります。

マニュアル枠取り：

マニュアルで枠取りを行うこともできます。枠取りのされた文書がすでに用紙に印字されているときに利用します。

例:



丸数字は下記の各ステップを表しています。

マージンとタブ設定



キャリア移動



1] 縦線用のタブと左右マージンを設定します。

- 通常のマージンとタブ設定手順で行います (20,22ページ参照)。

最初の横線:

2] [FRAME]キーを押します。

3] キャリアをホームポジションに移動します

4] [LOCK]キーを押します。

5] [—]キーを押すと最初の横線の印字が開始します。

6] [REPEAT]キーを押し続けると、横線が右マージンまで達します。

- キャリアが右マージンに達すると、アラームが鳴ってキャリアが止まります。

7] [TAB]キーを押すと、キャリアがホームポジションに戻ります。

8] [SHIFT]キーを押して、シフトロックを解除します。

最初の縦線と縦線の長さの設定:

- 9) []キーを押すと、左マージンに沿って縦線が印字されます。
- 10) [REPEAT]キーを押し続けて、縦線を設定したい長さまで引きます。
- 11) [☆]キーを押して縦線の長さを設定します。

各縦線の印字:

- 12) [TAB]キーを押して、キャリアをコラム上端の次のタブ位置に移動します。
- [TAB]キーを押すたびに、キャリアが次のコラム（タブ位置）に動きます。
- 13) []キーを押すと、縦線が印字されます。
- 14) [REPEAT]キーを押し続けて、縦線をステップ11で設定した長さまで引きます。
- キャリアが設定した縦線の長さまで達すると（ステップ10参照）、アラームが鳴ってキャリアが止まります。
 - 続けて他の縦線を引くには、ステップ12-14を繰り返します。
- 15) 最後の右マージン上の縦線を引き終わったら、[TAB]キーを押します。
- キャリアはホームポジションに戻ります。



用紙送り



各横線の印字:

16] [LOCK]キーを押します。

17] 2本目の横線を引く位置まで用紙を送ります（17ページ参照）。

18] [—]キーを押して横線を印字します。

19] [REPEAT]キーを押し続けて、横線を右マージンまで引きます。

- キャリアが右マージンに達すると、アラームが鳴ってキャリアが止まります。
- 続けて他の横線を引くには、ステップ17-19を繰り返します。

枠取り完成后:

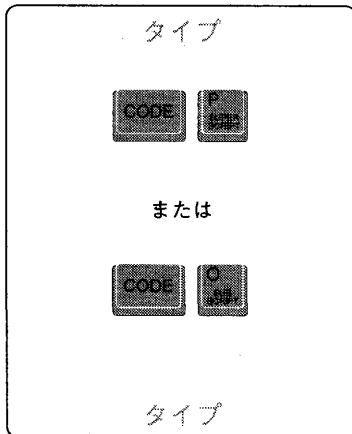
20] [FRAME]キーを押します。

- キャリアをホームポジションに戻します。

特殊文字

サブスクリプト（下付文字）やスーパースクリプト（上付文字）が、用紙を自動的に上下に送ってタイプされ、タイプ後は用紙が自動的に元の位置に戻ります。この操作は1文字ごとにおこないます。重ね印字機能では、2つの文字を重ねて印字することによって、特殊な記号を作ります。また、文書のタイトルや一部を強調するために、拡張スペースを使うこともできます。

■サブスクリプトとスーパースクリプト



1] 最初の文字をタイプします。

2] [CODE]キーと[P]キーを押して、用紙を半行下に送ります。（スーパースクリプト文字をタイプする場合）

例: 10³

または

[CODE]キーと文字キーの[O]を押して、用紙を半行上に送ります。（サブスクリプト文字をタイプする場合）

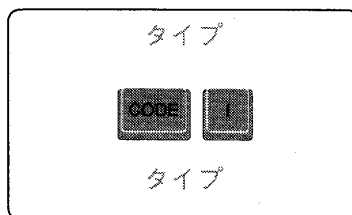
例: H₂O

3] サブスクリプトまたはスーパースクリプトの文字を1文字タイプします。

- 用紙は自動的にもとの行に戻ります。
- スーパースクリプト文字が入力されると、ディスプレイ上に"↑"が表示されます（例:"10↑3"）。
- サブスクリプト文字が入力されると、ディスプレイ上に"↓"が表示されます（例:"H↓2O"）。

■重ね印字

- 1つの文字の上に別の文字を印字します。この機能を行うには、タイプライタをまず行印字モードまたは行末揃え印字モードにしておく必要があります。



例: 0と/で"0"を作ります。

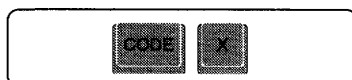
1] 文字をタイプします。

2] [CODE]キーと文字キーの[I]を押します。

3] 重ねる文字をタイプします。

■拡張スペース

文字間に余分の文字スペース（またはパーマネントスペース）を挿入します。タイトルなど、文字と文字を離したい時に利用します。



[CODE]キーと[X]キーを押して、この機能をオン/オフします。

- この機能がオンになると、ピッピッピッと3回音が鳴ります。
- この機能がオフになると、ピッと音が1回鳴ります。

PART 4-自動タイピング機能

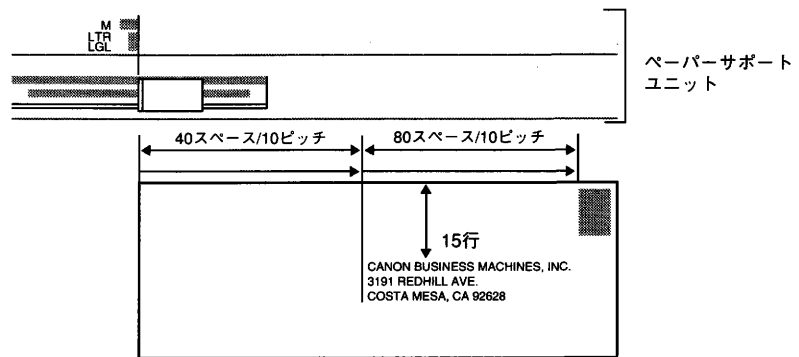
自動封筒フォーマット

封筒の宛名をタイプするたびにキャリアの位置調整を行うことなく、どんなサイズの封筒でも手早くセットアップし印字することができます。フォーマット設定時に封筒をガイドとして挿入することもできますが、必ずしも必要ありません。封筒フォーマットを設定する時は、トップマージン、左右マージン、タブ、デシマルタブも設定することができます。また、封筒にタイプする語句が自動的に大文字になるように、キャプスロックを設定することもできます。フォーマットを設定したら、封筒に印字される語句は自動アドレスプリント（42ページ参照）や、マニュアル操作でタイプしたり、フレーズメモリまたはテキストメモリ（49,51ページ）から呼び戻すことができます。この設定は、電源を切った後でも保持されます。

- 自動封筒フォーマット機能を使用するときは、「▶」が「☑」マークの横に点灯します。
- 初めてタイプライタをお使いになるときは、ここでの設定は、トップマージン6.35cm（15行）、左マージンは、用紙ガイド"M"（40-10ピッチ文字）を使用している時は封筒の左端から10.16cm、右マージンは左端から20.32cmとなっています（80-10ピッチ文字）。
- 上記の最初の設定値に戻りたい場合は、封筒フォーマット設定中に[☑]キーを押してください。
- この操作をキャンセルする時は、[UNDO]キーを押します。
- ページエンド設定は現在の設定位置のままとなります（21ページ参照）。
- 封筒機能を使用中は、ホットゾーン機能（23ページ参照）は無効となります。
- この機能は、オプションのカットシートフィーダ（83ページ参照）とは一緒に使えません。

■封筒フォーマットの設定

例:



封筒をセット



トップマージンの設定



- 1] 封筒をプラテンに当たるまで挿入します。
- 2] [CODE]キーと[☑]キーを押して、封筒をトップマージンまで送ります。

Top margin: 15

- 3] トップマージンを設定します。（20ページ参照）
- 4] [→]キーを押して次の項目に移ります。*

L.....

* 次の項目を省略するには[→]キー、前の項目に戻るには[←]キーを押して、設定したい項目を表示させてください。[☆]キーを押すと、その時点まで行われた変更が保持されます。他の全ての項目は、これまで通りで変わりません。

左右マージンの設定



5] 左右マージンを通常の方法でそれぞれ設定します。(20ページ参照)

- タブやデシマルタブもこの時点で設定できます(22,30-31ページ参照)。

6] 設定を終了して封筒フォーマットの次の項目を続けて設定したい時は[→]キーを押します。*

CAPSLOCK ON OFF

7] [RETURN]キーを押して、キャプスロックのオン/オフをおこないます。

8] [☆]キーを押すと、すべての設定が保持されて封筒フォーマット機能を終了します。

- 封筒は自動的に排出されます。
- ディスプレイ上"▶"の横に表示されていた"☰"マークが消えます。
- 上記操作を行う前のタイプライタの設定が保持されます。

* 次の項目を省略するには[→]キー、前の項目に戻るには[←]キーを押して、設定したい項目を表示させてください。[☆]キーを押すと、その時点まで行われた変更が保持されます。他の全ての項目は、これまで通りで変わりません。

■封筒フォーマット設定の使い方

封筒をセット



タイプ



1] 封筒をプラテンに当たるまで挿入します。

2] [☰]キーを押すと、自動的に封筒がトップマージンまで送られます。

- 現在のトップマージンの設定が、自動送り操作中に表示されます。

3] 封筒上に語句をタイプまたは印字します。

- タイプ、印字は、マニュアルタイピング、自動アドレスプリント(42ページ参照)、あるいはフレーズメモリ、テキストメモリ(49,51ページ参照)から呼び出して行うことができます。
- 封筒の印字には、センタリング、右寄せ、インデント(27-29ページ参照)も使用できます。

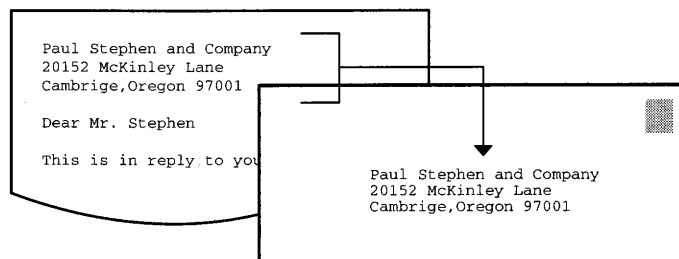
4] [☰]キーを押して自動的に封筒を排出し、この機能を終了します。

- ディスプレイ上"▶"の横に表示されていた"☰"マークが消えます。
- 上記操作を行う前のタイプライタの設定が保持されます。

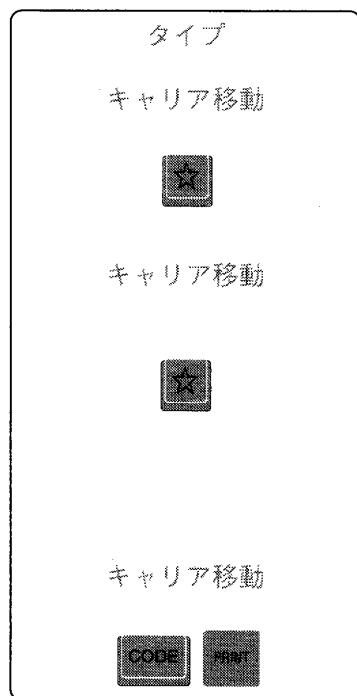
自動アドレスプリント

すでにタイプされた語句、文書で、自動訂正用メモリ内にまだ残っているものを再プリントします。手紙の文中ですでにタイプした住所を、封筒の宛名に再度印字したいときに便利です。約300文字まで印字できます。

例:



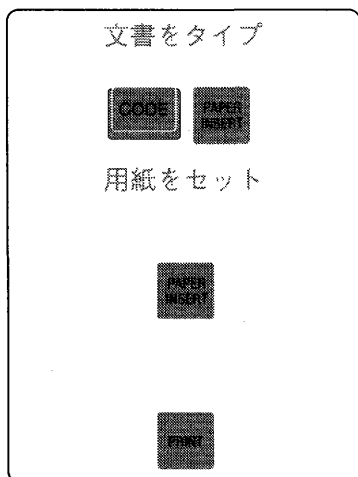
- 印字前に設定を中止するときは、[UNDO]キーを押します。



- 1] 必要な語句、文書をタイプします。
- 2] 再プリントしたい最初の文字にキャリアを移動します。(17-19ページ参照)
- 3] [☆]キーを押します。
 - 再プリントしたい文書の最初が設定されると、ピッピッピッと音が3回鳴ります。
- 4] 再プリントしたい部分の最後の文字までキャリアを移動します。(18-19ページ参照)
- 5] [☆]キーを押します。
 - 再プリントしたい文書の最後が設定されると、ピッと音が1回鳴ります。
 - 用紙を排出して新しい封筒や用紙を挿入できます。通常用の紙の挿入や封筒機能(41ページのステップ1-4参照)も使用することができます。再プリント用に設定された文書は同じページにも再プリントすることができます。
- 6] 印字したい位置にキャリアを移動します。(17-19ページ参照)
- 7] [CODE]キーと[PRINT]キーを押すと、同じフォーマットで文書がプリントされます。
 - 新しい内容が指定されるか別のファンクションキーが押されるまで、あるいは電源を切るまでは、何回でも再プリントができます。
 - 一時的に印字を停止したいときは、[PRINT]キーを押します。印字を再開するときは、もう一度[PRINT]キーを押します。
 - 印字を完全に中止したいときは、[CODE]キーと[☆]キーを押します。

自動再プリント

すでにタイプされた文書でまだ訂正用メモリの中に残っている文書を再度印字します（24ページ参照）。同じ文書内容を複数印字したいときに便利です。



- 1] 必要な文書をタイプします。
- 2] [CODE]キーと[PAPER INSERT]キーを押して、用紙を排紙します。
- 3] 新しい用紙をセットします。このとき、マニュアル操作で用紙を送らないでください。
- 4] [PAPER INSERT]キーを押すと、自動的に用紙が給紙されます。
 - このステップを行う前に他のキーを押すと、自動訂正用メモリがクリアされ、再プリント操作ができなくなります。
- 5] [PRINT]キーを押して、同じフォーマットで文書を印字します。
 - 再プリントごとにステップ2-5を繰り返します。文書が訂正用メモリからクリアされるまでは、何回でも同じ文書を再プリントすることができます。
 - 一時的に印字を停止したいときは、[PRINT]キーを押します。印字を再開するときは、もう一度[PRINT]キーを押します。
 - 印字を完全に中止したいときは、[CODE]キーと[☆]キーを押します。

ページフォーマット

5種類のページフォーマットをタイプライタのメモリの中に保存し、さまざまな書類を作成するときに必要に応じてこれ呼び出すことができます。ページフォーマットには、タイピング開始行（トップマージン）、ページエンド、ホットゾーン、左右マージン、タブ、デシマルタブが含まれます。このフォーマットは、電源を切った後でも保持されます。

- ページフォーマット操作を中止するには、[UNDO]キーを押します。

■ページフォーマットの保存と編集



タイプ (1-5)

トップマージンの設定



ページエンドの設定

- 1) [FORMAT]キーを押します。

1. Page 2. Stop position

- 2) [1]キーを押します。

1 2 3 4 5

- 3) 保存または編集したいページフォーマットを選んでその番号 (1-5) をタイプします。

Top margin: 6

- キャリアは、呼び出したフォーマットの左マージンに移動します。そのページフォーマット用の実際の設定値（トップマージン、ページエンド、ホットゾーン、左右マージン、タブ、デシマルタブ）を表示することができます。

- 4) トップマージンを設定します。（20ページ参照）

- 5) [→]キーを押して、新たな設定を完了し、次のページ設定項目*に進みます。

Page end: 55

- 6) 自動ページエンドを設定します。（21ページ参照）

* 次の項目を省略するには[→]キー、前の項目に戻るには[←]キーを押して、設定したい項目を表示させてください。[☆]キーを押すと、その時点まで行われた変更が保持されます。他の全ての項目は、これまで通りで変わりません。



ホットゾーンの設定



左右マージンの設定



7) [→]キーを押して設定を完了し、次のページ設定項目*に進みます。

Hot zone: 5

8) ホットゾーンを設定します。(23ページ参照)

9) [→]キーを押して設定を完了し、次のページ設定項目*に進みます。ディスプレイには次のような表示が出ます。

L.....R

10) 左右マージンをそれぞれ設定します。(20ページ参照)

- タブとデシマルタブもここで設定できます。(22,30ページ参照)

11) [☆]キーを押してすべての設定を終了します。*

- 設定が完了すると、ピッと音が1回鳴ります。

* 次の項目を省略するには[→]キー、前の項目に戻るには[←]キーを押して、設定したい項目を表示させてください。[☆]キーを押すと、その時点まで行われた変更が保持されます。他の全ての項目は、これまで通りで変わりません。

■登録済ページフォーマットの実行



タイプ (1-5)



タイプ

1) [FORMAT]キーを押します。

1. Page 2. Stop position

2) [1]キーを押します。

1 2 3 4 5

3) 選択するページフォーマットの番号 (1-5) をタイプします。

4) [☆]キーを押してページフォーマットを実行します。

- 設定が終了すると、ピッと音が1回鳴ります。

5) 文書をタイプします。

ストップポジションフォーマット

[TAB]キーや[RETURN]キーを使わずに、キャリアを特定の位置に移動させることができます。ひとつのストップポジションフォーマットで50までのポジションを設定できます。これは、定型フォーマット（運送状やインボイス等）にタイプするのに利用でき、このような文書処理がスムーズに行えます。ストップポジションフォーマットを設定して登録したら、後で簡単に呼び戻すことができます。


- 特定のフォームをタイプするためにストップポジションを設定するには、自動給紙（16ページ参照）を使用してタイプライタにフォームを挿入します。
- ストップポジションフォーマット操作を中止するには、[UNDO]キーを押します。
- タイトルライブラリの印字は62ページを参照してください。


■ストップポジションフォーマットの登録・呼び出し

例:


The screenshot shows a 'PURCHASE ORDER' form with several fields. Asterisks (*) are placed at the beginning of the following fields: 'P.O. Number', 'Ship To', 'Bill To', 'P.O. Date', 'Ship Date', 'Ship Via', 'Qty.', 'Description', 'Unit Cost', and 'Unit Cost'. Below the form, a legend indicates '* = ストップポジション'.

* = ストップポジション







新しいタイトルをタイプ



キャリア移動





1] [FORMAT]キーを押します。

1. Page 2. Stop position

2] [2]キーを押します。

Title: *STOP FORMAT*22090

3] 新しいタイトルをタイプします。

- 8文字までのタイトルがタイプされるとディスプレイに表示されます。

4] [☆]キーを押してタイトルを登録し、ストップポジションの設定を始めます。

5] 登録したいストップポジションの位置に、キャリアを移動します（18-19ページ参照）。

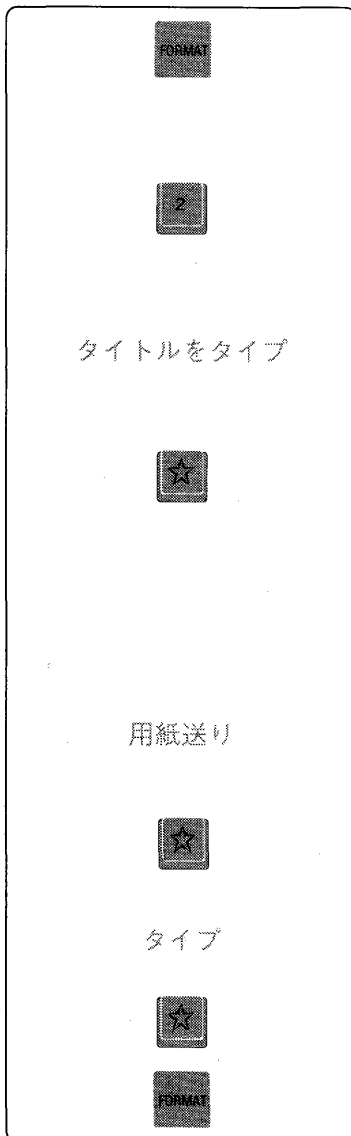
6] [TAB SET]キーを押して、ストップポジションをセットします。

- 必要に応じてステップ5-6を繰り返してください。

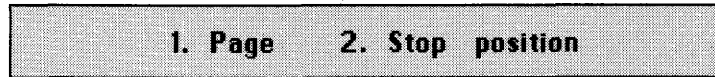
7] [FORMAT]キーを押して、ストップポジションフォーマットを登録します。

■登録済ストップポジションフォーマットの実行

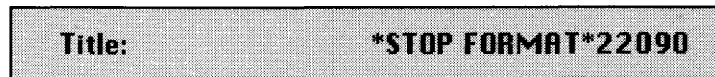
ストップポジションフォーマットを呼び出したら、マニュアルタイピング、テキストメモリ、印字機能を使うことができます。



1) [FORMAT]キーを押します。



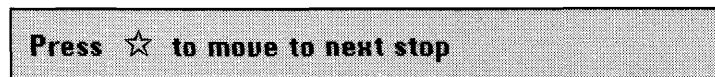
2) [2]キーを押します。



3) 呼び出したいタイトルをタイプします。

- 登録されているタイトルを思い出せないときは、[←]/[→]キーを押してタイトルを捜します。

4) [☆]キーを押して、そのストップポジションフォーマットを実行します。



- キャリアが自動的に左マージンに移動します。

5) 必要に応じて、用紙を送ります（17ページ参照）。

6) [☆]キーを押して、キャリアを最初のストップポジションに移動します。

- テキストメモリから印字するには、60ページの手順に従ってください。

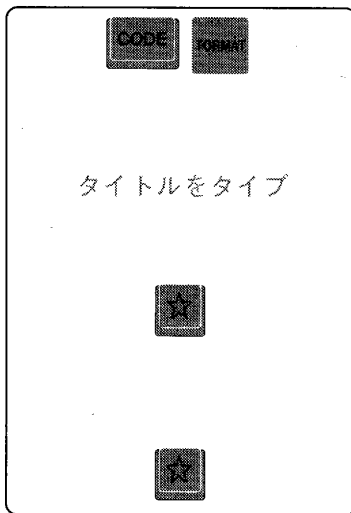
7) 語句をタイプします。

8) [☆]キーを押して、キャリアを次のストップポジションに移動します。

9) [FORMAT]キーを押して、操作を終了します。

■ストップポジションフォーマットの削除

メモリを有効に利用するために、不必要なフトップポジションフォーマットを削除することをおすすめします。



1) [CODE]キーと[FORMAT]キーを押します。

Title: *DELETE*

2) 削除したいタイトルをタイプします。

- タイトルが思い出せない時は、[←]/[→]キーを押してそのタイトルを搜して下さい。

3) [☆]キーを押します。

Press ☆ to delete

4) [☆]キーをもう一度押して、ストップポジションフォーマットを削除します。

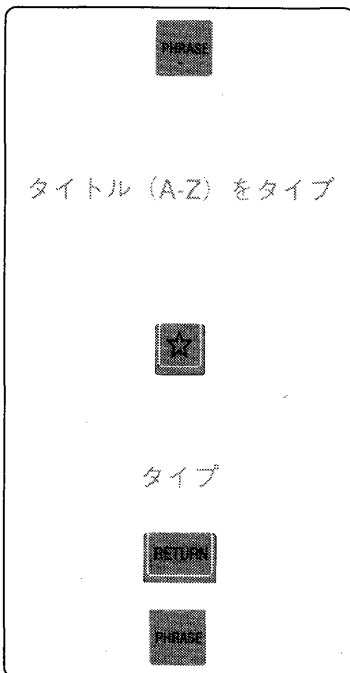
PART 6-メモリ機能

フレーズメモリ

頻繁にタイプされる語句（名前、住所、長いタイトル等）を素早く印字することができます。フレーズを入力するときに、印字モードの設定や変更も行えます。また、マージンやタブなどの設定、タブやマージン間のセンタリング、インデント、右揃えなどの自動機能も、登録されるフレーズをタイピングしている間に使用できます。ただし、フレーズを後で呼び出した場合、現在のタイプライタ設定に従って印字されます。1フレーズが半ページの長さになることも可能です。フレーズメモリの内容は、電源を切った後でも保持されます。

- フレーズメモリ使用中は、ディスプレイ上の"PHRASE"の横に"▶"が表示されます。
- フレーズを登録するときは、タイプされた通りにすべてが登録されます。変更や訂正の必要なフレーズは、まず削除してもう一度入力しなおしてください。
- フレーズを入力するときに、現在設定されているマージン、タブ等が使えますが、フレーズメモリを使用中は、これらの設定をリセットできません。
- フレーズメモリ操作（印字中は除く）を中止するには、[PHRASE]キーを押します。
- タイトルライブラリの印字は62ページを参照してください。

■フレーズの入力・登録



1) [PHRASE]キーを押してください。

PHRASE title: ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ

2) 新しいフレーズ用のタイトルとして、AからZまでの1文字をタイプします。

- すでにタイトルとして使用されている文字には、アンダーラインが表示されます。
- 選ばれたタイトルの下には、"≡"が表示されます。

3) [☆]キーを押して、タイトルを登録し、フレーズメモリに入ります。

- 同じタイトルがすでに使用されていると、ピッと音が1回鳴ります。その場合は、他のタイトルを選んでください。

4) 登録したいフレーズをタイプします。

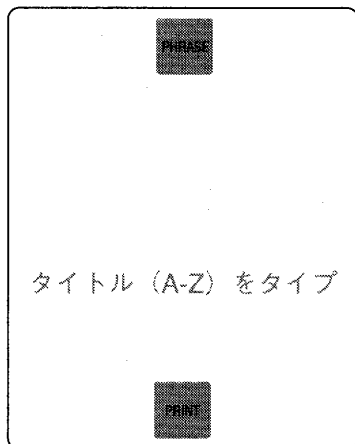
5) フレーズを全部入力し終わったら、[RETURN]キーを押します。

6) [PHRASE]キーを押します。

- フレーズが登録されると、ピッと音が1回鳴って、ディスプレイ上の"▶"が消えます。
- フレーズメモリの容量が一杯になると、ブザーが鳴ってディスプレイ上に"Memory full!"が表示され、登録ができなくなります。これは、登録しようとしているフレーズが長すぎるか、メモリ容量が十分残っていないためです。[PHRASE]キーを押してこの機能を終了し、短いフレーズをタイプしてください。あるいはフレーズメモリ内に入っている不要なフレーズを削除して（50ページ参照）、フレーズをもう一度入力・登録してください。

■登録済フレーズの印字

登録されているフレーズは、現在設定されているページフォーマットで印字されます。



1) [PHRASE]キーを押してください。

PHRASE title: A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z

- すでにタイトルに使用されている文字にはアンダーラインが表示されます。

2) フレーズ用のタイトルとして登録されているAからZまでの1文字をタイプします。

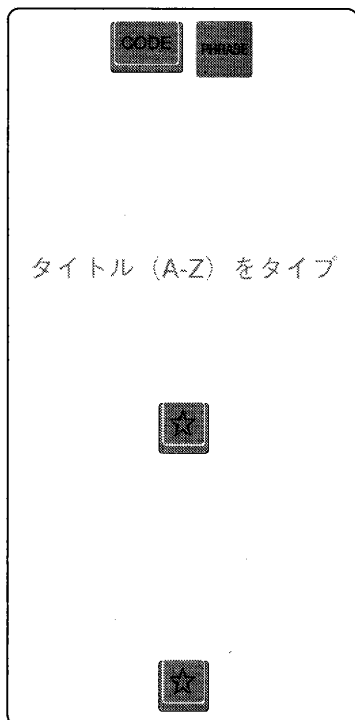
- 印字前にこの操作を中止したい場合は、[UNDO]キーを押します。

3) [PRINT]キーを押して印字を開始します。

- 一時的に印字を止めるには、[PRINT]キーを押します。印字を再開するには、もう一度[PRINT]キーを押してください。
- 印字を完全に中止するには、[CODE]キーと[☆]キーを押してください。

■登録済フレーズの削除

フレーズメモリを効率よく使用するには、不必要なフレーズを削除することをおすすめします。



1) [CODE]キーと[PHRASE]キーを押します。

PHRASE title: A B D F G J

- ディスプレイ上には、フレーズタイトルとして使用されている文字のみが表示されます。

2) 削除したいフレーズのタイトルとして登録されているAからZまでの文字を（10文字まで）タイプします。

- 削除するフレーズが選択されると、そのタイトル文字の下に"≡"が表示されます。

3) [☆]キーを押します。

Press ☆ to delete

- フレーズを削除する前にこの操作を中止したい場合は、[UNDO]キーを押してください。

4) [☆]キーを押して、フレーズを削除します。

テキストメモリ

文書を登録して、必要な時に呼び出し、編集や印字を行います。文書を登録するときに、ページフォーマット（マージン、ホットゾーン、タブ、デシマルタブ）、文字ピッチや行ピッチも同時に登録されます。タブ、タブやマージン間でのセンタリング、インデント、右寄せ、デシマルタブなどの自動機能は、文書をタイピングするときに使用できます。ストップコード（63ページ参照）、フレーズ（49-50ページ参照）も文書内で使用できます。また、文書を入力すると同時に印字するか、表示のみを行うかを選択することもできます。テキストメモリの内容は、電源を切った後でも保持されます。

- テキストメモリ機能を使用しているときは、ディスプレイの"TEXT"の横に"▶"が表示されます。

■文書内でのカーソル移動

文書の入力、編集を行っているときに、下記のキーを押すとカーソルがそれぞれの方向に移動します。

文末への移動	[RELOC]
文頭への移動（行印字、行末揃え印字モード）	[CODE] + [RELOC]
左マージンへの移動	[CODE] + [←] または [CODE] + [RETURN]
右マージンへの移動	[CODE] + [→]
1単語単位の左移動	[BACKTRACE]
1単語単位の右移動	[CODE] + [BACKTRACE]
1文字または1スペース単位の左移動	[←] または [BACKSPACE]
1文字単位の右移動	[→] または [SPACE BAR]

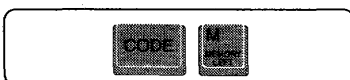
■ディスプレイ上の記号

文書入力・編集時に、下記のような記号が表示されます。これらは、文書を登録するにあたって使用される様々な機能を表しています。

	タブ		デシマルタブ
	改行		パーマネント スペース
	インデント		ストップコード
	マージン間の センタリング		サブスクリプト
	タブ間の センタリング		スーパー スクリプト
	右寄せ		ソフトハイフン
	強制改ページ		アンダーライン ボールド

■テキストメモリ残量の表示

テキストメモリの残量を表示します。

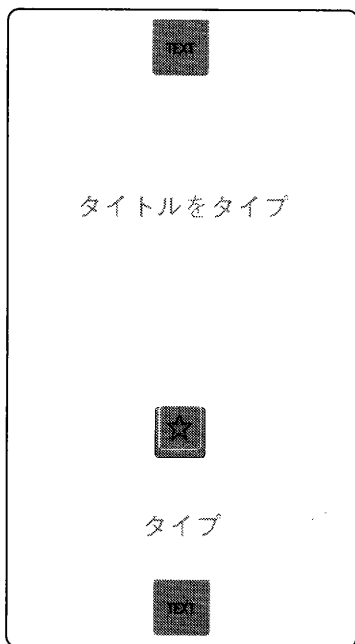


[CODE]キーと[M]キーを押します。

■文書の入力・登録

文書を入力する前に、モードの選択（12-15ページ参照）とページフォーマット（20-22ページ、30-31ページ参照）を行っておくことをおすすめします。ただし、この設定は電源スイッチを切った後でも保持され、文書登録中や登録後にも変更することができます（54ページ参照）。

- 文書入力中の同時印字は、下記のステップ1に入る前に[C/L]キーを押してオン/オフを設定しておいてください。
C:文書は1行ごとに印字されながら登録されます。
L:文書は印字されず表示されるだけで、登録されます。
- テキストメモリを使用中は、ホットゾーンは使えません。



1) [TEXT]キーを押します。

- "TEXT"の横に"▶"が表示されます。



2) 新しいタイトルをタイプします。

- ひとつのタイトルにつき8文字まで入力できます。タイプされたタイトルはディスプレイ上に表示されます。
- テキストメモリ内にすでに存在しているタイトルをタイプした時は、そのタイトルの文書が表示されます。

3) [☆]キーを押してタイトルを登録し、テキストメモリに入ります。

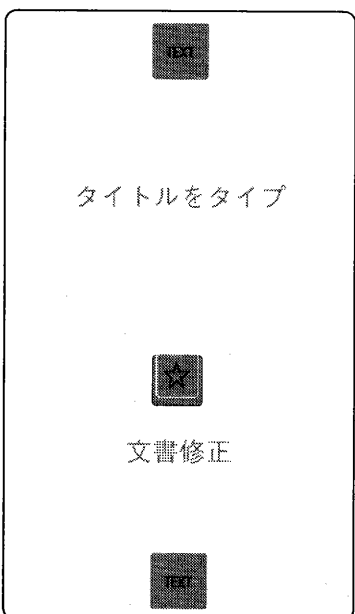
- この時、ディスプレイがクリアされます。

4) 登録したい文書をタイプします。

5) [TEXT]キーを押します。

- 文書が登録されると、ディスプレイから、"TEXT"の横に表示されていた"▶"が消えます。

■文書の呼び出し・編集



1) [TEXT]キーを押します。



2) 呼び出したい文書のタイトルをタイプします。

- タイトルが思い出せない時は、[←]/[→]キーを押すと、テキストメモリのタイトルライブラリが表示されます。
- 前回呼び出されたタイトルが最初に表示されます。

3) [☆]キーを押して文書を表示させます。

4) 文書を変更します（54-60ページ参照）。

- 文書中のカーソルの移動は、51ページの表を参照してください。

5) [TEXT]キーを押して操作を終了し、テキストメモリから出ます。

- テキストメモリから出る前に文書を印字したい場合は、[PRINT]キーを押してください。

フレーズの挿入：

文書を入力・編集中に、すでにあるフレーズを挿入することができます。

- 1] 登録されている文書呼び出します（52ページ参照）。
- 2] フレーズを挿入したい位置にカーソルを移動します（51ページ参照）。
- 3] [PHRASE]キーを押します。

PHRASE title: ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ

- 4] 挿入するフレーズのタイトル1文字（AからZ）をタイプします。
- 5] [PRINT]キーを押してフレーズを挿入します。

- 行印字、行末揃え印字モードの時は、フレーズは挿入されますが、文書を印字するまではフレーズも印字されません。

文書呼び出し

カーソル移動



タイトル (A-Z) をタイプ



登録済文書のページフォーマットの変更：

文書呼び出し



タイプ (01-55)



タイプ (04-99)

マージン、タブ、
デシマルタブ設定**1]** 登録されている文書を呼び出します (52ページ参照)。

- カーソルが文頭にあることを確認してください (51ページ参照)。

2] [FORMAT]キーを押します。**Top margin: 6****3]** トップマージンを変更したい場合は、2桁の数字 (01-55) をタイプし、[→]キーを押して次の項目*に移ります。**Page end: 55****4]** ページエンドを変更したい場合は、2桁の数字 (04-99) をタイプし、[→]キーを押して次の項目*に移ります。**Line space: 1****5]** 行ピッチを変更したい場合は、[RETURN]キーを押します。次に[→]キーを押して次の項目*に移ります。**Pitch: 10****6]** 文字ピッチの設定を変更したい場合は、[RETURN]キーを押します。次に[→]キーを押して次の項目*に移ります。**L t t t . . . h R****7]** マージン、タブ、デシマルタブを設定します (20,22,30ページ各参照)。

- カーソルを移動して各設定位置の変更、確認を行ってください。
- 変更を保存せずにこの操作を中止したい場合は、[FORMAT]キーを押します。

8] [☆]キーを押すと、新しいフォーマットの文書が登録されます。

* 次の項目を省略してもっと先の項目に進みたい場合は[→]キーを、前の項目に戻りたい場合は[←]キーを、それぞれ設定したい項目が表示されるまで押してください。途中で[☆]キーを押すと、その時点まで行われた変更が登録されます。その他の項目は変更されません。

ソフトハイフン：

文書を編集中、一時的に単語をハイフンで分割して次の行に送ります。長い単語全体が次の行に移動するのを避けます。ページフォーマットを変更してから後で文書を印字する場合、必要に応じてハイフンが取られたり挿入されたりします。

文書呼び出し

カーソル移動



- 1] 文書呼び出します (52ページ参照)。
- 2] ハイフンの後に続く文字にカーソルを移動します。
- 3] [CODE]キーを押しながら[-]キーを押してソフトハイフンを入力します。
 - ソフトハイフンの位置が、ディスプレイ上に"■■■"で表示されます。

ハイフンサーチ：

行末でハイフンを付けて分割できる単語で、ワードラップ機能 (23ページ参照) によって次の行に送られてしまっているものを検索します。ホットゾーンより長い単語で次の行にワードラップされている単語が表示されます。文書の行末が不揃いにならないような印字ができます。

文書呼び出し



- 1] 文書呼び出します。(52ページ参照)
 - 検索を始める前に、カーソルが文頭にあることを必ず確認してください。
- 2] [CODE]キーと[Y]キーを押すと、検索が始まります。
 - ハイフンを使用できる単語が見つかったら、ピッと音が1回鳴ります。
- 3] [←]キーを押して、ハイフンに続く文字にカーソルを移動します。
- 4] [-]キーを押してハイフンを入力するか、[CODE]キーと[-]キーを押してソフトハイフンを入力します。
 - 検索された単語をハイフンで分割する必要がないときは、[CODE]キーと[Y]キーを押すと、その単語をとばして次の単語を検索します。
 - 必要に応じてステップ2から4を繰り返します。
 - 文末に達してハイフン検索が終了すると、ピッピッと音が2回鳴ってカーソルが止まります。

自動ハイフン：

自動ハイフン機能は、スペルチェッカ/コレクタパック (81ページ参照) の取り付けられているタイプライタでのみ使用できます。登録済文書を印字している時に、自動的にハイフンが付けられます。この設定は、電源を切った後も保持されます。

文書呼び出し



- 1] 文書呼び出します。(52ページ参照)
- 2] [CODE]キー、[SHIFT]キー、[Y]キーを同時に押して、この機能をオン/オフします。
 - 自動ハイフン機能がオンになると、ピッピッピッと音が3回鳴ります。
 - 自動ハイフン機能がオフになると、ピッと音が1回鳴ります。

強制改ページの挿入：

文書の入力・編集を行っているときに、1ページの長さを調整し、ページを改めることができます。

文書呼び出し

カーソル移動



1] 文書を呼び出します (52ページ参照)。

2] 強制改ページを挿入したい位置にカーソルを移動します。

3] [CODE]キーと[V]キーを押して強制改ページを挿入します。

- 文字印字モード (13ページ参照) では、用紙が自動的に排紙されます。
- 強制改ページを削除するには、ページブレイクの次にくる最初の文字にカーソルを移動し、[⊗]キーを押します。
- 強制改ページの入った文書の印字は、54ページを参照してください。

登録済文書の印字スタイルの変更：

登録されている文書の印字スタイル (ボールド文字、アンダーライン) を変更します。文字を削除してタイプし直す必要はありません。通常の文字は、ボールドかアンダーラインの付いた文字に変更できます。逆に、ボールド文字やアンダーラインの付いた文字を通常の文字に戻すこともできます。

文書呼び出し

カーソル移動



または



または



1] 文書を呼び出します (52ページ参照)。

2] 変更したい文字にカーソルを移動します。

3] [CODE]キーと[U]キーを押して、この機能に入ります。

- 印字スタイルが変更されると、ピピピピッと音が3回鳴ります。
- ステップ4と5で指示された以外のキーを押すと、ブザーが鳴って、変更モードから出てしまいます。その時は、ステップ3を繰り返してこのモードにもう一度入ってください。

4] [X X / XX]キーまたは[XX]キーを押して、印字スタイルを設定します。

- 現在設定されている印字スタイルが、ディスプレイ上に"X X","XX"または"**XX**"で表示されます。
- ボールド文字やアンダーラインの付いた文字を通常の文字に変更するには、ディスプレイ上の印字スタイルの記号が消えるまで、上述のキーを押してください。

5] [→]キーまたは[←]キーを押して、1文字ずつ変更します。

- 上述のキーを押すたびに、カーソル上の文字が現在の印字スタイルに変更されます。

6] [☆]キーを押して、この操作を終了します。

- 操作が終了すると、短い音が1回鳴ります。

■ブロックオペレーション

文書のブロック全体を効率よく編集することができます。ブロックの範囲を指定すれば、そのブロックをコピーしたり、移動や削除を行ったりすることができます。また、指定したブロック内で印字モード（ノーマル、ボールド文字、アンダーライン）を変更することもできます。

- ブロックは、行印字モードまたは行末揃え印字モードで文書を登録する場合、あるいはすでに登録済みで呼び出した文書の中でのみ指定できます。
- ブロックが指定されていると、テキストを編集することはできません（ただし、指定ブロックの印字モード変更はできます）。
- ブロックオペレーション（57-59ページ参照）を行った後、他のキーを押したり他の機能を実行したりせずに[UNDO]キーを押すと、ブロックオペレーションはキャンセルされます。

ブロックの範囲設定：

文書呼び出し

カーソル移動



カーソル移動



ブロック編集

または



1] 登録済文書を呼び出します（52ページ参照）。

2] カーソル（51ページ参照）をエディットしたいテキストブロックの文頭に移動します。

THIS TYPEWRITER PROVIDES EFFICIENT AND E

3] [BLOCK]キーを押します。

- ブロックの最初の文字の上にラインが表示されます。

THIS TYPEWRITER PROVIDES EFFICIENT AND E

4] カーソル（51ページ参照）をブロックの最後の文字の右に移動します。

- ブロックの指定は、右から左へ設定することもできます。
- コマンドを使用したテキストがブロック内に入る時は、そのコマンドの記号も必ず指定範囲内に入るようにしてください。

THIS TYPEWRITER PROVIDES EFFICIENT AND E

5] [STAR]キーを押すと、ブロックが設定されます。

- ブロック内の文字とスペースの上には、ラインが表示されます。

THIS TYPEWRITER PROVIDES EFFICIENT AND E

6] 58-59ページに説明した手順で、ブロックを編集します。

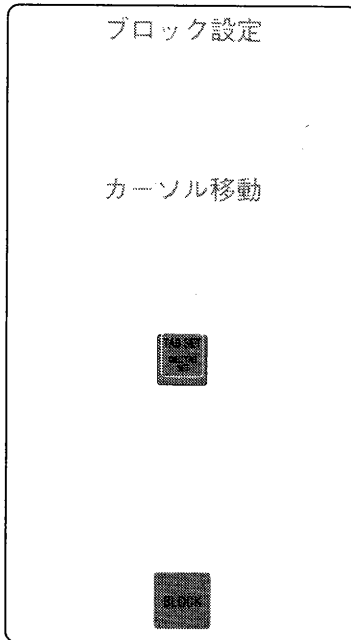
- ブロックが指定されている時に電源スイッチを切ると、電源スイッチを再度入れたときにブロックの指定は無効となります。

または

変更を行う前に[UNDO]キーを押して、ブロックの指定をキャンセルします。

ブロックのコピー：

文書の一部をコピーし、これを同じ文書の他の位置に挿入します。（この時、コピー元のブロックはそのまま残っています）。コピーできるブロックのサイズの限度は、メモリ残量（51ページ参照）によって異なります。



- 1] コピーするブロックの範囲を設定します（57ページ参照）。

THIS TYPEWRITER PROVIDES EFFICIENT AND E

- 2] コピーを挿入したい位置の最初に、カーソル（51ページ参照）を移動します。

THIS TYPEWRITER PROVIDES EFFICIENT AND E

- 3] [TAB SET]キーを押すと、ブロックが挿入されます。

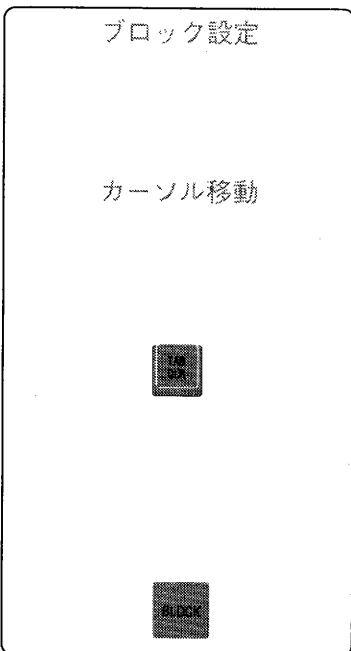
- 必要に応じてステップ2と3を繰り返してください。
- 指定ブロックのコピーを取り消すには[UNDO]キーを押してください。

IS EFFICIENT TYPEWRITER PROVIDES EFFICIE

- 4] [BLOCK]キーを押してコピー操作を終了します。

ブロックの移動：

文書の一部を、同じ文書の他の位置に移動します。指定ブロックのサイズに限度はありません。



- 1] 移動するブロックの範囲を設定します（57ページ参照）。

TER PROVIDES EFFICIENT AND EASY TO USE _F

- 2] 移動先の位置の最初にカーソル（51ページ参照）を動かします。

THIS TYPEWRITER PROVIDES EFFICIENT AND E

- 3] [TAB CLR]キーを押すと、指定した位置にブロックが移動します。

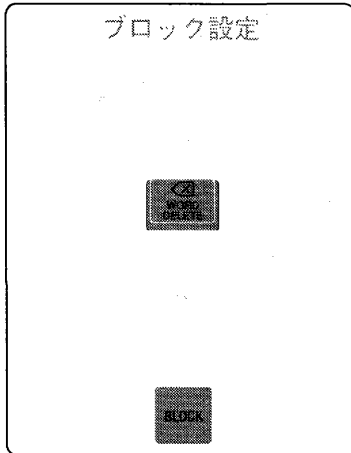
- 必要に応じてステップ1-3を繰り返してください。
- [UNDO]キーを押すと、移動したブロックが元の位置に戻ります。

HIS EFFICIENT AND EASY TO USE TYPEWRITER

- 4] [BLOCK]キーを押して移動操作を終了します。

ブロックの削除：

文書の一部を削除します。削除するブロックのサイズに限度はありません。



- 1) ブロックの範囲を設定します (57ページ参照)。

THIS TYPEWRITER PROVIDES EFFICIENT AND E

- 2) [⊠]を押すと、指定した範囲のブロックが削除されます。

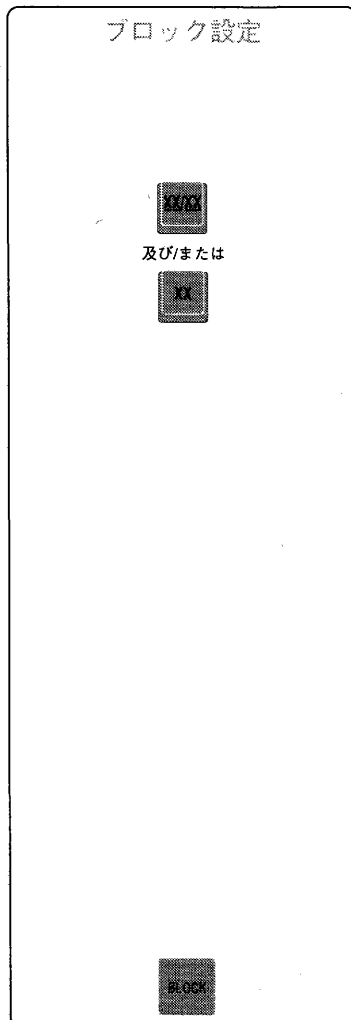
- ブロックを元の位置に戻すには、[UNDO]を押してください。

TYPEWRITER PROVIDES EASY TO USE FEATURES

- 3) [BLOCK]キーを押して削除を完了し、この操作を終了します。

ブロック内の印字スタイルの変更：

指定した部分の文字を、アンダーラインのついた文字やボールド文字に変更したり、逆にノーマルの文字に変更したりすることができます。



- 1) ブロックの範囲を設定します (57ページ参照)。

TYPEWRITER PROVIDES EFFICIENT AND EASY TO USE F

- 2) [X X / XX]や[XX]を押して、印字スタイルを変更します。

- 印字スタイルが変更されると、画面に"X X","XX","XX"など、新しい印字スタイルに該当する記号が表示されますが、現在の設定は表示されません。
- 以下に挙げる例では、ノーマルの文字がアンダーライン付の文字、ボールド文字、アンダーライン付のボールド文字に変更されています。逆に、すでにアンダーラインやボールドになっている文字に対して上述のステップ1と2を行うと、ノーマルの印字スタイルに戻ります。
- 変更を取り消したい場合は、[UNDO]キーを押してください。

TYPEWRITER PROVIDES EFFICIENT AND EASY T

単語ごとの
アンダーライン

TYPEWRITER PROVIDES EFFICIENT AND EASY T

連続アンダーライン

TYPEWRITER PROVIDES EFFICIENT AND EASY T

ボールド文字のみ

TYPEWRITER PROVIDES EFFICIENT AND EASY T

単語ごとのアンダー
ラインとボールド文字

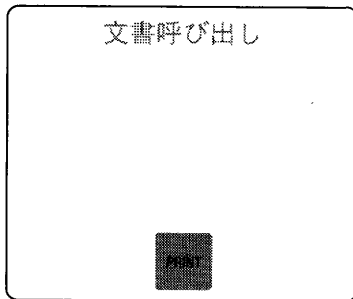
TYPEWRITER PROVIDES EFFICIENT AND EASY T

連続アンダーラインと
ボールド文字

- 3) [BLOCK]キーを押して操作を終了します。

■登録済文書の印字

登録済みの文書を、登録時のページフォーマットか、現在設定されているページフォーマットで印字します。印字には、オプションのカットシートフィーダを使用できます（83ページ参照）。



1) 文書を呼び出します（52ページ参照）。

- 現在設定されているページフォーマットで印字する場合は、[MARGIN RELEASE]キーを押します。
- 文書内の特定の位置から印字を始める場合は、カーソルをその位置まで移動させ、（51ページ参照）[☆]キーを押し、ステップ2に進みます。

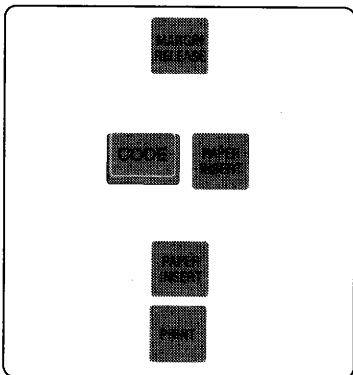
2) [PRINT]を押して印字を開始します。

- 印字を中断するには[PRINT]キーを押し、再開するにはもう一度[PRINT]キーを押します。
- 印字を中止するには、[CODE]キーと[☆]キーを押します。

強制改ページの入った文書の印字：

印字したい登録済文書に強制改ページが入っている場合は、上述のステップ1,2を行った後、次の手順に従ってください。ディスプレイ上には、各ページの最後に"Page end!"が表示されます。

- オプションのカットシートフィーダを使用する場合は、この操作は必要ありません。



1) [MARGIN RELEASE]キーを押します。

- 次のステップに移る前に、他のキーを押さないでください。

2) [CODE]キーと[PAPER INSERT]キーを押して、用紙を自動的に排紙します。

- 新しい用紙を挿入するときに、プラテンノブを使用しないでください。

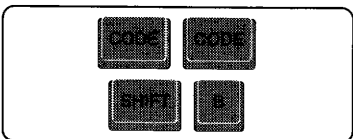
3) [PAPER INSERT]キーを押して、自動的に新しい紙を給紙します。

4) [PRINT]キーを押して、新しいページに印字します。

- 新しいページに印字するたびに、ステップ1-4を繰り返してください。

両方向印字：

両方向印字を選択すると、左から右に文章が印字された後、右から左に印字され、キャリアの移動距離が短縮されて、印字時間も節約できます。

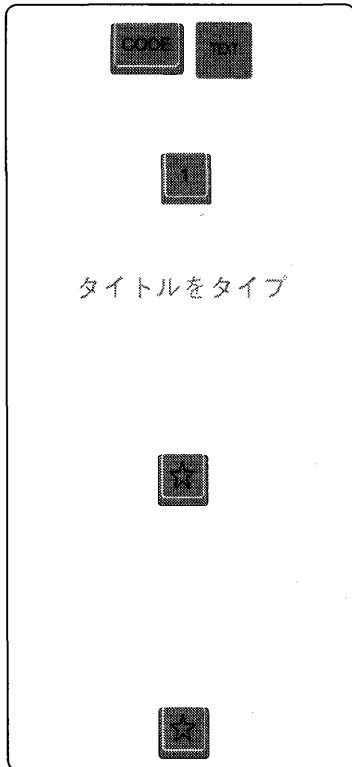


両方の[CODE]キー、[SHIFT]キー、[B]キーを押して、この機能をオン/オフします。

- 両方向印字がオンになると、ピッピッピッと音が3回鳴ります。
- 両方向印字がオフになると、ピッと音が1回鳴ります。

登録済文書の削除

テキストメモリを有効に使用するために、不要な文書は削除することをおすすめします。



1) [CODE]キーと[TEXT]キーを押します。

1. Delete 2. Change Title 3. Copy

2) [1]キーを押します。

Title: *DELETE*

3) 削除したい文書のタイトルをタイプします。

- 登録されているタイトルが思い出せない場合は、選択したいタイトルが表示されるまで [←]/[→]キーを押し続けてください。
- 文書を削除する前にこの操作を中止したい場合は、[UNDO]キーを押します。

4) [☆]キーを押してください。

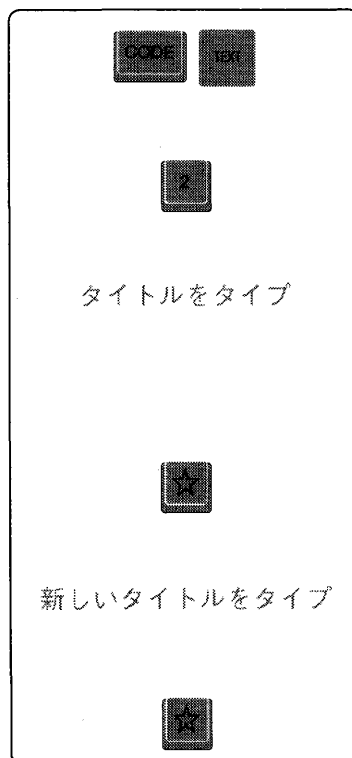
Press ☆ to delete

- 文書を削除する前にこの操作を中止したい場合は、[UNDO]キーを押します。

5) [☆]キーを押して文書を削除します。

登録済文書のタイトル変更

すでに登録されている文書のタイトルを変更します。



1) [CODE]キーと[TEXT]キーを押します。

1. Delete 2. Change Title 3. Copy

2) [2]キーを押します。

Title: *CHANGE TITLE*

3) 変更したいタイトルをタイプします。

- 登録されているタイトルが思い出せない場合は、選択したいタイトルが表示されるまで [←]/[→]キーを押し続けてください。
- タイトルを変更する前にこの操作を中止したい場合は、[UNDO]キーを押します。

4) [☆]キーを押します。

New Title: *CHANGE TITLE*

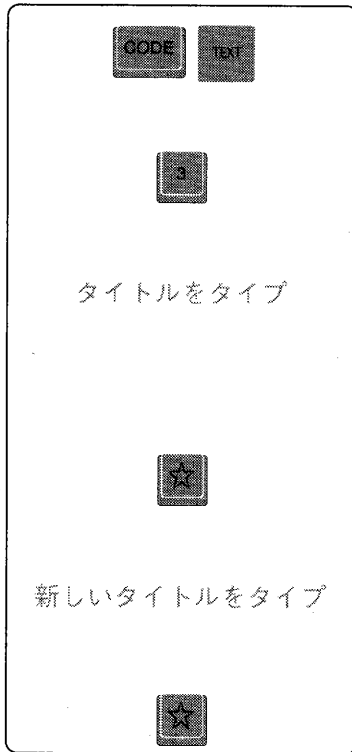
5) 新しいタイトルをタイプします。

- タイトルを変更する前にこの操作を中止したい場合は、[UNDO]キーを押します。

6) 終了したら[☆]キーを押して変更したタイトルを保存します。

■登録済文書のコピー

登録済文書全体をコピーしてテキストメモリの中に保存します。すでに登録されている文書を基に新しい文書を作成し、その両方を保存して必要な時に呼び出すことができます。



1) [CODE]キーと[TEXT]キーを押します。

1. Delete 2. Change Title 3. Copy

2) [3]キーを押します。

Title: *COPY*

3) コピーしたい文書のタイトルをタイプします。

- 登録されているタイトルが思い出せない場合は、選択したいタイトルが表示されるまで [←]/[→]キーを押し続けてください。
- タイトルを変更する前にこの操作を中止したい場合は、[UNDO]キーを押します。

4) [☆]キーを押すと次のメッセージが表示されます。

New Title: *COPY*

5) 新しいタイトルをタイプします。

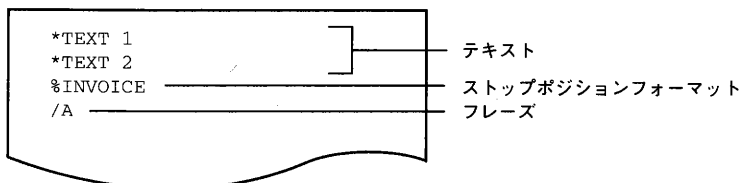
- コピーを行う前にこの操作を中止したい場合は、[UNDO]キーを押します。

6) [☆]キーを押して、新しいタイトルのついた文書を保存します。

■タイトルライブラリの印字

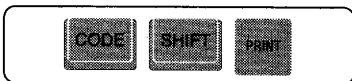
メモリに登録されている文書のタイトルやサイズ（ストップポジションフォーマット、フレーズも含む）を印字します。

例:



- タイトルの前に付いている記号は、登録されている内容の種類を示します。

*: 文書
%: ストップポジションフォーマット
/: フレーズ



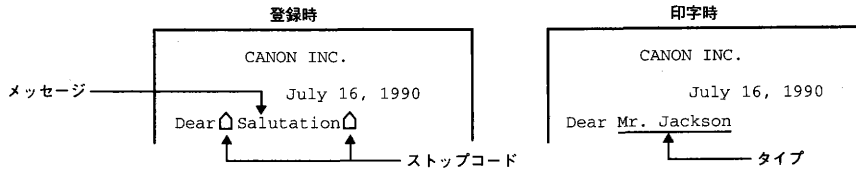
1) [CODE]キー、[SHIFT]キー、[PRINT]キーを押して、タイトルライブラリを印字します。

- タイトルはまず内容の種類別、次にアルファベット順に保存されます。また、文書、ストップポジションフォーマット、フレーズの順番で印字されます。
- 一時的に印字を中断するには[PRINT]キーを押してください。もう一度[PRINT]キーを押すと、印字が再開されます。
- この操作を中止する場合は、[CODE]キーと[☆]キーを押します。

ストップコード

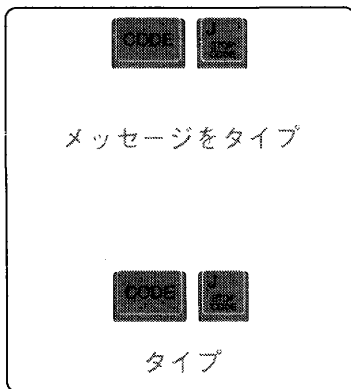
文書にストップコードを挿入すると、その文書を印字するときに、挿入したストップコードの位置で印字が一時中断します。そこでさまざまな語句を挿入することができます。書式の決まった手紙の名前や住所だけを変えて印字するのに便利です。ストップコードは必要なだけ挿入できます。この機能は印字をオフにして文書を保存するときのみ使用できます（51ページ参照）。

例:



■ストップコードの入力

印字をオフにして文書を入力している時や、文書呼び出した後にのみ行います。



1] [CODE]キーと[J]キーを押して、メッセージの前にストップコードを入力します。

- ディスプレイ上では、ストップコードの位置に"□"が表示されます。

2] メッセージをタイプします。

- メッセージには40文字まで使用でき、ディスプレイ上に表示されますが、印字はされません。

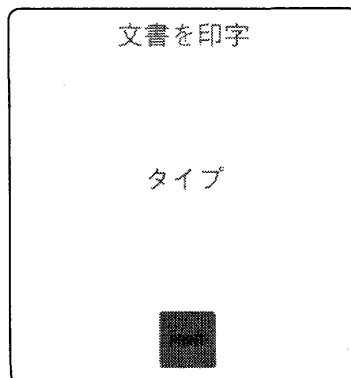
3] [CODE]キーと[J]キーを押します。

4] タイピングを続けます。

- 必要に応じてステップ1-3を続けます。
- ストップコードの削除は、文字の削除と同じ方法で行います。（26ページ参照）

■ストップコードを使った文書の印字

文書にストップコードが含まれていると、ストップコード（メッセージ）の位置で印字が中断します。その時点でさまざまな語句を挿入することができます。



1] 登録済文書を印字します（60ページ参照）。

- 各ストップコードごとに印字が中断し、ピッと音が1回鳴って"PAUSE!"が表示され、設定したメッセージがディスプレイ上に現れます。

2] 挿入したいデータをタイプします。

- ストップコードでの挿入時にはキャプスロック、印字モード、キーボードモードをすべて変えることができますが、次のステップでまた元の設定に戻ります。

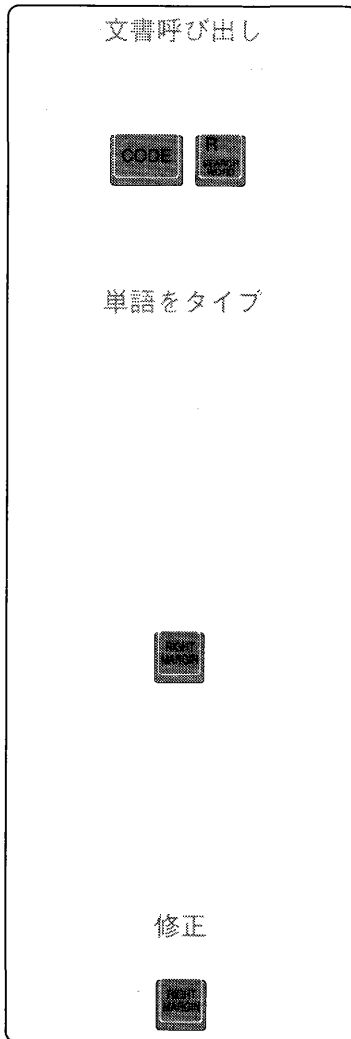
3] [PRINT]キーを押して印字を続けます。

サーチ(検索)・リプレース(置き換え)

登録済文書の中の、指定した語句を検索します。検索された語句は、マニュアルで訂正したり自動に置き換えたりすることができます。語句やフレーズを置き換えることに確認するか、確認しないで自動的にすべてを置き換えてしまうかを選ぶことができます。

■サーチ(検索)

文書内の指定した語句を検索します。改行やストップコードなどのコマンド記号も検索できます。



1] 文書呼び出します (52ページ参照)。

- 検索は、なるべく文頭から始めてください。

2] [CODE]キーと[R]キーを押します。

Search word:

3] 検索したい語句をタイプします。(例:CANON INC.)

CANON INC.

- 一度に検索できる語句の長さは30文字までです。
- 検索したい語句は、文書内に出てくる通りにタイプしてください。(大文字、小文字、ハイフン、カンマやピリオド、スペース等)
- 短い単語を検索する時に、単語の前後にスペースをタイプすると、同じ綴りの入っている長い単語を検索してしまうのを避けることができます。(例:this)

4] [RIGHT MARGIN]キーを押すと、最初に出てくる語句がカーソルの前に表示されます。

from CANON INC. The machine that makes

- 文書内に検索した単語やフレーズがない場合は、アラームが2回鳴ります。

5] 必要に応じて検索された語句を変更します。

6] [RIGHT MARGIN]キーを押して、検索を続けます。

- カーソル位置と文末との間に検索する語句がないと、検索は終了し、ピピッと音が2回鳴ります。

■サーチ(検索)とリプレース(置き換え)

指定した語句を文書内で検索し、新しい語句に置き換えます。改行やストップコードなどのコマンド記号は置き換えできません。

文書呼び出し



単語をタイプ



新しい単語をタイプ



その後/または



1) 文書を呼び出します (52ページ参照)。

2) [CODE]キーと[R]キーを押します。

Search word:

3) 検索したい語句をタイプします。(例:CANON INC.)

CANON INC.

- 一度に検索できる語句の長さは30文字までです。
- 検索したい語句は、文書内に出てくる通りにタイプしてください。(大文字、小文字、ハイフン、カンマやピリオド、スペース等)
- 短い単語を検索する時に、単語の前後にスペースをタイプすると、同じ綴りの入っている長い単語を検索してしまうのを避けることができます。(例:this)

4) [☆]キーを押します。

Replace word:

5) 置き換えたい語句をタイプします。(例:CANON U.S.A.INC.)

6) [RIGHT MARGIN]キーを押すと、最初に検索された語句が表示されます。

from CANON INC. The machine that makes

- 文書内に検索したい語句がないと、ピッピッと音が2回鳴ります。

7) [LEFT MARGIN]キーを押して、新しい語句に置き換えます。

from CANON U.S.A. INC. The machine that

その後/または

[RIGHT MARGIN]キーを押して検索を続けます。

- 必要に応じてステップ6と7を繰り返します。
- カーソル位置と文末との間に検索する語句がないと、検索・置き換えは終了し、ピッピッと音が2回鳴ります。

■グローバルリプレース（全検索と置き換え）

指定した語句を検索し、すべて自動的に置き換えを行います。

- 操作中にグローバルリプレースを中止したい場合は、いずれかのキーを押してください。

文書呼び出し



単語をタイプ



新しい単語をタイプ



- 1] 文書を呼び出します（52ページ参照）。
- 2] [CODE]キーを押しながら[R]キーを押します。

Search word:

- 3] 検索したい語句をタイプします。（例:CANON INC.）

CANON INC.

- 一度に検索できる語句の長さは30文字までです。
- 検索したい語句は、文書内に出てくる通りにタイプしてください。（大文字、小文字、ハイフン、カンマやピリオド、スペース等）
- 短い単語を検索するには、単語の前後にスペースをタイプすると、同じ綴りの入っている長い単語を検索してしまうのを避けることができます。（例:this）

- 4] [☆]キーを押します。

Replace word:

- 5] 置き換える語句をタイプします。（例:CANON U.S.A.INC.）

- 6] [CODE]キーと[LEFT MARGIN]キーを押すと、指定した語句がすべて置き換えられます。

from CANON U.S.A. INC. The machine that

- グローバル検索・置き換えが終了すると、ピッピッと音が2回鳴ります。

PART 7-メールマージ機能

メールマージ

この機能は、同じ内容の手紙を多数の宛先に送付するときに便利です。オリジナルレターを作成し、メールリストとメールマージ機能とを使用します。この機能を使えば、宛先が異なってもレターを何回もタイプする必要はありません。指定したメールリストとのマージを行うと、各レター上にそれぞれに異なる宛先や情報が印字されます。

■メールリストの作成

メールリストは、印字中にオリジナルレターに挿入する情報（名前、住所等）のリストです。メールリスト内の情報の各グループは、「レコード」と呼ばれます。（例:名前、住所、郵便番号は、ひとまとめにして一つのレコードと言えます）。このレコードが、更に「フィールド」に分割されています。レコード内の各フィールド番号（タイピングされた情報の順序）を使って、オリジナルレター上の指定位置（マージポジション）に情報を挿入します。各レコードは最高9つのフィールド、またメールリストは全部で250のレコードが入力できます。（入力できるレコードの数は、各レコードに入力されたフィールドの数と、メモリ残量によって異なります。）

- メモリに登録できるメールリストの数とサイズは、メモリ残量（51ページ参照）によって異なります。
- すでにあるメールリストを呼び出すには、次のステップ1-5を行ってください。
- この操作を中止するには、[UNDO]キーを押してください。



1) [TASK]キーを押します。

1. Mailing Lists 2. On Line



2) 数字キーの[1]を押します。

1. Create /Recall 2. Delete



3) 数字キーの[1]を押します。

新しいタイトルをタイプ

4) メールリストのタイトルをタイプします。（最高8文字まで）

- メールリストを呼び出すとき、[←]/[→]キーを使って、すでにあるタイトルを選択することもできます。
- [RELOC]キーを押すと、すでにあるメールリストの最後のタイトルまで表示され、[CODE]キーと[RELOC]キーを押すと、リストの最初に戻ります。
- メールリストを呼び出したときに特定のレコードが選択されるようにするには、[TAB CLR]キーか[TAB SET]キーを押します。



5) [☆]キーを押します。

Number of fields: 1

タイプ (1-9)

6) 1桁の数字 (1-9) をタイプして、設定したいフィールド番号を選択します。



情報をタイプ



情報をタイプ



7) [☆]キーを押して、レコードを作成します。

Record number: 1

次に画面が変わります。

Field number: 1

8) 最初のフィールドに情報を入力します。(最高40文字まで)

9) [⇐]キーを押して、カーソルを次のフィールドに動かします。

- [⇐]を押すと、一つ前のフィールドに戻ります。

10) フィールドに情報を入力します。

- 必要なフィールドがすべて入力されるまで、ステップ9と10を繰り返します。
- フィールドに情報を入力しない場合、その部分は、レコードを印字したときに空白のスペースとなります。

例: 6つのフィールドにそれぞれ情報をタイプした場合:

フィールド1:	Mr. Paul Stephen
フィールド2:	Senior Architect
フィールド3:	201 McKinley Lane
フィールド4:	Marthasville
フィールド5:	Oregon
フィールド6:	97110

11) [TAB CLR]キーを押して、次のレコードにカーソルを移動します。

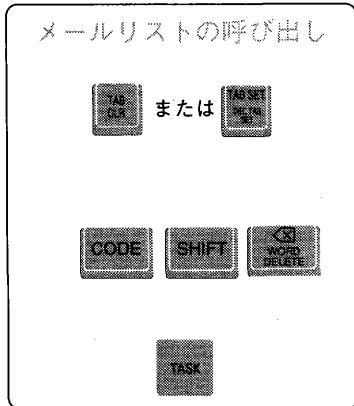
- 必要なレコード全部にタイプするまで、ステップ8-11を繰り返してください。
- [TAB SET]キーを押すと、一つ前のレコードに戻ります。

12) [TASK]キーを押して、この操作を終了します。

■レコードの削除

レコードをメールリストから削除します。

- 削除する前にこの操作をキャンセルするには、[UNDO]キーを押してください。



1) メールリストを呼び出します。(67ページのステップ1-5を参照のこと)

2) [TAB CLR]か[TAB SET]を押して、削除したいレコードを選びます。

- [RELOC]キーを押すと、リストの最後のタイトルが表示され、[CODE]キーと[RELOC]キーを押すと、リストの最初に戻ります

3) [CODE]キー、[SHIFT]キー、[⊞]キーを押して、レコードを削除します。

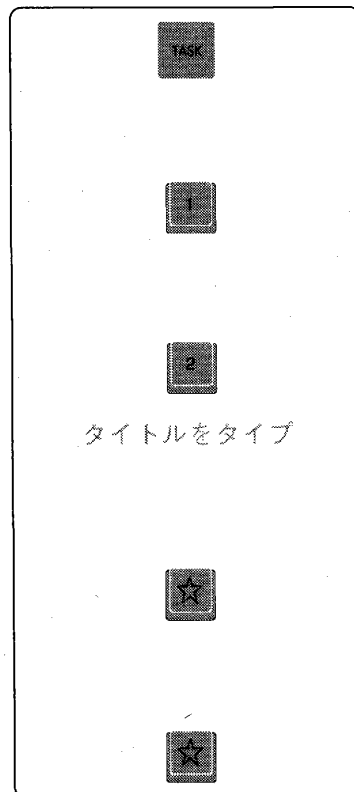
- 必要に応じて、ステップ2と3を繰り返してください。

4) [TASK]キーを押して、操作を終了します。

■メールリストの削除

メールリストを完全に削除します。

- 削除する前にこの操作をキャンセルするには、[UNDO]キーを押してください。



1) [TASK]キーを押します。

1. Mailing Lists 2. On Line

2) 数字キーの[1]を押します。

1. Create / Recall 2. Delete

3) 数字キーの[2]を押します。

4) 削除したいメールリストのタイトルをタイプします。

- タイトルを思い出せない場合は、削除したいタイトルが表示されるまで[←]/[→]キーを押します。

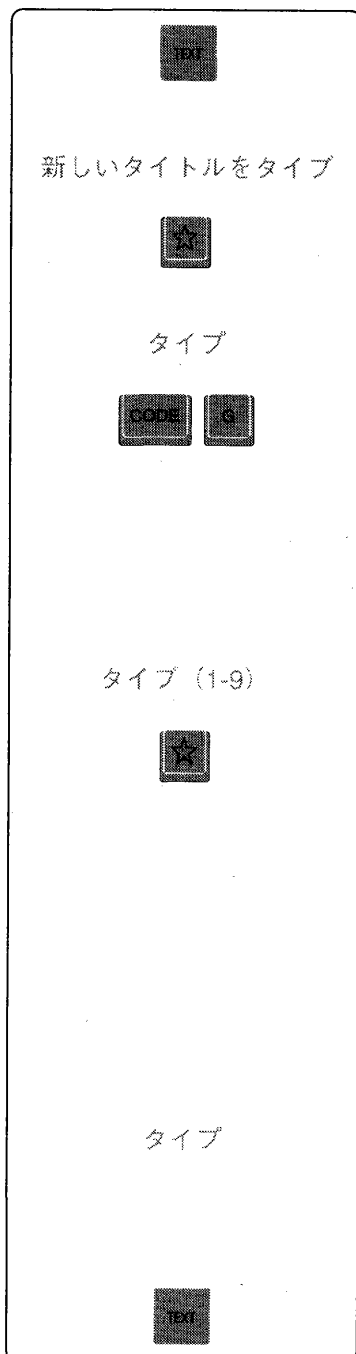
5) [☆]キーを押します。

Press ☆ to delete

6) [☆]キーを押して、メールリストを削除します。

■オリジナルレターの作成と登録

オリジナルレターをタイピングするとき、様々な情報を挿入する位置（マージポジション）にフィールド番号をタイプします。このフィールド番号に該当する情報が、指定されたマージポジションに挿入されるわけです。オリジナルレター用のモード設定とページフォーマットは、テキストモード（52,54ページ参照）に入る前後どちらでも設定することができます。オリジナルレターの作成方法は文書と同じなので、テキストメモリの項に述べられている文書機能を、オリジナルレターの作成・編集時に使うことができます。この機能は、封筒の印字用のフォーマットを設定するのにも使えます。



1] [TEXT]キーを押します。

Title: _____ -22090-

2] オリジナルレター用の新しいタイトルをタイプします。

3] [☆]キーを押します。

- 必要に応じて、レター（または封筒）用にページフォーマットを設定してください。

4] 文書をタイプします。

5] [CODE]キーと[G]キーを押して、マージポジションを入力します。

Type field number:

- 1行に複数のフィールドを入力したい場合はステップ5-7を繰り返して必要な情報を入力し、[RETURN]キーを押すか、次のフィールドを挿入する行に移動してください。（下記の例参照）

6] フィールド番号（1-9）をタイプします。

7] [☆]キーを押して、マージポジションを設定します。

例:

作成したいフォーマット	マージポジション入力
Mr. Paul Stephen, Senior Architect	[CODE] + [G]/1/[☆]/[CODE] + [G]/2/[☆]/[RETURN]
201 McKinley Lane	[CODE] + [G]/3/[☆]/[RETURN]
Suite 1A	
Marthasville, Oregon 97110	[CODE] + [G]/4/[☆]/[CODE] + [G]/5/[☆]/[CODE] + [G]/6/[☆]/[RETURN]

- 行印字、行末揃え印字モード（13,12ページ参照）の時は、フィールド番号がディスプレイ上に表示されます。（例:[M 1]）
- 必要に応じてステップ5-7を繰り返してください。

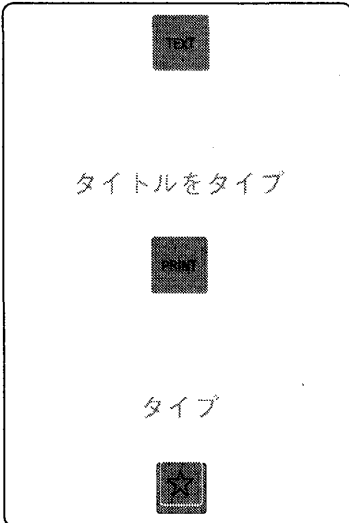
8] タイピングを続けます。

9] [TEXT]キーを押してオリジナルレターを登録します。

- メールリスト、及びメールマージの方法は67-71ページを参照してください。
- マージ機能を実行する前に校正用としてレターを印字する場合は、[TEXT]キーを押し、レターのタイトルをタイプしてから、[☆]キーを押し、最後に[PRINT]を押す代わりに[☆]キーを押しってください。印字が始まります。指定されたマージポジションが空白になって表示されます。

■メールマージの実行

オリジナルレターとメールリストを作成したら（67,70ページ参照）、メールマージ機能を実行することができます。



1) [TEXT]キーを押します。

Title: _ -22090-

2) 印字するオリジナルレターのタイトルをタイプします。

3) [PRINT]キーを押します。

Title: _ *MERGE* -22090-

4) オリジナルレターといっしょに印字するメールリストのタイトルをタイプします。

5) [☆]キーを押すと、メールリストから情報の挿入されたオリジナルレターの印字が開始されます。（印字機能についての詳細は、60ページを参照してください。）

- 最後のレコードが挿入されてオリジナルレターが印字されると、ディスプレイ上に"Press [PRINT]"が表示されます。この時点で、[CODE]キーと[PAPER INSERT]キーを押して用紙を排紙し、[PAPER INSERT]を押して新しい用紙を挿入します。[PRINT]キーを押して、次のレターを印字します。
- 印字を一時的に中止するには、[PRINT]キーを押します。[PRINT]キーをもう一度押すと、印字が再開します。
- 印字を完全に中止するには、[CODE]キーと[☆]キーを押します。

PART 8-スペルチェッカ/コレクタ

辞書

■メイン辞書

メイン辞書は約50,000語から構成されています。この辞書は、タイプされた単語が正しい綴りかどうかをチェックするときに使用されます。この辞書に単語を加えたり削除したりすることはできません。

- The words contained in the Main Dictionary are based on the American Heritage Dictionary.
- The spelling verification software used in this typewriter contains unpublished materials owned by Houghton Mifflin Company, licensed for use solely in Canon Firmware.
- Reproduction or disassembly of embodied computer programs or algorithms is prohibited.

■ユーザ辞書

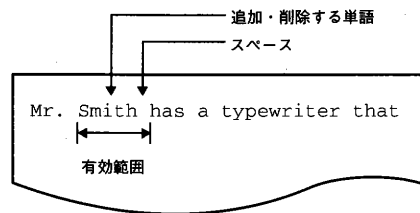
ユーザ辞書は、メイン辞書ではなくユーザの選んだ単語を300語まで登録することができます（例:固有名詞、会社、技術用語など）。

単語の登録・削除：

キャリア/カーソル移動

1] 登録または削除したい単語の有効範囲内に、キャリアまたはカーソルを移動します。

例:



- 単語の有効範囲とは、その単語の最初の文字から、単語のすぐあとのスペースまでをいいます。
- 既に印字された単語でも自動訂正用メモリ内に残っていれば、ユーザ辞書に加えたり、そこから削除したりすることができます。その場合は、登録または削除したい単語にキャリアを移動してください。

2] [CODE]キーを押しながら[2]キーを押して、単語を登録します。

- 単語が登録されると、ピッと音が1回鳴ります。
- メイン辞書やユーザ辞書にすでに登録されている単語を追加しようとすると、ディスプレイ上に"Already exists!"のメッセージが表示されます。
- 300語まで達すると、その時点までで一番使用頻度の低い単語が自動的に削除されて、新しい単語を追加できるようになります。ユーザ辞書の単語登録順は、アルファベット順ではなく、使用頻度の高い順になります。

注意：

- 文字はタイプされるべき通りに入力してください（例:大文字・小文字）。
- ユーザ辞書に小文字で登録されている単語は、実際にタイプされた文字が大文字、小文字にかかわらず、スペルチェックで正しいと判断されます。しかし、大文字の入った単語を登録した場合は、その通りにタイプしてください。たとえば、"Smith"と登録して、後でタイプ中に"smith"とタイプすると、スペルチェッカがこの"smith"を間違いであると判断します。というのは、ユーザ辞書には大文字"S"で登録されているからです。
- ユーザ辞書に追加できる単語の長さは、最長32文字までです。



または

または



[CODE]キーを押しながら[3]キーを押して単語を削除します。

- 単語が削除されると、ピッと音が1回鳴ります。
- メイン辞書やユーザ辞書に存在しない単語を削除しようとする、ディスプレイ上に "Nonexistent!" のメッセージが表示されます。

ユーザ辞書内の単語の印字*：

ユーザ辞書に登録されている単語を印字することができます**。



1) [CODE]キーと[8]キーを押して印字をします。

- 印字を一時的に中断するには、[PRINT]を押し、印字を再開するにはもう一度[PRINT]を押します。
- 印字を中止するには、[CODE]キーと[☆]キーを押します。
- ユーザ辞書に登録されている単語はアルファベット順に、現在のマージン設定で印字されます。

ユーザ辞書のサイズ変更*：

初めて本機をお使いになるときのユーザ辞書のサイズは、15語（100バイト）ですが、これを300語（2100バイト）まで拡張することができます**。

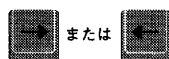
- この操作を中止するときは、[UNDO]キーを押します。



1) [CODE]キーと[7]キーを押します。

1. Mailing Lists 2. On Line

- 左側の数字は、ユーザ辞書の最大容量をバイト数で表しています。右側の数字は、テキストメモリに残っている容量を表しています。



2) [→]キーを押すとユーザ辞書のサイズが大きくなり、[←]キーを押すとサイズが小さくなります。

- ユーザ辞書内にすでに登録されている単語を保持するのに必要な容量よりも小さくしようとすると、アラームが1回鳴ります。この場合は、サイズを小さくする前に、不要な単語を削除してください。



3) [☆]キーを押して設定を終了します。

* この機能はテキストメモリや拡張RAMオプションと一緒に使えません。

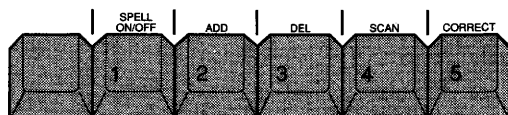
** この機能は、スペルチェッカが内蔵されている場合にのみ使用できます。

スペルチェッカ

この機能では、タイプライタ内のメイン辞書（72ページ参照）とユーザ辞書（72-73ページ参照）に対して、タイプされた単語の綴りをチェックします。綴りの間違いはマニュアルで訂正するか、スペルコレクション機能（75ページ参照）を使って訂正します。

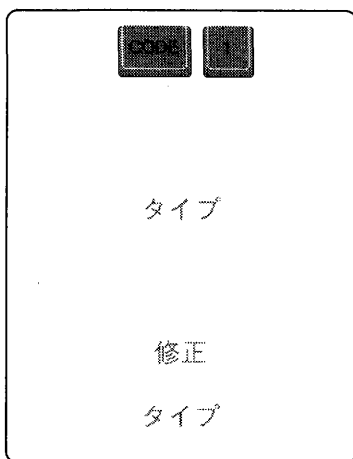
■キー配列

スペルチェッカ/コレクタ機能の操作は、以下のようなキーに配列されています。



■スペルチェック

タイプされた単語が正しく綴られているかをチェックします。綴りの間違っている単語は、印字する前でも後でも訂正できます。



1] [CODE]キーを押しながら[1]キーを押して、この機能をオン/オフします。

- スペルチェック機能がオンになると、ピッピッピッと3回音が鳴ります。
- スペルチェック機能がオフになると、ピッと1回音が鳴ります。
- この設定は、電源を切った後でも保持されます。

2] タイプします。

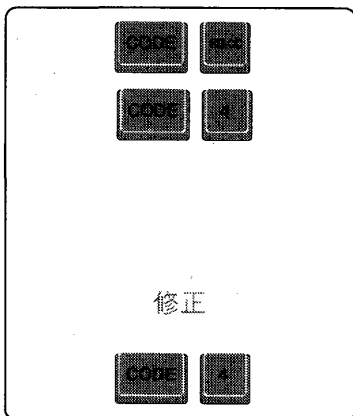
- メイン辞書、ユーザ辞書に載っていない単語がタイプされると、ピッピッピッと音が3回鳴ります。

3] 必要に応じて修正します。

4] タイプを続けます。

■スペルスキャン

文書全体をスキャンして、文書内のすべての単語の綴りを印字前にチェックします。文書を登録する前にスキャンすることもできますし、登録して呼び戻した後にスキャンすることもできます。綴りの間違いを迅速に訂正することができます。



1] [CODE]キーと[RELOC]キーを押して、文頭にカーソルを移動します。

2] [CODE]キーと[4]キーを押して、スペルスキャンを実行します。

- カーソルの位置から始まって文書全体をスキャンします。実行中は、ディスプレイ上に "Please wait.." という表示が現れます。
- メイン辞書、ユーザ辞書にない単語が見つかったら、ピッピッピッと音が3回鳴って、カーソルがその単語のすぐ後ろで止まります。

3] 必要に応じて修正します。

4] [CODE]キーと[4]キーを押して、スキャンを続けます。

- スキャンが終了すると、カーソルが文末で止まり、ピッピッと音が2回鳴ります。

スペルコレクション

タイプ中に、綴りの間違っただ単語を、メイン辞書、ユーザ辞書でチェックされた正しい綴りに置き換えます。この機能は、スペルチェックやスペルスキャンと併せて使うことができます。

- この機能は、現在のカーソル位置から始まりますので、実行する前にカーソルを文頭に移動しておくことをおすすめします（51ページ参照）。



タイプ



または



または



タイプ

1) [CODE]キーと[1]キーを押してスペルチェックを実行します。

- スペルチェック機能がオンになると、ピッピッピッと音が3回鳴ります。

2) タイプします。

- メイン辞書、ユーザ辞書にない単語が見つかったら、ピッピッピッと音が3回鳴って、カーソルがその単語のすぐ後ろで止まります。

3) [CODE]キーと[5]キーを押して、スペルコレクションを実行します。

Please wait . . .

次に画面が以下のように変わります。

"SUGGESTION "

- メイン辞書に入っている正しい綴りの候補のうちのひとつが表示されます。

4) [RETURN]を押すと、次の候補が表示されます。

- 候補が全部表示されると、最初の候補に戻り、候補のリストをもう一度見ることができます。
- 適当な候補がないときは、ピッと音が1回鳴って、"Nonexistent!"の表示がディスプレイ上に現れます。

または

[☆]キーを押して単語を置き換えます。

または

単語を置き換える必要がないときは、[UNDO]キーを押します。

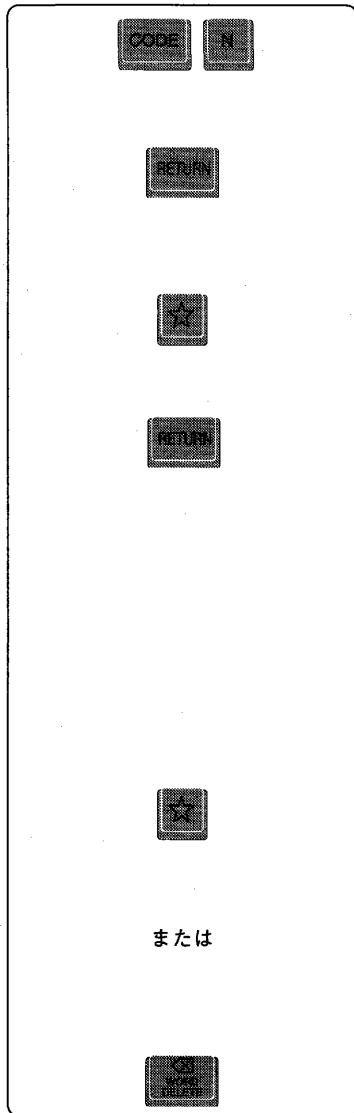
5) タイプを続けます。

- 必要に応じて、ステップ3,4を繰り返してください。

ディスプレイメッセージとキー配列の変更

ディスプレイ上に表示されるメッセージを10カ国語から選択できるほか、14種類のキー配列を選択できます（各国キー配列は、77-80ページを参照）。その場合、選択したキー配列に対応したデジタイザホイルを使用してください。設定は、電源を切った後でも保持されます。

- この操作を中止して、元のキー配列に戻したい場合は、[UNDO]キーを押します。



1) [CODE]キーと[N]キーを押します。

Message: English

2) [RETURN]キーを押して、他の言語を表示します。

- 10種類の言語が表示されます:英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、イタリア語、オランダ語、スウェーデン語、デンマーク語、ノルウェー語、フィンランド語

3) [☆]キーを押して選択します。

Keyboard: Japan

4) [RETURN]キーを押すと、他の国のキー配列の選択肢が表示されます。

- 14カ国のキー配列の選択肢が、次の順序で表示されます。

アメリカ	日本
ドイツ	ラテンアメリカ
スイス	カナダ
スウェーデン/フィンランド	スペイン
イギリス	オランダ
フランス	ノルウェー
イタリア	デンマーク

5) [☆]キーを押して選択します。

- この操作を中止して元のキー配列に戻したい場合は、[☆]キーの代わりに[UNDO]キーを押します。

または

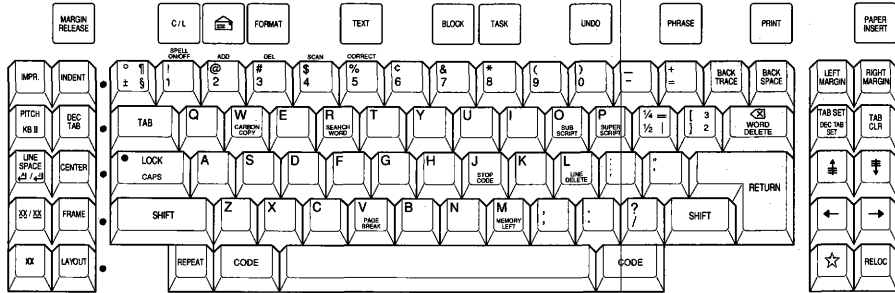
初期設定に戻る方法:

6) [⊗]キーを押すと、本機を初めて使用したときのディスプレイメッセージ、キー配列に戻ります。

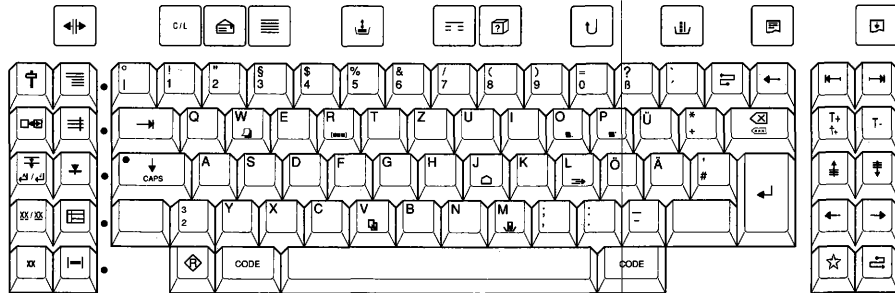
キー配列

76ページのリストにある各国のキーボードは、下記のような配列になっています。

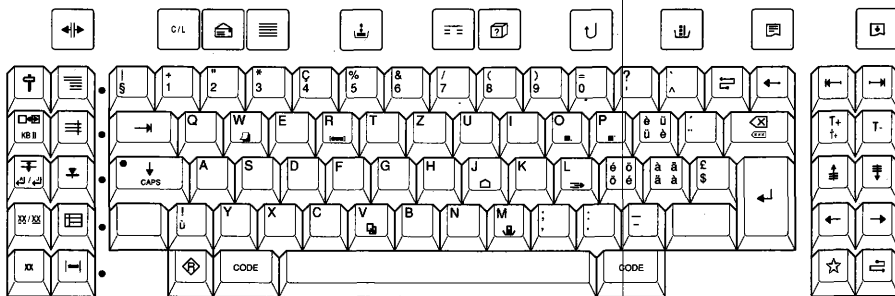
アメリカ (United States)



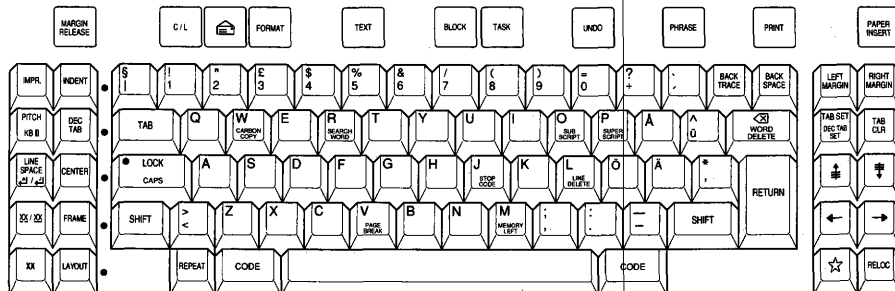
ドイツ (Germany)



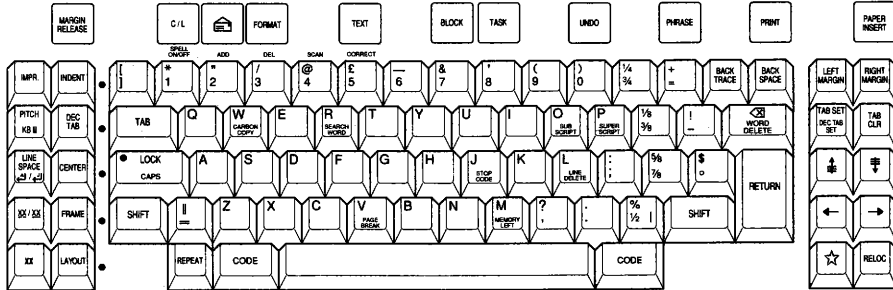
スイス (Switzerland)



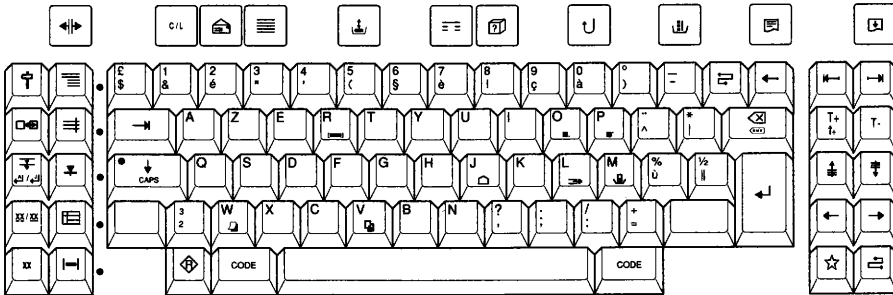
スウェーデン/フィンランド (Sweden/Finland)



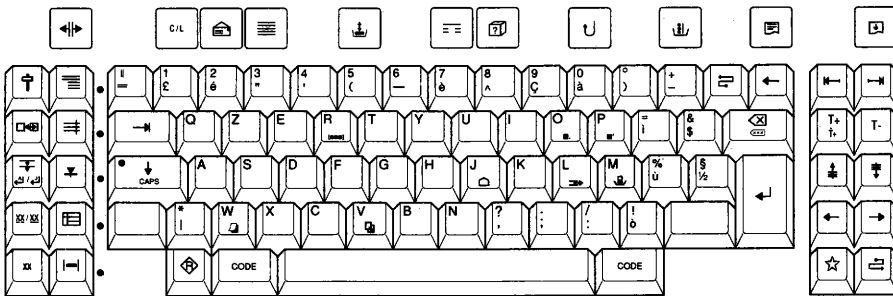
イギリス (United Kingdom)



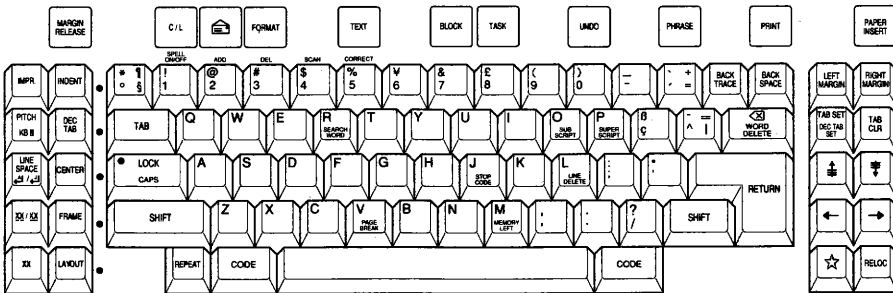
フランス (France)



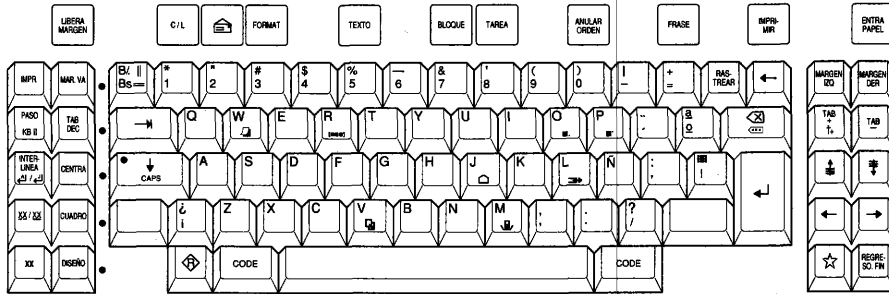
イタリア (Italy)



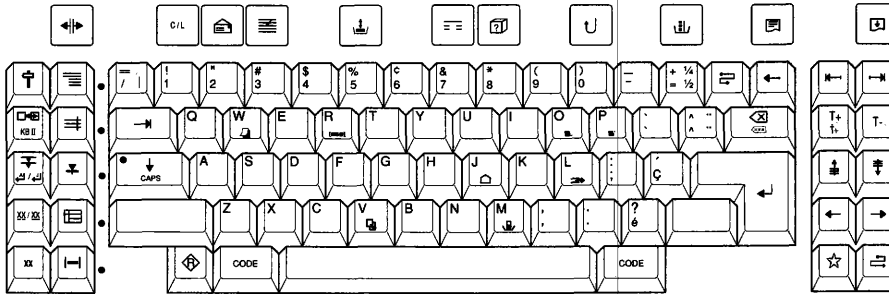
日本 (Japan)



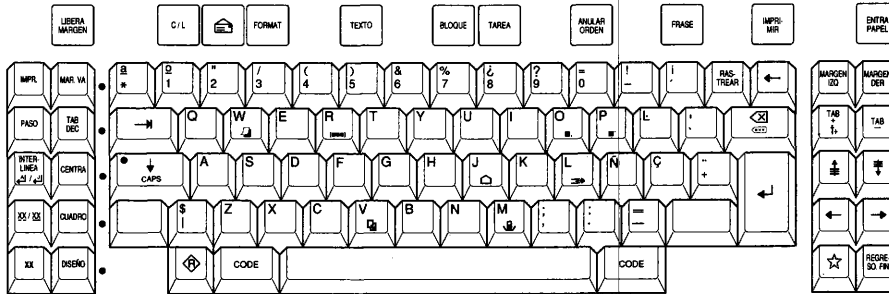
ラテンアメリカ (Latin America)



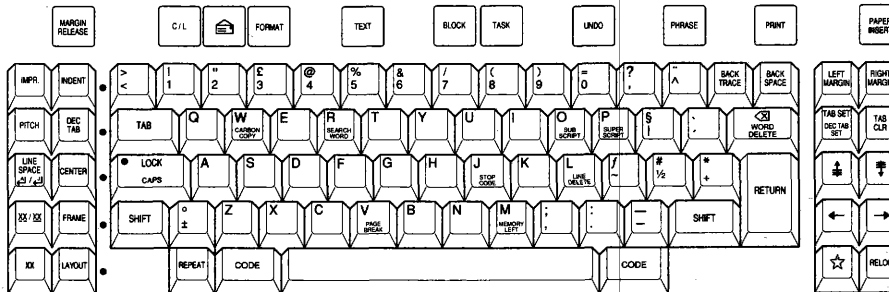
カナダ (Canada)



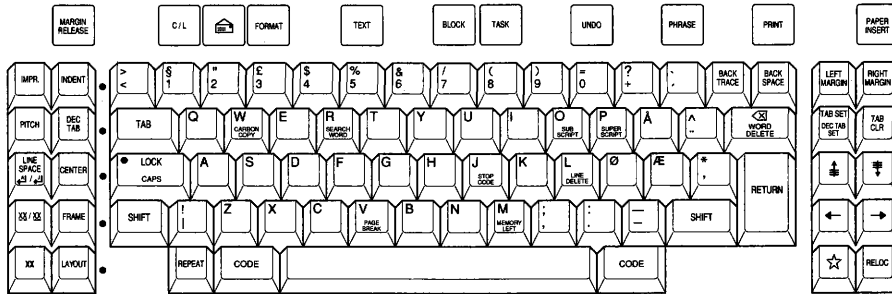
スペイン (Spain)



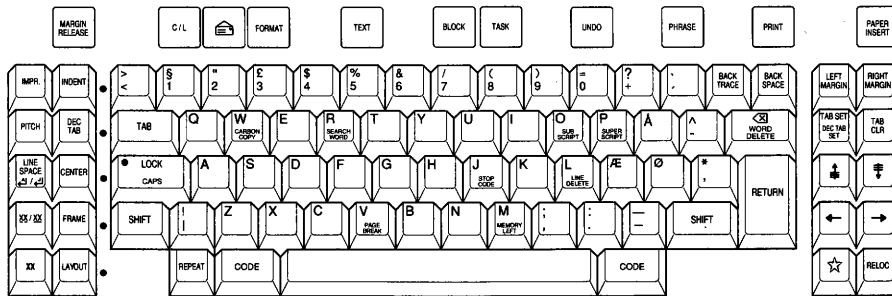
オランダ (Netherlands)



ノルウェー (Norway)



デンマーク (Denmark)



オプション

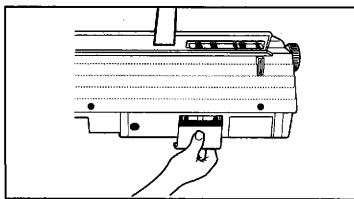
■スペルチェッカ/コレクタパック

このオプションのパックは、PART 8で説明したスペルチェッカ/コレクタと同じ機能を持っています。ただし、ユーザ辞書の表示とユーザ辞書のサイズの変更できる機能は付いておりません。

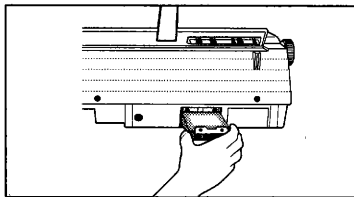
- The spelling verification software used in this typewriter contains unpublished materials owned by Houghton Mifflin Company, licensed for use solely in Canon Firmware.
- Reproduction or disassembly of embodied computer programs or algorithms is prohibited.

スペルチェッカ/コレクタパックの取り付け*：

注意！ ここでの作業は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。



- 1] タイプライタの後側にあるカバーを、左図に矢印で示した方向にスライドさせて取り外します。



- 2] パックを、ラベル面を上に向けて、止まるまでしっかりと押し込みます。

- 3] カバーを取り付けます。

- パックを取り出すには、カバーを開けて、パックをゆっくりと取り出し、カバーを取り付けてください。

* インターフェースユニットが取り付けられていると、スペルチェッカ/コレクタパックは使用できません。(82ページ参照)

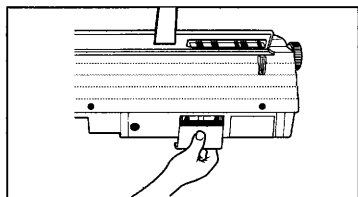
■ インターフェースユニット*

オプションのインターフェースユニットは、本機をホストコンピュータのプリンタとして作動させることができます*。オンライン/オフラインモードがオフラインになっていると、本機は通常のタイプライタとしての機能のみを果たします。オンラインモードにするには、以下の手順に従ってください。

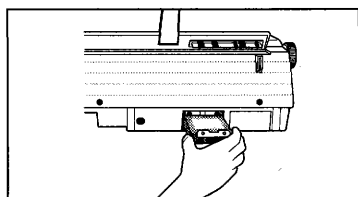
- 詳しくは、インターフェースユニットに同梱されている説明書をお読みください。

取り付け：

注意！ ここでの作業は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。



- 1] タイプライタの後側にあるカバーを、左図に矢印で示した方向にスライドさせて取り外します。



- 2] ユニットのラベル面を上に向けて、止まるまでしっかりと押し込みます。

- 3] カバーを取り付けます。

- ユニットを取り出すには、カバーを開けて、ユニットをゆっくりと取り出し、カバーを取り付けてください。

オンラインモードの設定：

- 4] [TASK]キーを押します。

1. Mailing Lists 2. On Line

- 5] 数字キーの[2]を押して、オンラインモードを設定します。

- 6] [CODE]キー、[SHIFT]キー、文字キーの[O]を同時に押すと、オフラインモードになります。

* AP740/AP6110にインターフェースユニットを用いた場合は、次の機能が使用できません：
電子メール、登録済文書の送信、文書ファイルの送信。

■ 拡張RAM

基本的なAP6110モデルで利用できるメモリ容量は20KBですが、拡張RAMを取り付けると、この容量を96KBまで増やすことができます。このRAMを取り付けると、メモリ容量を20KBずつ使用していくことができます。この拡張RAMの取り付けは、最寄りのキヤノン販売店にご相談ください。

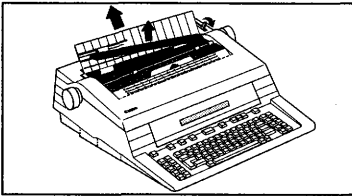
- 拡張RAMを取り付けると、ユーザ辞書のサイズは自動的に300語に設定され、変更することはできません。

■ カットシートフィーダ

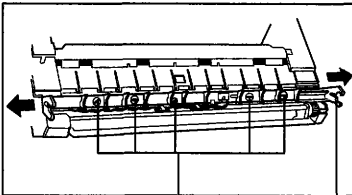
カットシートフィーダAP-CF40（オプション）を使うと、用紙を自動的に1枚ずつ給紙・排紙できるので、手間が省けます。同じ書類を何枚もタイプしなければならない時や、複数のページにわたる書類を作成するときなどに便利です。

取り付け：

注意！ この作業は、必ず電源を切ってから行ってください。

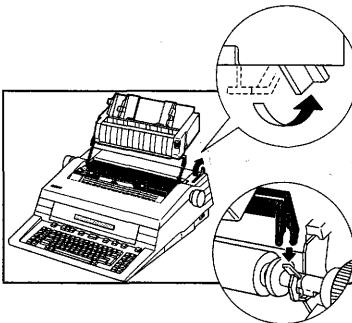


- 1] タイプライタの電源をオフにします。
- 2] タイプライタからペーパーサポートとイレーザテーブルを取り外します。
- 3] ペーパーベイルリリースレバーを手前に倒します。

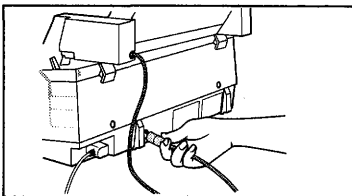


ネジ フック

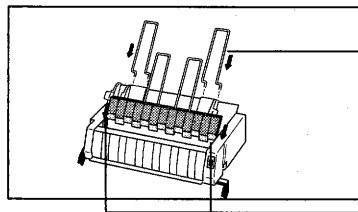
- 4] フィーダーユニット裏面の4本のネジをゆるめます。
- 5] フックを、プラテンの両端に取り付けられるような長さまでスライドさせます。
- 6] ネジをしめてフックを固定します。



- 7] プラテンの両端にフックを差し込みます。
- 8] カットシートフィーダの左右のスタンドを引きます。
- 9] ペーパーベイルリリースレバーを元の位置に戻します。



- 10] カットシートフィーダのプラグをタイプライタ裏面の接続端子に差し込みます。
 - プラグの切欠き側が上になるようにして差し込んでください。



11] ペーパーサポートを差し込みます。

ペーパーサポート

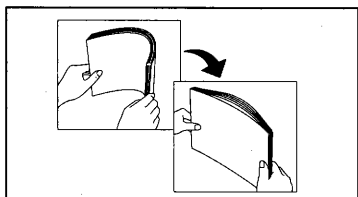
12] ペーパーインジェクションガイドの両側を、フィーダーユニット内部のガイドの中に差し込みます。

13] タイプライタの電源をオンにします。

ペーパーインジェクションガイド用スロット

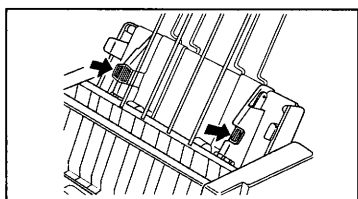
カットシートフィーダの使い方：

- 表面に光沢のある紙は使用しないでください。
- 標準重量が64-93g/m²の用紙を使用してください。
- 封筒は使用できません。

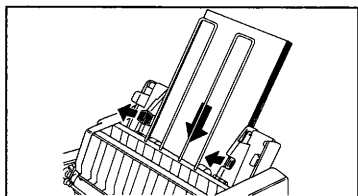


1] A4の用紙を厚さ6mmほどの枚数分用意します。

2] 紙をよくさばきます。



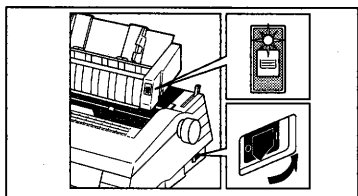
3] ペーパートレイの両端を、カチッとロックされるまで押し込みます。



4] 用紙をペーパートレイに差し込みます。

5] ペーパーエッジガイドを用紙の幅に合わせてスライドさせます。

6] ペーパートレイのロックを外して、ローラーが用紙を押さえるようにします。



7] タイプライタの電源をオンにします。

8] フィーダーの正面にあるスイッチを押します。

- 手動で用紙をセットすることもできます。
- カットシートフィーダの電源が入っていないときは、すべて手動で用紙のセットをおこないます。

9] [PAPER INSERT]キーを押して、給紙させます。

注意！ 紙詰まり

紙詰まりがおきると、アラームが1回鳴り、ディスプレイ上に"Paper jam!"のメッセージが表示されます。詰まった紙を取り除いてからカットシートフィーダスイッチを押してフィーダをリセットし、[MARGIN RELEASE]キーを押してタイプライタをリセットします。

トラブルシューティング

下記の表を参考にすると、操作上のトラブルが容易に解決します。対策を行っても改善が見られない場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。

問題	対策	参照ページ
電源スイッチをオンにしてもタイプライタが作動しない。	<ul style="list-style-type: none"> 他の電気製品を同じコンセントに接続してコンセントをチェックしてください。 	—
電源スイッチがオンでキャリアが振動しているが左マージンに移動しない。	<ul style="list-style-type: none"> デジホイールが正しく取り付けられているかチェックしてください。 タイプライタ内に異物が入っていないかチェックしてください。 	10 7
文字ピッチが正しくない。	<ul style="list-style-type: none"> 正しいピッチモードを設定してください。 	14
間違った文字が印字される。	<ul style="list-style-type: none"> キーボードモードが正しく設定されているか確認してください。 デジホイールが正しく取り付けられているか、またピッチの選択とデジホイールが合っているかチェックしてください。 	14 10, 14
印字が不鮮明である。	<ul style="list-style-type: none"> 適切なリボンと印字圧モードを設定してください。 リボンカセットが正しく取り付けられているかチェックしてください。 	14 8
印字しない。	<ul style="list-style-type: none"> リボンが終わっていないか確認してください。 リボンカセットとデジホイールが正しく取り付けられているかチェックしてください。 	8 8, 10
印字文字を消去できない。	<ul style="list-style-type: none"> 訂正用メモリの中にない文字を消去するときは、マニュアル訂正を行ってください。 コレクションテープを使いきっていないか確認してください。 コレクションテープが正しく取り付けられているかチェックしてください。 コレクションテープとリボンカセットのタイプが合っているか確認してください。 	25 9 9 9

アラームが鳴って操作できない場合

操作中に操作ミスがあった場合、アラームが鳴って知らせます。下記の表を参考にして、ミスを訂正してください。

アラーム	操作状況	原因	対策	参照ページ
1回	マージン設定時	<ul style="list-style-type: none"> 左右マージン間を1.5インチ（約3.8cm）より狭く設定しようとした。 	<ul style="list-style-type: none"> 左右マージン間が1.5インチ（約3.8cm）以上になるよう設定し直してください。 	20
	タブ、デシマルタブ設定時	<ul style="list-style-type: none"> 20個以上のタブを設定しようとした。 	<ul style="list-style-type: none"> 不要なタブ、デシマルタブはクリアしてください。 	22, 31
	マージン間、タブ間のセンタリング、右寄せ実行時	<ul style="list-style-type: none"> タイプした文字がマージン間、タブ間の指定範囲を越えてしまった。 すでにその行に文字が印字されていた。 	<ul style="list-style-type: none"> マージン、タブ間隔を広げるか、タイピング文字数を減らしてください。 印字された語句を消去してもう一度操作をやり直すか、電源スイッチを切り、もう一度入れて、操作を最初からやり直してください。 	27, 28 27, 28
	インデント/ブロックインデント設定時	<ul style="list-style-type: none"> 仮の左右マージン間を1.5インチ（約3.8cm）より狭く設定しようとした。 	<ul style="list-style-type: none"> 仮の左右マージン間が1.5インチ（約3.8cm）以上になるように設定し直してください。 	29
	デシマルタブ実行時	<ul style="list-style-type: none"> タイプした数字や文字の桁数が印字可能なスペースを越えてしまった。 	<ul style="list-style-type: none"> キャリアをデシマルタブの左に移動するか、新たにデシマルタブを設定してください。 デシマルタブの位置を移動するか、タイプする桁数を減らしてください。 	31 31
	登録済みフレーズ、テキスト印字中	<ul style="list-style-type: none"> 実行できない自動機能が登録済みフレーズ、テキストの中に入っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> [UNDO]キーを押して操作を中止し、必要な項目をチェックしてください。 	46, 50, 60
	その他	<ul style="list-style-type: none"> マージンを越えてタイプしようとした。 	<ul style="list-style-type: none"> [MARGIN RELEASE]キーを押してください。 	20
連続	電源スイッチを入れた時	<ul style="list-style-type: none"> リボンカセット、コレクションテープ、デイジーホイールが正しく取り付けられていない。 異物がタイプライタの中に入っている。 	<ul style="list-style-type: none"> リボンカセット、コレクションリボン、デイジーホイールが正しく取り付けられているかチェックしてください。 異物を取り除いてください。 	8 - 10 7
	訂正時	<ul style="list-style-type: none"> リボンカセット、コレクションテープが使いきられている。 リボンカセット、コレクションテープ、デイジーホイールが正しく取り付けられていない。 	<ul style="list-style-type: none"> リボンカセット、コレクションテープを取り替えてください。 リボンカセット、コレクションリボン、デイジーホイールが正しく取り付けられているかチェックしてください。 	8, 9 8 - 10
関係のないキーランプ点灯			<ul style="list-style-type: none"> 該当するキーを押してランプを消してください。 	27, 29, 31, 32, 35

ディスプレイメッセージ

アラームだけでなく、以下のようにディスプレイ上にメッセージが表示され、タイプライタの操作がしやすくなっています。

メッセージ	内容	対策
□ □ □ □	電池交換が必要。	電池を交換してください。
Already exists!	ユーザ辞書内にすでに登録されている単語を追加しようとした。	_____
Nonexistent!	ユーザ辞書内に登録されていない単語を削除しようとした。	_____
Memory full!	長すぎるフレーズを入力しようとした。または、フレーズ、文書を登録するメモリ容量が十分ない。	フレーズを短くするか、不要なフレーズや文書を削除してください。
Top margin!	現在設定されているトップマージンを越えてキャリアを移動しようとした。または、キャリア/カーソルが自動訂正用メモリの一番最初に達した。	[CODE]キー、[SHIFT]キー、[X]キーを同時に押して、トップマージンの境界を越えてください。
Page end!	キーボードが自動ページエンドでロックした。	[MARGIN RELEASE]キーを押してキーボードロックを解除してください。
Pause!	印字中にストップポジション、またはストップコードに達した。	必要に応じてデータを入力し、[PRINT]キーを押して印字を再開してください。
Illegal command!	登録済文書を印字中に不適切なコマンドが含まれていた。 メールマージ機能を使わずに、マージコードの入った文書を印字しようとした。	[MARGIN RELEASE]キーを押し、不適切なコマンドを消去して、印字を再開してください。
Ribbon End!	リボンカセットが使い切られている。	リボンを交換してください。
Paper jammed!	カットシートフィーダで紙詰まりが生じた。	詰まった紙を取り除き、カットシートフィーダのスイッチを押してフィーダをリセットしてから、[MARGIN RELEASE]キーを押してタイプライタをリセットしてください。

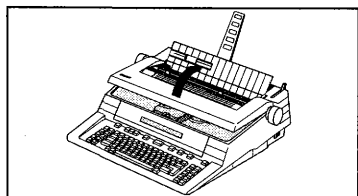
日常の手入れ

日常の手入れは、乾いた布で軽くタイプライタの外部を拭いてください。水や有機溶剤（ケトン、シンナーなど）は絶対に使用しないでください。コレクションローラを掃除する場合は、コレクションテープをはずし（9ページ参照）、布や紙でよごれを拭き取ってください。

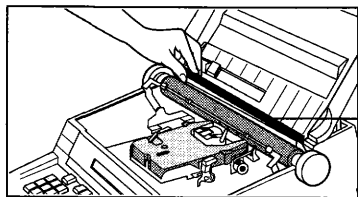
プラテンの着脱

用紙や異物がプラテンに詰まったときは、以下の要領でプラテンを取り外してください。

取り外し：

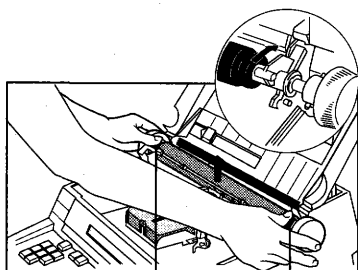


1] タイプライタカバーを開き、ペーパーベイルレバーを手前に引きます。



2] イレーザテーブルを持ち上げて、後ろに倒します。

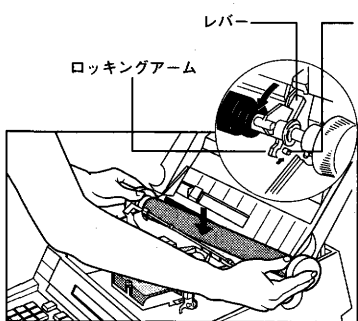
イレーザテーブル



3] 左右のプラテンリリースレバーを向こう側に押し、プラテンをU型ブラケットから取り外します。

4] プラテンノブを持ち、プラテンをまっすぐ上に持ち上げて取り外します。

プラテンリリースレバー



取り付け：

1] ペーパーリリースレバーとロックアームの角度を図のようにしておきます。

2] プラテンノブを持って、プラテンを元の位置に戻します。

3] ロックアームをゆっくりと元の位置に戻します。

4] プラテンノブを回して、プラテンのギアが噛み合っているか、プラテンが所定の位置にきちんとおさまっているか確認します。

5] ペーパーベイルレバーを押して元の位置に戻します。

6] タイプライタカバーを閉めます。

索引

- あ**
 アドレスプリント 42
 アラームが鳴って
 操作できない場合(エラー) 86
 アンダーライン
 (印字スタイル参照) 15
- い**
 1行送り 13
 印字圧 (印字圧モード参照)
 印字圧モード 6,14
 印字された文字の訂正 24-26
 自動訂正 24
 ディスプレイ上での訂正 26
 マニュアル訂正 25
 印字スタイル 6,15,56
 印字ユニット 4
 インターフェースユニット 82
 インデント 29
 ブロックインデント 29
 左インデント 29
- え**
 エクスプレスフォワード
 スペース 18
- お**
 オプション 81-84
 オペレーションモード 6,13
- か**
 改行モード 6,12
 拡張スペース 39
 拡張RAM 82
 各部の名称と機能 4
 重ね印字 39
 カセットリリースレバー(緑色) 8
 カーソル移動 51
 カットシートフィーダ 83
 カードホルダ 4
- き**
 キー配列の変更 76
 キーボードの
 マルチリンガル変換 76-80
 キーボードのレイアウト 5
- キーボードモード 6,14
 CAPS 6
 キャプスロック 6,15
 キャリア 4,17
 移動 18
 位置 17
 キャリアの微量送り 18
 行印字モード
 (オペレーションモード参照)
 強制改ページの挿入 56
 行ピッチモード 6,13
 行末揃えモード 12
- く**
 クイックリファレンス 91-95
 グローバルリプレース 66
- こ**
 コラムレイアウト 32-34
 オリジナルフォーマット
 への復帰 34
 コラム幅 32-33
 実行 33-34
 数字コラム 33
 文字コラム 32
 コレクションテープ 9
 交換 9
 ローラー 9
 コレクションテープの種類 9
- さ**
 サーチ・リプレース 64-66
 再プリント 43
 作表 30-38
 削除
 行 26
 単語 24,26
 ディスプレイ上 26
 登録済フレーズ 50
 登録済文書 61
 文字 24-26
 ユーザ辞書の単語 72
 サブスクリプト 39
- 自動排紙 16
 自動ハイフン 55
 自動封筒フォーマット 6,40
 自動ページエンド 21,44,54
 登録済フォーマット内 44
 登録済文書内 54
 自動枠取り 35
 消耗部品の交換 8-11
- す**
 ストップコード 63
 ストップポジション
 フォーマット 46-48
 スーパースクリプト 39
 スペルコレクション 75
 スペルスキャン 74
 スペルチェッカ/コレクタ 72-75
 スペルチェッカ/
 コレクタパック 81
 スペルチェック 74
- せ**
 センタリング 27-28
 指定点を中心とした
 センタリング 28
 マージン間のセンタリング 27
 タブ間のセンタリング 27
 センターマーク 4
 専用キー 5
- そ**
 その他のマージン機能 23
 ソフトハイフン 55
- た**
 タイトルライブラリ 62
 タイピング開始行
 (トップマージン参照)
 縦線 34
 タブ 22
 クリア 22
 実行 22
 設定 22
- し**
 自動アドレスプリント 42
 自動改行モード 6,12
 自動給紙 16
 自動訂正 24

て		ひ		め	
ディジーホイールの交換	10,14	ビームマーク	4,17	メイン辞書	72
ディスプレイ	4,6,26,51,87	ピッチスケール	4	メールマージ	67-71
ディスプレイ		微量行送り	17	オリジナルレターの作成	70
コントラストの調整	6			実行	71
ディスプレイ上での訂正	26			メールリストの削除	69
ディスプレイ上の記号	51			メールリストの作成	67
ディスプレイ上での		ふ		レコードの削除	69
文書の挿入	26	封筒フォーマット	6,40-41		
ディスプレイの特長	6	プラテン	4,88		
ディスプレイパネル	4	フリーズメモリ	49-50		
ディスプレイメッセージ	87	ブロックオペレーション	57-59	も	
テキストメモリ	6,51-62	移動	58	文字印字モード	13
デシマルタブ	30,31	印字スタイル	59	文字コラム	32
位置確認	31	コピー	58	文字の削除	24-26
クリア	31	削除	59	文字の挿入	26
実行	31	範囲設定	57	文字ピッチ	6,14
設定	31	文頭へのキャリア移動	19	文字ピッチモード	6,14
三桁位取りの設定	30				
電源スイッチ	4				
		へ		ゆ	
		ページエンドロック	21	ユーザ辞書	72-73
と		ページフォーマット	44-45	サイズ変更	73
登録済フレーズ	6,49-50	登録済文書内		単語の印字	73
印字	50	ページフォーマットの変更	54	単語の追加・削除	72
削除	50	ペーパーサポート	4		
登録	49	ペーパーベイル	4		
入力	49	ペーパーリリースレバー	4		
登録済文書	60-62			よ	
印字	60			用紙の行送り・行戻し	17
コピー	62	ほ		1/4行	17
削除	61	ホットゾーン	23	微量行	17
タイトル変更	61	登録済ページ			
登録	52	フォーマット内	45		
入力	52	ボールド文字	5,15,56		
編集	52-59			り	
特殊文字	39			リボン送りダイヤル	9
トラブルシューティング	85			リボンカセット	8
取扱上の注意	7			リボンの種類	9
				リボンの上下時間の調整	8
				両方向印字	60
		ま			
に		巻取側スプール	9		
2行送り	6,13	マージン	20,44,45,54	わ	
日常の手入れ	87	トップマージン	20,44,54	粹取り	35-38
		左マージン	20,45,54	自動	35
		ページエンド	21,44,54	マニュアル	36-38
		右マージン	20,45,54	ワードラップ	23
		マージンリリース	20		
は		マニュアル改行モード	12		
ハイフンサーチ	55	マニュアル訂正	25		
バックスペース	18				
エクस्प्रेसバック					
スペース	18	み			
ハーフバックスペース	18	右寄せ	28		
バックトレース	19				
パーマネントスペース	23				

クイックリファレンス

各機能のキー操作や手順を簡単にまとめました。キー操作や手順などがわからないときは、このページを参照してください。

インデント(29ページ)

- 左インデント:
[INDENT]
[INDENT]で解除
- ブロックインデント:
[CODE]+[INDENT]
[INDENT]で解除

拡張スペース(39ページ)

[CODE]+[X]

重ね印字(39ページ)

[CODE]+[I]

コラムレイアウト(32-34ページ)

- コラム幅の設定:
[LAYOUT]
3文字分のスペースで割り振る時:
[LAYOUT]の後に[CENTER]
その後/または
文字コラムの設定:
一番長い語句をタイプ
[TAB SET]
数字コラムの設定:
一番長い整数部をタイプ
[CODE]+[TAB SET]
一番長い小数部をタイプ
[TAB SET]
設定完了:
[LAYOUT]
- コラムレイアウトの実行:
コラム間にスペース設定がない場合:
[TAB]+[INDENT]
その後/または
最初の文字または数字をタイプ
次のコラムが文字コラムの場合:[TAB]
または
次のコラムが数字コラムの場合:[DEC TAB]
次のコラムをタイプ
最後の語句または数字をタイプしてから[RETURN]
- 設定前のフォーマットに戻る:
[CODE]+[Z]

サーチ (検索) ・ リプレース (置き換え) (64-66ページ)

- サーチ (検索):
[CODE]+[R]
検索する語句をタイプ
[RIGHT MARGIN]
必要に応じて語句を修正
[RIGHT MARGIN]で検索を続行
- サーチ (検索) ・ リプレース (置き換え):
[CODE]+[R]

検索する語句をタイプ

[☆]

置き換える語句をタイプ

[RIGHT MARGIN]で一つの検索語句を表示

[LEFT MARGIN]で語句を置き換え

その後/または

[RIGHT MARGIN]で検索を続行

- グローバルリプレース (全検索と置き換え):

[CODE]+[R]

検索する語句をタイプ

[☆]

置き換える語句をタイプ

[CODE]+[LEFT MARGIN]で語句を置き換え

サブスクリプト(39ページ)

[CODE]+[O]

自動アドレスプリント(42ページ)

タイプ

キャリアを再印字する最初の文字に移動

[☆]

キャリアを再印字する最後の文字に移動

[☆]

キャリアを新しい印字位置に移動

[CODE]+[PRINT]

自動再プリント(43ページ)

タイプ

[CODE]+[PAPER INSERT]

用紙をプラテンの向こう側にセット

[PAPER INSERT]

[PRINT]

自動排紙(16ページ)

[CODE]+[PAPER INSERT]

自動封筒フォーマット(40-41ページ)

- 設定:

[CODE]+[Ⓢ]

01-55をタイプするか給紙してトップマージンを設定

[→]

左右マージン:

[LEFT MARGIN]/[RIGHT MARGIN]でマージン設定

[→]

キャプスロック:

[RETURN]で変更

設定完了:

[☆]

- 使い方:

封筒をセット

[Ⓢ]

タイプ/印字

[Ⓢ]

自動ページエンド(21ページ)

[PAPER INSERT] (必要に応じて)

[CODE]+[F]

04-99をタイプするか給紙

[☆]

- ページエンドロックのオン/オフ:

[CODE]+[F]

[☆] (オン) または [CODE]+[SHIFT]+[F] (オフ)

ストップコード(63ページ)

- 入力:

[CODE]+[J]

メッセージをタイプ

[CODE]+[J]

タイプ続行

- 印字:

[PRINT]

挿入データをタイプ

[PRINT]

ストップポジションフォーマット(46-48ページ)

- 登録:

[FORMAT]

[2]

新しいタイトルをタイプ

[☆]

キャリア移動

[TAB SET]

[FORMAT]

- 使い方:

[FORMAT]

[2]

タイトルをタイプ

[☆]

書式・用紙を給紙して、位置を正しく揃える

[☆]

挿入する情報をタイプ

[☆]

[FORMAT]

- 削除:

[CODE]+[FORMAT]

タイトルをタイプ

[☆]

[☆]で削除

スーパースクリプト(39ページ)

[CODE]+[P]

スペルチェッカ/コレクタ(74-75ページ)

- スペルチェック:

[CODE]+[1]

タイプ

必要に応じて修正

- スペルスキャン:

[CODE]+[RELOC]

[CODE]+[4]

必要に応じて修正

[CODE]+[4]でスキャン続行

- スペルコレクション:

[CODE]+[1]

タイプ

[CODE]+[5]

[RETURN]で他の候補選択

その後/または

[☆]で語句を置き換え

タイプ続行

センタリング(27-28ページ)

- マージン間のセンタリング:

キャリアを左マージンに移動

[CENTER]

センタリングしたい文書をタイプ

[RETURN]

- タブ間のセンタリング:

キャリアを左側のタブに移動

[CENTER]

[TAB]

センタリングしたい文書をタイプ

[TAB]

[RETURN]

- 指定点を中心としたセンタリング:

キャリアをセンタリングしたい位置に移動

[CENTER]

センタリングしたい文書をタイプ

[TAB]または[RETURN]

タイプ中のキャリア移動(13ページ)

[CODE]+[Q]

縦線(34ページ)

[CODE]+[I]

[REPEAT]

タブ(22ページ)

- 設定:

[TAB SET]

- 実行:

[TAB]

または[CODE]+[TAB]

- 特定タブのクリア:

[TAB]

[TAB CLR]

- すべてのタブのクリア:

[CODE]+[TAB CLR]

訂正(24-26ページ)

- 文字/単語の自動訂正:

[< >]/[CODE][< >]

[< >]

- 文字/単語のマニュアル訂正:

[CODE]+[RELOC]

[CODE]+[SHIFT]+[X]でキャリアをメモリ範囲の外に移動

キャリアを削除したい文字/単語に移動

[⊗]

削除したい文字/単語をタイプ

正しい文字をタイプ

[RELOC]

• ディスプレイ上での削除:

キャリアを削除したい文字/単語の右に移動

[⊗]/[CODE]+[⊗]

[RELOC]

行の削除:

[CODE]+[L]

• ディスプレイ上での文字の挿入:

挿入したい位置のすぐ右にカーソルを移動

挿入文字をタイプ

[RELOC]

テキストメモリ(51-62ページ)

• 入力・登録:

[TEXT]

新しいタイトルをタイプ

[☆]

文書をタイプ

[TEXT]

• 呼び出し・編集:

[TEXT]

タイトルをタイプ

[☆]

文書を修正

[TEXT]

自動ハイフン:

[CODE]+[SHIFT]+[Y]

印字スタイルの変更:

[CODE]+[U]

[X X / XX][XX]

[→][←]

[☆]で操作終了

ページフォーマットの変更:

[FORMAT]

トップマージンの設定 (01-55をタイプ)

[→]

ページエンドを設定 (04-99をタイプ)

[→]

[RETURN]で行送りを設定

[→]

[RETURN]でピッチを設定

[→]

左右マージン、タブ等を設定

[☆]で設定登録

ハイフン検索:

[CODE]+[Y]

[←]

[→]または[CODE]+[←]

フレーズの挿入:

カーソルを挿入位置に移動

[PHRASE]

挿入フレーズのタイトル (A-Z) をタイプ

[PRINT]

強制改ページの挿入:

[CODE]+[V]

ソフトハイフン:

[CODE]+[←]

• ブロックオペレーション:

ブロックの範囲設定:

カーソルをブロックの先頭に移動

[BLOCK]

カーソルをブロックの最後に移動

[☆]

ブロックコピー:

ブロックを指定

挿入位置にカーソルを移動

[TAB SET]

[BLOCK]

ブロックの移動:

ブロックを指定

新しい挿入位置にカーソルを移動

[TAB CLR]

[BLOCK]

ブロックの削除:

ブロックを指定

[⊗]

[BLOCK]

ブロック内の文字スタイルの変更:

ブロックを指定

[X X / XX]または[XX]

[BLOCK]

• 印字:

[PRINT]

両方向印字:

印字前に[CODE]+[CODE]+[SHIFT]+[B]

強制改ページのある文書の印字:

[MARGIN RELEASE]

[CODE]+[PAPER INSERT]

[PAPER INSERT]

[PRINT]

• 削除:

[CODE]+[TEXT]

[1]

タイトルをタイプ

[☆]

[☆]で削除

• 文書タイトルの変更:

[CODE]+[TEXT]

[2]

変更するタイトルをタイプ

[☆]

新しいタイトルをタイプ

[☆]

• 文書のコピー:

[CODE]+[TEXT]

[3]

コピーする文書のタイトルをタイプ

[☆]

新しいタイトルをタイプ

[☆]

● タイトルライブラリの印字:

[CODE]+[SHIFT]+[PRINT]

デシマルタブ(30-31ページ)

● 三桁位取りの設定:

[CODE]+[CODE]+[SHIFT]+[P]

位取りの位置を選択 (1-3) または[RETURN]

[→]で設定完了し位取りの文字設定に進む

または

[☆]で終了

位取りの文字設定:

./,/のいずれかをタイプ、または[RETURN]

[☆]で終了

● 設定:

[CODE]+[TAB SET]

● 実行:

[DEC TAB]

数字をタイプ

[DEC TAB]/[TAB]/[RETURN]

● デシマルタブの位置確認:

[CODE]+[DEC TAB]

● 特定のデシマルタブのクリア:

[CODE]+[DEC TAB]

[TAB CLR]

● すべてのデシマルタブのクリア:

[CODE]+[TAB CLR]

トップマージン(20ページ)

用紙をセット (必要に応じて)

[CODE]+[S]

01-55をタイプするか給紙

[☆]

パーマネントスペース(23ページ)

[CODE]+[B]

フレーズメモリ(49-50ページ)

● フレーズの登録・入力:

[PHRASE]

新しいタイトルをタイプ(A-Z)

[☆]

フレーズをタイプ

[RETURN]

[PHRASE]

● フレーズの印字:

[PHRASE]

タイトルをタイプ(A-Z)

[PRINT]

● フレーズの削除:

[CODE]+[PHRASE]

タイトルをタイプ(A-Z)

[☆]

[☆]で削除

● タイトルライブラリの印字:

「テキストメモリ」を参照のこと

ページフォーマット (メモリ) (44-45ページ)

[FORMAT]

[1]

1-5をタイプ

トップマージン:

01-55をタイプまたは給紙

[→]

ページエンド:

04-99をタイプまたは給紙

ホットゾーン:

0-9をタイプ

[→]

マージン、タブ:

通常の方法でマージン、タブ、デシマルタブを設定

設定完了:

[☆]

登録済フォーマットの実行:

[FORMAT]

[1]

1-5をタイプしてページフォーマットを選択

[☆]

ホットゾーン(23ページ)

[CODE]+[H]

1-9をタイプ

[☆]

ホットゾーンのオン/オフ:

[CODE]+[SHIFT]+[H]

マルチリンガル変換(76-80ページ)

● ディスプレイメッセージとキー配列の変更:

[CODE]+[N]

[RETURN]

[☆]

[RETURN]

[☆]

初期設定に戻る:

[☒]

右寄せ(28ページ)

[CENTER]

[RIGHT MARGIN]

タイプ

[RETURN]

メールマージ(67-71ページ)

● メールリストの作成:

[TASK]

[1]

[1]

新しいタイトルをタイプ

[☆]

1-9をタイプ

[☆]

最初のフィールドをタイプ

[+]

次のフィールドをタイプ

[TAB CLR]で次のレコードに進む

[TASK]で操作終了

メールリストの呼び出し:

[TASK]

[1]

[1]

タイトルをタイプ

[☆]

● レコードの削除:

メールリストの呼び出し

[TAB CLR]/[TAB SET]で削除するレコードを選択

[CODE]+[SHIFT]+[⊗]で削除

[TASK]

メールリストの削除:

[TASK]

[1]

[2]

タイトルをタイプ

[☆]

[☆]で削除

● オリジナルレターの作成/登録:

[TEXT]

新しいタイトルをタイプ

[☆]

タイプ

マージ位置で[CODE]+[G]

フィールド番号 (1-9) をタイプ

[☆]

タイプ

[TEXT]

メールマージ実行前のレターの印字:

[TEXT]

タイトルをタイプ

[☆]

[☆]

● メールマージの実行:

[TEXT]

レターのタイトルをタイプ

[PRINT]

メールリストのタイトルをタイプ

[☆]

メモリ残量の確認(51ページ)

[CODE]+[M]

ユーザ辞書(72-73ページ)

● 単語の追加:

[CODE]+[2]

● 単語の削除:

[CODE]+[3]

● 単語リストの印字*:

[CODE]+[8]

● サイズの変更*:

[CODE]+[7]

[→]または[←]

[☆]

枠取り(35-38ページ)

● 自動:

[FRAME]

キャリアを「ホームポジション」に移動

[TAB SET]

キャリアを次の縦線の位置に移動

[TAB SET]

[CODE]+[RETURN]

キャリアを次の横線の位置に移動

[TAB SET]

[☆]

● マニュアル:

縦線用のマージンとタブを設定

[KBII] (必要に応じて)

最初の横線:

[FRAME]

キャリアを「ホームポジション」に移動

[LOCK]

[←]

[REPEAT]

[TAB]

[SHIFT]

最初の縦線と長さの設定:

[]

[REPEAT]

[☆]

各縦線の印字:

[TAB]

[]

[REPEAT]

[TAB]

各横線の印字:

[LOCK]

次の横線の位置に移動

[←]

[REPEAT]

枠取り完成後:

[FRAME]

*印は、拡張RAM装着時にのみ機能します。

製品仕様

印字エレメント：	デージーホイール96文字
印字速度：	最高20文字/秒（両方向）
文字ピッチ：	10文字/インチ 12文字/インチ 15文字/インチ
	PS 1 PS 2
リボンカセット：	コレクタブル、マルチストライク、ファブリック、 シングルストライク
コレクションテープ：	リフトオフ、カバーアップ
行ピッチ選択：	¾, 1, 1½, 2行
用紙幅：	最大381mm
印字幅：	最大297mm
ディスプレイサイズ：	40文字/行
コピー枚数：	オリジナル1枚とコピー6枚（最高）
キーボード：	46キー
キーバッファ：	100文字
キーピッチ：	19.05mm
キーストローク：	3.5mm
メモリ容量：	20KB
自動訂正：	最大4,000文字まで
スペルチェッカ*：	米語:50,000語
ユーザ辞書：	300語
電源：	AC100V 45W 50-60Hz
使用温度範囲：	10℃ -35℃
使用湿度範囲：	20%-85%
寸法：	491（幅）mmx487（奥行き）mmx168（高さ）mm
重量：	12.3kg
オプション：	スペルチェッカ/コレクタパック シリアルインターフェースAP-IF03 パラレルインターフェースAP-IF43 カットシートフィーダAP-CF40 拡張RAM 最大96KB

仕様及び規格は予告なしに変更することがあります。

* Spelling software developed by Houghton Mifflin Company, Publishers of the American Heritage Dictionary.

商品構成

本タイプライタの付属部品は以下の通りです。

- リボンカセット（コレクタブル）1個
- コレクションテープ（リフトオフ）1個
- デージーホイール
- 使用説明書
- 単3乾電池（3本）
- 保証登録書
- キヤノンお客様ご相談窓口一覧表
- 電源コード
- ダストカバー



CANON BUSINESS MACHINES, INC.

3191 Red Hill Avenue, Costa Mesa, CA 92626-3498, U.S.A.

CANON INC.

7-1, Nishi-shinjuku 2-chome, Shinjuku-ku, Tokyo 163, Japan
P.O. Box 5050, Shinjuku Dai-ichi Seimei Building, Tokyo 163, Japan

CANON U.S.A., INC.

HEADQUARTERS One Canon Plaza, Lake Success, NY 11042-1113, U.S.A.
NEW JERSEY 100 Jamesburg Road, Jamesburg, NJ 08831-1904, U.S.A.
CHICAGO 100 Park Boulevard, Itasca, IL 60143-2693, U.S.A.
LOS ANGELES 15955 Alton Parkway, Irvine, CA 92718, U.S.A.
ATLANTA 5625 Oakbrook Parkway, Norcross, GA 30093-1847, U.S.A.
DALLAS 3200 Regent Boulevard, Irving, TX 75063-3145, U.S.A.
WASHINGTON D.C. Government Marketing Center, 5701 General Washington Drive,
Alexandria, VA 22312-2488, U.S.A.

CANON CANADA INC.

HEAD OFFICE 6390 Dixie Road, Mississauga, Ontario, L5T 1P7, Canada
CALGARY 2828, 16th Street, N.E. Calgary, Alberta, T2E 7K7, Canada
MONTREAL 10652 Côté de Liesse, Lachine, Quebec, H8T 1A5, Canada

CANON EUROPA N.V.

Bovenkerkerweg 59-61, P.O. Box 2262, 1180 EG Amstelveen, The Netherlands

CANON FRANCE S.A.

Division Ecriture, 93154 Le Blanc Mesnil, Cedex, France

CANON U.K. LTD.

Canon House, Manor Road, Wallington, Surrey, SM6 0AJ, England

CANON DEUTSCHLAND GMBH

Betriebzweig Süd, Fraunhoferstrasse 14, D-80333 München-Martinsried, Germany

CANON LATIN AMERICA, INC.

Calle 50 y 60 URB. Obarrio Edit. CANON, Panama Republic of Panama
SALES DEPARTMENT P.O. Box 7022, Panama 5, Rep. of Panama
REPAIR SERVICE CENTER P.O. Box 2019, Colon Free Zone, Rep. of Panama

CANON HONG KONG TRADING CO., LTD.

10th Floor, Mirror Tower, 61 Mody Road,
Tsimshatsui East, Kowloon, Hong Kong

CANON SINGAPORE PTE., LTD.

95 South Bridge Road #13-01/15, Pidemco Centre, Singapore 0105

CANON AUSTRALIA PTY. LTD.

1 Thomas Holt Drive, North Ryde, Sydney, N.S.W. 2113, Australia